令和７年度 専修学校の国際化推進事業
「外国人留学生の戦略的受入れ、円滑な就職および定着に向けた体制整備」
自動車整備分野の外国人留学生（受入れ／在学／就職／定着）エンロールメント・マネジメントモデル事業（略称：自動車整備留学生ＥＭ事業）

成果報告書

学校法人ＹＩＣ学院 〈専〉ＹＩＣ京都工科自動車大学校

はじめに

本事業は、文部科学省の委託事業「専修学校の国際化推進事業」の一環として、専修学校における外国人留学生の戦略的受入れから、円滑な就職、そしてその後の定着までを見据えた「企業連携モデル」を構築し、国際化に向けた体制整備を図るものです。

令和 6 年度から令和 9 年度までの 4 年間を通じ、入国から定着までの一貫したモデルプログラムの確立を目指しています。

昨年度より、我々は日本の基幹産業を支え、かつ人材不足が深刻な「自動車整備分野」をモデルとして開発に着手いたしました。

日本の自動車が高い信頼性を維持している背景には、質の高いメンテナンスや検査体制があり、それを支える自動車整備士の存在は不可欠です。

少子高齢化による若年労働人口の減少という課題に対し、日本の優れた技術・検査体制を継承していくためには、外国人整備士の養成、教育機関（専門学校）、そして雇用を担う企業が緊密に連携し、入学から定着までをパッケージ化した EM（Enrollment Management）モデルの構築が急務となります。

外国人留学生が安心して学び、働くためには、日本特有の環境整備（啓蒙活動、日本語能力の獲得、入国手続、生活・学習支援、就労・定着支援など）が欠かせません。

そのため、国内外の日本語学校、留学生受入れに意欲的な専修学校、採用に熱心な企業、関連団体、有識者等の知見を集約したコンソーシアムを組織し、PDCA サイクル（受入れから就職・定着までの 4 年間）を回しながら検証を重ねてまいります。

本事業の 2 年目となる令和 7 年度は、昨年度実施した各段階（日本語学校・専修学校・企業等）における環境調査や課題抽出の結果を踏まえ、より実践的なフェーズへと移行いたしました。

具体的には、昨年度開発に着手した日本語・専門教育を補完するための AI チャットボットの精度向上を図るための実証実験とログ管理調査、各教育段階における日本語能力を含めた基礎学力の国別格差調査等を本格的に推進してまいりました。

この成果が多くの日本語学校・専門学校・企業・留学生の指針となり、教育活動の一助となれば幸いです。

事業責任者
学校法人 YIC 学院 <専>YIC 京都工科自動車大学校
校長 佐々木 章

目 次 ▶

はじめに

第１章 事業概要

１．事業の趣旨・目的 ---------- 3
２．当該地域において取組を進める意義 ---------- 3
（１）外国人留学生の受入れ等の推進に向けたターゲット分野と国（地域） ---------- 3
（２）外国人留学生数の推移と当校の外国人留学生在籍状況 ---------- 3
（３）外国人留学生への当該地域の行政機関のサポート環境 ---------- 5
３．実施する取組の具体的内容 ---------- 5
（１）入学前 ---------- 5
（２）在学中【教育指導】 ---------- 7
（３）在学中【在籍管理、生活支援サポート】 ---------- 8
（４）就職・定着支援 ---------- １０
４．開発する講座の概要（対話型音声アプリ） ---------- １１
（１）初級編（海外の日本語学校学生向け） ---------- １１
（２）中級編（日本国内の日本語学校学生向け） ---------- １２
（３）上級編（自動車整備系専門学校学生・社会人向け） ---------- １２
５．構成機関・構成員等 ---------- １２
（１）教育機関と役割・協力事項 ---------- １２
（２）企業・団体と役割・協力事項 ---------- １３
（３）行政機関と役割・協力事項 ---------- １４
（４）実施体制イメージと各会議体の役割 ---------- １５
（５）各会議体の構成委員 ---------- １５
①企画推進委員会 ---------- １５
②モデル開発 WG ---------- １８
③課題分析 WG ---------- ２０
④実証実験 WG ---------- ２１
６．令和７年度取り組み概要(計画) ---------- ２３
（１）日本国内日本語学校のねらい ---------- ２３
（２）自動車整備系専門学校のねらい ---------- ２６
（３）実証実験概要 ---------- ２９
①日本国内日本語学校 ---------- ２９
②自動車整備系専門学校 ---------- ２９
（４）対話型音声ＡＩアプリ開発 ---------- ３０
７．会議実績 ---------- ３１

第２章　令和７年度活動詳細

１．実証実験（要項） ----------３５
（１）日本国内日本語学校 ----------３５
①ＹＩＣ京都日本語学院（京都） ----------３５
②京都民際日本語学校（京都）----------４３
③日本語学校トータル結果 ----------５３
（２）自動車整備系専門学校 ----------５９
①〈専〉ＹＩＣ京都工科自動車大学校（京都） ----------５９
②専門学校穴吹工科カレッジ（香川） ----------７０
③自動車整備系専門学校トータル結果 ----------８３
２．対話型音声ＡＩアプリ開発 ----------８９

第３章　まとめ（成果）

１．実証実験（成果） ----------９３
（１）実施目的と実施期間 ----------９３
（２）実施先 ----------９３
（３）アンケート・基礎学力試験結果から導き出した考察 ----------９４
①日本国内日本語学校 ----------９４
②自動車整備系専門学校 ----------９５
③日本国内日本語学校から自動車整備系専門学校に進学した際の成績の伸び率 -----９７
２．対話型音声ＡＩアプリ開発（デモ版） ----------９７
３．考察 ----------９８
４．令和７年度の成果及び次年度の活動について ----------９８
（１）令和７年度成果 ----------９８
①日本国内日本語学校実証実験 ----------９８
②自動車整備系専門学校実証実験 ----------９８
③対話型音声ＡＩアプリ改善 ----------９９
（２）次年度の活動 ----------９９

第４章会議録

会議録 ----------１０３
対話型音声ＡＩアプリを使用した実証実験テキスト ----------１３４

第１章　事業概要

第１章 事業概要

１．事業の趣旨・目的

【趣旨】

外国人留学生を受け入れるためには「留学を目指すための啓発活動」「日本語能力獲得」「入国関係」「日本での学習と生活環境」「就労環境・働き方」などの外国人特有の様々な環境整備が必要となる。

そのためには、我が国日本で安心して学び、就労できるルートと環境を用意する必要があるが、外国人留学生が日本国内の専門学校へ入学する際、母国または日本にて日本語を学んでいるが専門分野への進学を目指した日本語の習得とは言い難い。この事業を通して、日本の自動車産業へ就職するためのキャリア形成のあり方（学び方）を示す。はじめから自動車整備分野を目指すための日本語習得とレベル認定の習得（JLPT)、ライセンス（整備士資格）の獲得へと、留学・進学～就職という独自の職業ブランドを確立し、恒久的な人材と就労の確保を目指す必要がある。

【目的】

「日本の基幹産業である自動車産業、日本の自動車の高品質や安全性」

耐久性等高い信頼性を確保しているのは、メンテナンスや検査体制等、それを支えている自動車整備である。日本の少子高齢化に伴う若年層の就労人口減は顕著であり、自動車整備士も例外ではなく、日本の優れた検査体制を維持するには、外国人の整備士養成とそれを担う養成施設の専門学校、雇用を担う企業と緊密な連携のもとに入学から教育、就職から定着の一貫した環境整備のプログラムが必要であり、本事業はその EM モデルを開発することを目的とする。

２．当該地域において取組を進める意義

（１）外国人留学生の受入れ等の推進に向けたターゲット分野と国（地域）

①ターゲット分野：自動車整備士

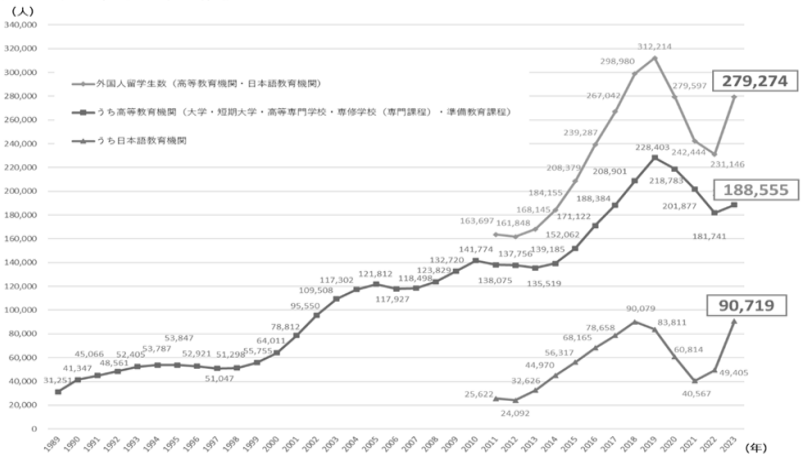
②ターゲット国（地域）：ミャンマー、ネパール、スリランカ

（２）外国人留学生数の推移と当校の外国人留学生在籍状況

下図に示す通りコロナ感染症による入国制限が撤廃されて以降、再び留学生の人数が増加しているが、増減率を見ると出身国によって違いが出ており、当初は人数の多かったベトナムがマイナスに転じる一方で、ネパール・スリランカ・ミャンマー・バングラディッシュの増加は顕著である。また本校に求人を頂いている企業・採用担当者からは先の４ヵ国の中ではネパール・ミャンマー・スリランカ出身の学生の評価と人気が高い。理由としては日本語の発音と国民性（性格）が挙げられている。

（出典及び留学生の定義）（独）日本学生支援機構（JASSO）「外国人留学生在籍状況調査」
　本調査の対象は、各年５月１日時点において、在留資格「留学」により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）、我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設及び日本語教育機関に在籍している外国人学生をいう。
JASSO HP：https://www.studyinjapan.go.jp/ja/statistics/enrollment/

図：外国人留学生数の推移



主な出身国（地域）別留学生数　　（各年５月１日現在）

No.	国・地域	留学生数		前年比増減	
		2023 年	2022 年	人数	増減率
1	中国	115,493	103,882	11,611	11.2%
2	ネパール	37,878	24,257	13,621	56.2%
3	ベトナム	36,339	37,405	△ 1,066	△ 2.8%
4	韓国	14,946	13,701	1,245	9.1%
5	ミャンマー	7,773	3,813	3,960	103.9%
6	台湾	6,998	5,015	1,983	39.5%
7	スリランカ	6,819	3,857	2,962	76.8%
8	インドネシア	6,552	5,763	789	13.7%
9	バングラデシュ	5,326	3,313	2,013	60.8%
10	アメリカ合衆国	4,076	1,655	2,421	146.3%
－	その他	37,074	28,485	8,589	30.2%
	合計	279,274	231,146	48,128	20.8%

在学段階別留学生数　（各年５月１日現在）

		2023 年（人）	2022 年（人）	前年比（人）	前年比（%）
大学	博士課程	19,233	18,575	658	3.5
	修士課程（専門職学位課程含む）	30,990	30,299	691	2.3
	大学院非正規	5,316	4,248	1,068	25.1
	学部・短大（専門職大学・短大含む）	65,319	66,956	△1,637	△2.4
	学部・短大非正規（専門職大学・短大含む）	16,998	6,954	10,044	144.4
大学　計		137,856	127,032	10,824	8.5
高等専門学校		501	480	21	4.4
専修学校（専門課程）		46,325	51,955	△5,630	△10.8
準備教育課程		3,873	2,274	1,599	70.3
高等教育機関　計		188,555	181,741	6,814	3.7
日本語教育機関		90,719	49,405	41,314	83.6
総計		279,274	231,146	48,128	20.8

当校をはじめ、本事業協力校においてもターゲット国の留学生が増加傾向。

（３）外国人留学生への当該地域の行政機関のサポート環境

京都府では、外国人留学生誘致・支援を積極的に取り組んでいる。留学生スタディ京都ネットワークは、京都府、京都市、京都の大学、専修学校、日本語学校、企業、経済・業界団体、NPO、国際交流団体などにより、平成２７（２０１５）年５月に設立され、留学生の誘致及び受入体制の整備をオール京都体制で推進しており、海外向け京都留学総合ポータルサイトの運営や国内外での留学生誘致活動、留学生向け有給インターンシップや住宅情報サイト「Kyoto Housing Search for International Students」などの受入環境整備などに取り組んでいる。

また、留学生の支援体制、関係施設の紹介も積極的に行っており、京都駅前にある京都府国際センターや、京都市内にある京都市国際交流会館では、留学生のための生活相談や出入国の手続きの相談も行っている。このように、京都地域全体で留学生のサポート体制を推進している。

連携を予定している教育機関のある四国や九州の地域も留学生の受入れに積極的であり教育や生活、就職など幅広いサポート体制を推進している。

３．実施する取組の具体的内容

入学前～在学中（教育指導・在籍管理・生活支援サポート）～就職・定着支援といった様々な段階における必要な環境整備のモデル開発を行う。

（１）入学前

外国人留学生が我が国の専門学校に進学・入学する前に受入れ環境整備について整理し、外国人留学生や教職員の負担軽減のベースとなる骨子案の方向性を見出す。

■現状の確認

・現在の日本語学校の学習環境で習得し、卒業した外国人留学生が実際に専門学校入学してくると求められている習得レベルとは大きな乖離がある。

・本来、示されている日本語資格レベルより日本語能力が低いため、日本国内の専門学校の環境や日常生活に馴染みづらい外国人留学生が増加してきている。
・専門学校教員の負荷を軽減が必要（専門学校入学から約３カ月～６カ月間の教員一人当たりの負担約１．５時間／日）。等

■周知と留学ルートの確保
・日本の自動車整備士資格取得に向けた必要な日本語レベルを現地と日本国内の日本語学校への周知。
・外国籍労働者への我が国の自動車関連企業の就職や待遇状況提供による日本への留学ルートの確保。等

■調査実施年度
・令和６年度

～課題と具体的なタスク内容～

【課題１．外国人留学生確保のための外国から日本への留学ルートの確保】

〈具体的なタスク内容〉

■送り出し国（ターゲット国）の調査（東南アジア・日本語教育機関）
・現地の日本語学校での日本語レベル調査：卒業時点の日本語レベル
・当該地域の支援サポートの存在（出入国・留学資格取得のためのサポートなど）
・自動車関連企業への興味・関心度調査（就職希望等含む）など（３校実施予定）

【課題２．留学生受入れのための環境整備（その１）：現地日本語学校、日本国内の日本語学校との連携、専門学校入学前事前学習の導入による日本語能力レベルアップなど】

〈具体的なタスク内容〉

■日本語レベル向上のための協働連携
・現地と日本語国内の日本語学校との協働連携（出入国・留学資格取得のサポートなど）
・外国人留学生の受入れ環境整備含めた教育プログラム提案と改善等の検討など

■自動車整備教育機関調査（現況と今後）
・日本語能力の入学レベルの現況調査：受け入れるために必要な日本語レベルを持って入学している学生はどの程度の割合、入学後の日本語レベルが足りない学生の対応、最低限望む日本語能力レベル、基礎的な専門用語の習得についてなど
・受け入れ環境：学内環境の課題、日本語学校とのやり取りに関する課題など（３校実施予定）

■自働車関連企業調査（求人・在籍等）
・外国人留学生の受入れについて：採用の有無、採用数、今後の展開、現状の受け入れ態勢状況と課題・改善点（労務環境・福利厚生など）
・自動車整備系専門学校に求めること：日本語レベル、整備士（技術習得）レベル、勤続年数に関することなど（２社実施予定）

■受入れ～就職・定着のキャリア・マップモデル骨子案作成

・各調査の結果を参考に、キャリア・マップモデル骨子案を作成など

・ゲーミフィケーション、e-learning 骨子検討など

■入学前準備補助教材アプリ開発案の作成（シラバス・コマシラバス骨子案開発）

・専門学校入学前までに必要な自動車整備分野の基礎的な専門用語含む日本語スキルの習得、コミュニケーション、メンタルケアといったコンテンツで外国人留学生に留まらず、教職員や企業の従業員も対象となるような内容を考えていくなど

（２）在学中【教育指導】

入学前の骨子案をブラッシュアップし開発。実証実験の反応から検証を重ねる。また、企業連携による企業インターンシップの検討と開発、実証実験を実施。

■現状の確認（実証実験による評価の確認）

・日本語学校に自動車整備士系の専門学校から求められている日本語レベル

・日本語学校が卒業生を送り出している日本語能力レベルの確認（十分か足りていないかの把握）

・教職員における日本語指導の負担軽減に寄与するかの確認　等

■周知と留学生確保増

・日本の自動車整備士資格取得に向けた必要な日本語レベルを現地と日本国内の日本語学校への周知

・必要な日本語能力を知ることで現地と日本国内日本語学校自体も強みを生かす環境を作り出すことができ、連携強化につなげ、留学生増を図る

・日本の自動車関連企業における自動車整備士業として働くイメージ強化　等

■実施年度

・令和７～９年度

～課題と具体的なタスク内容～

【課題１．留学生受入れのための環境整備（その１）：現地日本語学校、日本国内の日本語学校との連携】

〈具体的なタスク内容〉

■日本語学校における実証実験と課題抽出と改善点の明確化（シラバス・コマシラバス開発）

・テキスト骨子案の作成、自動車整備分野へ進むための日本語レベルの周知・指導

・実証実験による入学前事前学習教材の活用における知識の定着・指導方法など

※受講学生・講師アンケート実施

【課題２．留学生受入れのための環境整備（その２）：自動車整備士養成施設の専門学校の環境整備】

〈具体的なタスク内容〉

■専門学校における実証実験と課題抽出と改善点の明確化（シラバス・コマシラバス開発）

・テキスト骨子案の作成、意欲的に外国人留学生受入れ対応に関する専門学校教職員教育体制の指導
・外国人留学生の理解度に対する教育方法のアドバイス（成績が思わしくない学生に対するアプロ―チ方法など）
・外国人留学生の学校生活に関する相談の受け方、メンタル面を踏まえた接し方（充実した行政サポートの利活用など）
・教職員へのメンタルケアなど　※受講学生・教職員アンケート実施など

【課題３．留学生受入れのための環境整備（その３）：専門学校と企業との連携体制の構築（実証実験による連携強化）】

〈具体的なタスク内容〉

■企業連携授業実証実験と課題抽出と改善点の明確化（シラバス・コマシラバス開発）
・企業連携授業インターン・プログラム開発、テキスト骨子案の作成
・外国人留学生受入れ対応に備える体感授業：専門学校の教場で講師となって座学・実習を行い、自動車整備士を目指している外国人留学生がどのような反応をするかなどを体験・体感してもらい、外国人留学生を採用する際に備えてもらう実証実験
・社員教育のメンタル部分や学び直しの補助教材として、開発する入学前事前学習教材の導入の検討を促すなど　※受講学生・講師アンケート実施

■教育内容に関する企業評価調査（外国人留学生の就業者数増加を目論見）
・開発したシラバス・コマシラバスの内容に対して、企業の評価を伺う
・体感授業を求める企業を増やし、外国人留学生の就業者数の安定を恒久的に導く一助とするなど

■受入れ～就職・定着のキャリア・マップモデル作成
・各調査と実証実験の結果を参考に、キャリア・マップモデルを作成など

■入学前準備補助教材アプリの開発
・実証実験の結果をもとに、さらなるブラッシュアップを図り、検討・改良を行うなど

■就職前準備補助教材アプリ開発案の作成（シラバス・コマシラバス骨子案開発）
・企業連携による社会人となった際にコミュニケーションをとるために必要な日本語能力レベル、外国籍社員に対しての指導方法のケーススタディなど
・実証実験の結果をもとに、さらなるブラッシュアップを図り、検討・改良を行うなど

（３）在学中【在籍管理、生活支援サポート】

入学前の骨子案と企業連携による企業インターンシップ骨子案を実証実験の反応を通して検証と改良を重ねながら開発・実証実験を実施。

■現状の確認（実証実験による評価の確認）
・日本語学校に自動車整備士系の専門学校から求められている日本語レベル
・日本語学校が卒業生を送り出している日本語能力レベルの確認（十分か足りていないかの把

握）
・教職員における日本語指導の負担軽減に寄与するかの確認
・当該地域の生活支援サポート利活用情報提供　等

■周知と留学生確保増
・日本の自動車整備士資格取得に向けた必要な日本語レベルを現地と日本国内の日本語学校への周知
・必要な日本語能力を知ることで現地と日本国内日本語学校自体も強みを生かす環境を作り出すことができ、連携強化につなげ、留学生増を図る
・日本の自動車関連企業における自動車整備士業として働くイメージ強化
・当校サポートをはじめ、当該地域の生活支援サポート利活用状況の把握　等

■実施年度
・令和６～９年度

～課題と具体的なタスク内容～

【課題１．留学生受入れのための環境整備（その１）：日本国内の日本語学校との連携】

〈具体的なタスク内容〉

■日本語学校における実証実験
・開発・改良した自動車整備分野へ進むための日本語レベルモデルプログラムと入学前事前学習教材の実証実験実施　※受講学生・講師アンケート実施
・当該地域における生活支援サポートの周知
・前年度受講した学生の反応の比較・検証を行う
・当該地域の留学生のサポート体制の利活用（行政との連携）など

【課題２．留学生受入れのための環境整備（その２）：自動車整備士養成施設の専門学校の環境整備】

〈具体的なタスク内容〉

■専門学校における実証実験
・開発・改良した自動車整備分野へ進むための日本語レベルモデルプログラムと入学前事前学習教材の実証実験実施　※受講学生・講師アンケート実施
・日本の自動車整備士養成の専門学校教育についていけているかの検証、前年度受講した学生と教職員の反応の比較・検証を行う
・自国と環境が異なることによるメンタル面において、専門学校はもちろんのことだが、行政サポートによる生活支援サポートの周知をする。専門学校のみならず、京都府の地域全体として、外国人留学生誘致・支援を積極的に取り組んでいる地域であることを伝えていくことで不安要素を軽減し、日本国内で働く自動車整備士を目指す人材を増やす
・教職員へのメンタルケア
・当該地域の留学生のサポート体制の利活用（行政との連携）など

【課題３．留学生受入れのための環境整備（その３）：専門学校と企業の連携体制の構築】
〈具体的なタスク内容〉

■企業連携授業インターン・プログラム開発と実証実験

・外国人留学生を採用している、採用予定がある就職先となり得る企業の仕事場を体験
※受講学生・講師アンケート実施

・外国人留学生自身が安心できる場かどうかの雰囲気を事前に体感してもらい、企業選択の幅を広げることができるようになる

・逆に、企業側としても言葉や文化が異なる外国人留学生を事前に知ることで自社の企業風土に合った人材を選ぶことができるようになり、長く自社に就業できる人材を採用することが見込める。

・当該地域の留学生のサポート体制の利活用（行政との連携）など

■入学前準備補助教材アプリ改良

・実証実験の結果をもとに、さらなるブラッシュアップを図り、検討・改良を行うなど

■就職前準備補助教材アプリ開発

・社会人となった際にコミュニケーションをとるために必要な日本語能力レベル、外国籍社員に対しての指導方法のケーススタディなど

・実証実験の結果をもとに、さらなるブラッシュアップを図り、検討・改良を行うなど

（４）就職・定着支援

入学前の骨子案と企業連携による企業インターンシップ骨子案を実証実験の反応を通して検証と改良を重ねながら開発・実証実験を実施。

■現状の確認（実証実験による評価の確認）

・日本語学校に自動車整備士系の専門学校から求められている日本語レベル

・日本語学校が卒業生を送り出している日本語能力レベルの確認（十分か足りていないかの把握）

・自分にとって働きやすい環境の企業があることを知る（どの企業でも環境は同じではない）

・当校、企業のサポートをはじめ、当該地域の生活支援サポート利活用情報提供　等

■周知と留学生確保増

・必要な日本語能力を知ることで現地と日本国内日本語学校自体も強みを生かす環境を作り出すことができ、連携強化につなげ、留学生増を図る

・日本の自動車関連企業における自動車整備士業のイメージ強化

・当校、企業のサポートをはじめ、当該地域の生活支援サポート利活用状況の把握　等

■実施年度

・令和７～９年度

～課題と具体的なタスク内容～

【課題１．留学生受入れのための環境整備（その３）：専門学校と企業の連携体制の構築】

〈具体的なタスク内容〉

■企業別定着状況調査

・本事業で開発した自動車整備分野へ進むための日本語レベルモデルプログラムと企業連携授業インターン・プログラムを受講した外国人留学生が、就職した後の職業定着状況調査

・人事担当者等へのヒアリング：日本語レベルをはじめとする自動車整備士としての知識習得レベル、外国人留学生との接し方など

・当該地域の留学生のサポート体制の利活用の推進、相談頻度状況のヒアリングと行政へのフィードバックによる改善案提出など

【課題２．留学生の就職・定着のための環境整備：就労環境や福利厚生等の労働環境整備】

〈具体的なタスク内容〉

■就労環境調査

・外国人卒業生の就職先環境状況のヒアリング

・外国人卒業生からのヒアリング結果を就職先にフィードバック：環境改善が必要な内容に関しては、企業に要望書の作成をするなど外国人卒業生をサポート支援

・当該地域の留学生のサポート体制の利活用の推進、ヒアリングと行政へのフィードバックによる改善案提出など

■本事業モデルプログラム完成形：日本語学校と企業連携による実証実験を通し、下記のプログラム等の完成形を目指す

・日本語学校モデルプログラム、専門学校モデルプログラム、企業連携授業インターン・プログラム

・キャリア・マップモデル

・入学前準備補助教材アプリ

・就業前準備補助教材アプリ

■普及展開

・本事業への問い合わせ窓口を設け、担当者が対応する。必要に応じて指導など説明に行く体制を整える

・本事業の委員の協力を仰ぎながら進める

４．開発する講座の概要（対話型音声アプリ）

（１）初級編（海外の日本語学校学生向け）・・・

〈シチュエーション〉

・朝起きてから登校するまで

・学校での生活

・下校から帰宅後、夕食前まで

・夕食から就寝まで

・日本でのマナーや日本文化　等

（２）中級編（日本国内の日本語学校学生向け）・・・

〈シチュエーション〉

・移動に関すること

・買い物に関すること

・病気の時のこと

・自動車の基礎

・入国後すぐに学ぶ内容

・アルバイトや役所の手続き　など

（３）上級編（自動車整備系専門学校学生・社会人向け）・・・

〈シチュエーション〉

・自動車整備士資格取得に向けた専門用語

・専門学校の学習環境

・自動車整備業界

・基礎自動車工学や各自動車メーカーによる部品名称等の違い

・ビジネスマナー（BtoB、電話や窓口での話し方など）　等

５．構成機関・構成員等

（１）教育機関と役割・協力事項

【役割・協力事項】

▶調査関する手法と検討協力

▶シラバス・コマシラバスのアドバイス

▶実証実験への協力

▶開発する入学前～就職・定着支援教育カリキュラム・プログラム構成の提案・アドバイス・検討

▶補助教材アプリ構成の提案・アドバイス・検討

▶ＧＰＡ開発協力

▶普及に関するアドバイス　等

名称		役割等	都道府県名
1	専門学校 YIC 京都工科自動車大学校	事業代表校、プログラム全体の進捗管理	京都府
2	専門学校国際情報工科自動車大学校	留学生対応教育プログラムの検討・開発、実証講座実施	福島県

3	専門学校穴吹工科カレッジ	留学生対応教育プログラムの検討・開発、実証講座実施	香川県
4	専門学校麻生工科自動車大学校	留学生対応教育プログラムの検討・開発、実証講座実施	福岡県
5	学校法人 YIC 学院	プログラム全体の諮問・分析・評価	山口県

（２）企業・団体と役割・協力事項

【役割・協力事項】

▶実証実験への協力

▶テキスト開発協力（内容の精査、アドバイス等）

▶開発する入学前～就職・定着支援教育カリキュラム・プログラムへのアドバイス

▶補助教材アプリ開発の協力とアドバイス

▶企業に就職するための心構え等のポイントのアドバイス　等

名称		役割等	都道府県名
1	YIC 京都日本語学院	留学事情・日本国内進路事情状況調査	京都府
2	京都民際日本語学校	留学事情・日本国内進路事情状況調査	京都府
3	トヨタカローラ京都株式会社	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	京都府
4	株式会社スズキ自販京都	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	京都府
5	いすゞ自動車近畿株式会社	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	大阪府

6	国立大学法人筑波大学教学マネジメント室	プログラム全体の諮問・分析・評価	東京都
7	デジタルハリウッド大学アライアンスグループ	プログラム全体の諮問・分析・評価	東京都
8	広島女学院大学	プログラム全体の諮問・分析・評価	広島県
9	株式会社リクルート リクルート進学総研	プログラム全体の諮問・分析・評価	東京都
10	株式会社グッドニュース	プログラム全体の諮問・分析・評価	大阪府
11	株式会社さんぽう	プログラム全体の諮問・分析・評価	東京都
12	ミャンマー連邦共和国国内の日本語学校 ZARZAR SUGOI JAPANESE LANGUAGE SCHOOL	教育事情・留学マーケット調査	ミャンマー
13	ネパール連邦民主共和国国内の日本語学校 SINDHU EDUCATION FOUNDATION	教育事情・留学マーケット調査	ネパール
14	スリランカ民主社会主義共和・国内の日本語学校 JAPAN STUDY SUPPORT CENTER	教育事情・留学マーケット調査	スリランカ

（３）行政機関と役割・協力事項

【役割・協力事項】

▶開発した入学前～就職・定着支援教育カリキュラム・プログラムの評価

▶テキスト・補助教材アプリ・実証実験等の評価・アドバイス

▶汎用性の妥当等に関する評価・アドバイス　等

名称		役割等	都道府県名
1	一般社団法人　京都府自動車整備振興会	プログラム全体の諮問・分析・評価	大阪府

（４）実施体制イメージと各会議体の役割

《実施体制イメージ》



《各会議体の役割》

■企画推進委員会・・・・・・

・事業方針の策定・進捗状況管理・事業全体運営管理

・成果検証、成果報告書編集まとめ　等

■モデル開発 WG・・・・・・

・外国人留学生エンロール・マネジメントモデル開発

外国人留学生確保のための留学ルート／現地日本語学校と我が国の日本語学校の連携／養成施設専門学校の環境整備／専門学校と企業連携体制の構築／就労環境、福利厚生等の労働環境整備などの検討（キャリアマップ）／アプリなどの開発　等

■課題分析 WG・・・・・・

・実態調査と課題分析

現状の外国人留学生の日本語レベル状況と必要レベルの調査・分析／実証実験結果の分析といった本事業の取り組み内容に関しての調査と課題の分析　等

■実証実験 WG

・実証実験の実施・運営管理

実証実験によるモデルプログラムの検証／受講アンケート実施・分析など　等

（５）各会議体の構成委員

①企画推進委員会

	氏名	所属先・役職等	役割等	都道府県名
1	佐々木　章	学校法人ＹＩＣ学院 〈専〉YIC 京都工科自動車大学校 理事・校長	事業代表校、プログラム全体の進捗管理	京都府
2	阿部　一則	専門学校国際情報工科自動車大学校　副校長	留学生対応教育プログラムの検討・開発、実証講座実施	福島県

3	大門　剛	専門学校穴吹工科カレッジ 副校長	留学生対応教育プログラムの検討・開発、実証講座実施	香川県
4	永江　貴史	専門学校麻生工科自動車大学校 校長代行	留学生対応教育プログラムの検討・開発、実証講座実施	福岡県
5	上田　直紀	株式会社京都民祭 京都民際日本語学校 代表取締役社長・副理事長	留学事情・日本国内進路事情状況調査	京都府
6	平岡　俊弥	トヨタカローラ京都株式会社 サービス部 技術改善室 副室長 改善担当	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	京都府
7	野堀 昌史	トヨタカローラ京都株式会社 営業企画部 人材開発グループ 係長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	京都府
8	川村　哲史	株式会社スズキ自販京都 サービス本部　部長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	京都府
9	杉本　康幸	いすゞ自動車近畿株式会社 採用教育部　部長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	大阪府
10	脇﨑　敏幸	いすゞ自動車近畿株式会社 採用教育部　採用課 課長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	大阪府
11	細谷　昭央	トヨタ L&F 近畿株式会社 総務部　部長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発	大阪府
12	小林　浩	株式会社リクルート リクルート進学総研 所長	プログラム全体の諮問・分析・評価	東京都
13	稲永　由紀	国立大学法人筑波大学 教学マネジメント室	プログラム全体の諮問・分析・評価	東京都
14	細野　康男	デジタルハリウッド大学 アライアンスグループ　プロデューサー	プログラム全体の諮問・分析・評価	東京都

15	一色 舞子	広島女学院大學 人文学部 日本文化学科 准教授	プログラム全体の諮問・分析・評価	広島県
16	板倉 真紀	株式会社グッドニュース 取締役 兼 Careermap 編集長	プログラム全体の諮問・分析・評価	大阪府
17	入江 剛	株式会社さんぽう 教育マーケティング部 次長	プログラム全体の諮問・分析・評価	東京都
18	ZIN MAR LYNN	ZARZAR SUGOI JAPANESE LANGUAGE SCHOOL	教育事情・留学マーケット調査	ミャンマー
19	RAI BHABINDRA	SINDHU EDUCATION FOUNDATION	教育事情・留学マーケット調査	ネパール
20	JANAKA JEEWANA	JAPAN STUDY SUPPORT CENTER	教育事情・留学マーケット調査	スリランカ
21	矢川 賢治	一般社団法人京都府自動車整備振興会 専務理事	プログラム全体の諮問・評価	京都府
22	乗地 博之	一般社団法人京都府自動車整備振興会 教育課 課長	プログラム全体の諮問・評価	京都府
23	岡村 慎一	学校法人ＹＩＣ学院 理事	プログラム全体の諮問・分析・評価	山口県
24	田中 秀樹	学校法人 YIC 学院 経営戦略部門 国際推進室 室長	プログラム全体の諮問・分析・評価	山口県
25	川嵜 洋一	学校法人ＹＩＣ学院 留学生環境整備室 室長	プログラム全体の諮問・分析・評価	京都府
26	土井 宏美	学校法人ＹＩＣ学院 総合支援課 課長補佐	プログラム全体の諮問・分析・評価	京都府

27	小林　建次	〈専〉ＹＩＣ京都工科自動車大学校　教務課長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	京都府
28	池田　希	ＹＩＣ京都日本語学院 副校長・教務課長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	京都府
29	喜多　好洋	学校法人ＹＩＣ学院 〈専〉ＹＩＣ京都工科自動車大学校　事業開発推進役・参事	事務局	京都府

②モデル開発 WG

	氏名	所属先・役職等	役割等	都道府県名
1	佐々木　章	学校法人ＹＩＣ学院　理事 〈専〉YIC 京都工科自動車大学校 校長	事業代表校、プログラム全体の進捗管理	京都府
2	阿部　一則	専門学校国際情報工科自動車大学校　副校長	留学生対応教育プログラムの検討・開発、実証講座実施	福島県
3	大門　剛	専門学校穴吹工科カレッジ 副校長	留学生対応教育プログラムの検討・開発、実証講座実施	香川県
4	永江　貴史	専門学校麻生工科自動車大学校 校長代行	留学生対応教育プログラムの検討・開発、実証講座実施	福岡県
5	平岡　俊弥	トヨタカローラ京都株式会社 サービス部　技術改善室 副室長　改善室	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	京都府
6	野堀 昌史	トヨタカローラ京都株式会社 営業企画部　人材開発グループ 係長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	京都府
7	川村　哲史	株式会社スズキ自販京都 サービス本部　部長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	京都府

8	杉本　康幸	いすゞ自動車近畿株式会社 採用教育部　部長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	大阪府
9	脇﨑　敏幸	いすゞ自動車近畿株式会社 採用教育部　採用課 課長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	大阪府
10	細谷　昭央	トヨタ L&F 近畿株式会社 総務部　部長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発	大阪府
11	岡村　慎一	学校法人 YIC 学院　理事	プログラム全体の諮問・分析・評価	山口県
12	田中　秀樹	学校法人 YIC 学院 経営戦略部門　国際推進室 室長	プログラム全体の諮問・分析・評価	山口県
13	川嵜 洋一	学校法人ＹＩＣ学院 留学生環境整備室 室長	プログラム全体の諮問・分析・評価	京都府
14	土井　宏美	学校法人ＹＩＣ学院 総合支援課　課長補佐	プログラム全体の諮問・分析・評価	京都府
15	小林　建次	〈専〉ＹＩＣ京都工科自動車大学校　教務課長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	京都府
16	池田　希	ＹＩＣ京都日本語学院 副校長・教務課長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	京都府
17	喜多　好洋	学校法人ＹＩＣ学院 〈専〉ＹＩＣ京都工科自動車大学校　事業開発推進役・参事	事務局	京都府

③課題分析 WG

	氏名	所属先・役職等	役割等	都道府県名
1	佐々木　章	学校法人ＹＩＣ学院　理事 〈専〉YIC 京都工科自動車大学校 校長	事業代表校、プログラム全体の進捗管理	京都府
2	一色 舞子	広島女学院大學 人文学部　日本文化学科 准教授	プログラム全体の諮問・分析・評価	広島県
3	小林　浩	株式会社リクルート リクルート進学総研 所長	プログラム全体の諮問・分析・評価	東京都
4	岡村　慎一	学校法人ＹＩＣ学院　専務理事	プログラム全体の諮問・分析・評価	山口県
5	田中　秀樹	学校法人 YIC 学院 経営戦略部門　国際推進室 室長	プログラム全体の諮問・分析・評価	山口県
6	川嵜 洋一	学校法人ＹＩＣ学院 留学生環境整備室 室長	プログラム全体の諮問・分析・評価	京都府
7	土井　宏美	学校法人ＹＩＣ学院 総合支援課　課長補佐	プログラム全体の諮問・分析・評価	京都府
8	小林　建次	〈専〉ＹＩＣ京都工科自動車大学校 教務課長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	京都府
9	池田　希	ＹＩＣ京都日本語学院 副校長・教務課長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	京都府
10	喜多　好洋	学校法人ＹＩＣ学院 〈専〉ＹＩＣ京都工科自動車大学校　事業開発推進役・参事	事務局	京都府

④実証実験 WG

	氏名	所属先・役職等	役割等	都道府県名
1	佐々木　章	学校法人ＹＩＣ学院　理事 〈専〉YIC 京都工科自動車大学校 校長	事業代表校、プログラム全体の進捗管理	京都府
2	阿部　一則	専門学校国際情報工科自動車大学校　副校長	留学生対応教育プログラムの検討・開発、実証講座実施	福島県
3	大門　剛	専門学校穴吹工科カレッジ 副校長	留学生対応教育プログラムの検討・開発、実証講座実施	香川県
4	永江　貴史	専門学校麻生工科自動車大学校 校長代行	留学生対応教育プログラムの検討・開発、実証講座実施	福岡県
5	上田　直紀	株式会社京都民祭　京都民際日本語学校 代表取締役社長・副理事長	留学事情・日本国内進路事情状況調査	京都府
6	平岡　俊弥	トヨタカローラ京都株式会社 サービス部　技術改善室 副室長　改善室	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	京都府
7	野堀 昌史	トヨタカローラ京都株式会社 営業企画部　人材開発グループ 係長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	京都府
8	川村　哲史	株式会社スズキ自販京都 サービス本部　部長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	京都府
9	杉本　康幸	いすゞ自動車近畿株式会社 採用教育部　部長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	大阪府
10	脇﨑　敏幸	いすゞ自動車近畿株式会社 採用教育部　採用課　課長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	大阪府
11	細谷　昭央	トヨタ L&F 近畿株式会社 総務部　部長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発	大阪府

12	ZIN MAR LYNN	ZARZAR SUGOI JAPANESE LANGUAGE SCHOOL	教育事情・留学マーケット調査	ミャンマー
13	RAI BHABINDRA	SINDHU EDUCATION FOUNDATION	教育事情・留学マーケット調査	ネパール
14	JANAKA JEEWANA	JAPAN STUDY SUPPORT CENTER	教育事情・留学マーケット調査	スリランカ
15	岡村 慎一	学校法人ＹＩＣ学院 専務理事	プログラム全体の諮問・分析・評価	山口県
16	田中 秀樹	学校法人 YIC 学院 経営戦略部門 国際推進室 室長	プログラム全体の諮問・分析・評価	山口県
17	川嵜 洋一	学校法人ＹＩＣ学院 留学生環境整備室 室長	プログラム全体の諮問・分析・評価	京都府
18	土井 宏美	学校法人ＹＩＣ学院 総合支援課 課長補佐	プログラム全体の諮問・分析・評価	京都府
19	小林 建次	〈専〉ＹＩＣ京都工科自動車大学校 教務課長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	京都府
20	池田 希	ＹＩＣ京都日本語学院 副校長・教務課長	採用・就労環境整備のプログラム検討・開発、実証講座実施	京都府
21	喜多 好洋	学校法人ＹＩＣ学院 〈専〉ＹＩＣ京都工科自動車大学校 事業開発推進役・参事	事務局	京都府

６．令和７年度取り組み概要（計画）

（１）日本国内日本語学校のねらい

「日本語学校から自動車整備の専門学校へ進学を考えている場合に、日本語学校時代に何を学習しておいた方がよいか？」

1)日本語能力の徹底的な向上（特に聴解力と専門用語）

①日本語能力試験（JLPT）N2 以上は目指す⇨日本語学校時代に取得しておくことが肝要。

②聴解力の強化： 専門学校の授業は、座学だけでなく実習での先生の説明や指示が非常に重要。板書がない中で口頭での説明を正確に聞き取る能力は必須。

授業以外でも、ニュースやマンガ、アニメ、J-POP、YouTube で等積極的に日本語を聞く機会を増やし、聞き取りの練習をする。

③専門用語に慣れる準備：

-1.日本の自動車メーカーのウェブサイトや自動車関連のニュース記事、雑誌（一般的なものから少し専門的なものまで）を読んでみる。

-2.YouTube で「自動車 仕組み」「自動車整備」などのキーワードで検索し、日本語の解説動画を視聴してみる。

-3.簡単な自動車の部品の名称（例：タイヤ、エンジン、ブレーキ、ハンドルなど）を日本語で覚えてみる。

④敬語・丁寧語の基礎：

進学や就職など将来、先生や他国の学生、就職先のお客様や社員と接する機会があるため、基本的な敬語・丁寧語の理解と使用は重要。

2)基礎的な理数系の知識の復習・強化

①数学の基礎：足し算、引き算、掛け算、割り算といった基本的な計算、割合、分数、簡単な方程式（例：V=IR オームの法則など）性能計算や電気回路の計算などで必要になる。

②物理の基礎（特に力学と電気）：

-1.力学：力の作用、運動の法則、仕事、エネルギーといった概念は、エンジンの動きやサスペンションの仕組み、ブレーキの原理などを理解する上で不可欠。中学校や高校で習うレベルの物理基礎を復習しておく。

-2.電気：自動車は多くの電気部品で構成されている。電流、電圧、抵抗、回 路の基本（直列回路、並列回路など）の知識は、電気系統の診断や修理に役立ちます。

3)自動車への興味・関心の深化

①自動車の基本的な構造と機能の理解：専門的な知識は入学後に学ぶことになりますが、「車がどうやって動いているのか」「主要な部品にはどんなものがあるのか」といった基本的な構

造と役割について、自分なりに調べる。

②自動車業界の現状と将来について知る： EV（電気自動車）や自動運転技術など、自動車業界は大きな変革期にあります。最新の技術動向や業界のニュース に関心を持ち、情報を収集しておく。

■シラバス・コマシラバス（骨子案）

委託内容	専修学校の国際化推進事業		本事業名	自動車整備分野留学生ＥＭ事業（略称）		年度	令和７年度 （2025 年度）
実施校名	日本国内日本語学校		実施日	年 月 日	実施形態	対面式	
実証実験の概要	令和６年度に開発した対話型音声ＡＩアプリを使用した実証実験を行う。						
実験の到達目標	・学生が本事業で開発した対話型音声ＡＩアプリを活用しての使い勝手に関することなどの感想を聞き出し、まとめ、整理し、改善へつなげる。 ・ログの検証（利用状況の把握と監査・パフォーマンス分析・トラブルシューティング・セキュリティ対策等）を行いＳＴＥＰ２へつなげる。 ・受験生のキャリア（回答者の属性）を調査し、回答者による傾向値を分析する。						
受験対象者条件	・日本国内の日本語学校：日本に入国し、日本国内で学んでいるＮ５レベル以上の留学生（想定人数：２０人～２５人/クラス・校）						
使用するアプリ	「ＡＩ先生と日本語を学ぼう」		使用する資料	日本国内の日本語学校実証実験アンケート（様式 1） ※各アンケートには基礎学力テストを含む			
機器、準備物	・プロジェクターまたはモニター（接続ケーブル含む） ・ノートＰＣおよびタブレット ・ポケット Wi-Fi ・ログイン用紙 ・アンケート用紙（基礎学力テスト含む）		関連サイト	URL			

実証実験の構成（進め方・配分）

順番	場所	時間 （所要時間）	コマの構成/実施内容	備考
1	教室	１２：３５～１３：００ （２５分）	直前打合せ 教室準備 ネット環境の確認 プロジェクター等の確認 受験者（対象学生）入室	配布物・ＰＣ・タブレット等の準備
2	教室	１３：００～１３：１０ （１０分）	挨拶 本事業の紹介 実証実験の目的説明 ＰＲ動画も活用する（受験生の日本語理解度の確認にも活用）	ログイン用紙の配布
3	教室	１３：１０～１３：１５ （５分）	受験者のアプリ接続 自由に会話を行い、アプリに慣れてもらう。	―

4	教室	１３：１５～１３：３５ （２０分）	シチュエーション毎の会話（各約３分） ①移動について ②買物について ③病気のときについて ④自動車について ⑤アルバイトや役所関係について	ＰＰＴにてシチュエーションを表示
5	教室	１３：３５～１４：００ （２５分）	アンケートとまとめ （日本語力・数学力含む）	アンケート用紙の配布
6	控室	１４：００～	意見交換	状況により終了時間は調整

実証実験アンケート項目

1．使い方は簡単でしたか？　2．ＡＩとの会話は役に立ちましたか？　3．ＡＩの日本語はわかりやすかったですか？
4．ＡＩアプリを使うと日本語の勉強が楽しくなりそうですか？　5．良かったところは何ですか？　6．改善してほしいところは何ですか？
7．今後もこのＡＩアプリを使いたいですか？　8．ＡＩアプリで勉強するとき、困ったことはありましたか？あれば教えてください。
9．ＡＩとの会話内容は実生活で使えそうですか？　10．実験でＡＩアプリを使った時間はちょうどよかったですか？
11．ＡＩの反応は早かったですか？　12．他に使ってみたい機能はありますか？あれば教えてください。
上記に加えて、日本語力・これまでに学んだ教育についてのアンケート（テスト形式）

対話型音声ＡＩアプリ・ログ管理内容　※実証実験終了後に各自のアプリの使用状況であるため、受験者を受講生と表記

管理者側機能①
【受講生情報】
1.受講生氏名　2.生年月日　3.年齢　4.入国日（海外の日本語学校の場合は予定）　5.出身国　6.日本語学習時間（アプリ使用前）
7.日本語レベル（JLPT）　8.メールアドレス　9.電話番号

管理者側機能②
【受講状況（アプリ使用状況）】
1.過去６ヶ月分の月別使用時間の表示
2.一月の日別使用時間の表示
3.一日の時間帯別使用時間の表示

管理者側機能③
【キーワード】
各受講生がアプリ内で行った会話の中で、多く発したキーワードをランキング形式で表示（過去６ヶ月のキーワード）

■テキスト概要：「日本入国後に留学生が不足しているマナーや生活術」
・移動に関するシチュエーション
・買い物に関するシチュエーション
・病気の時のシチュエーション
・自動車の基礎を学ぶシチュエーション
・入国後すぐに学ぶ内容
・アルバイトや役所に関するシチュエーション

（２）自動車整備系専門学校のねらい

「留学生が自動車整備の専門学校へ入学して、自動車整備士養成施設のカリキュラムにスムーズについていける学習は何をしたらよいか？」

1)日本語能力のさらなる向上（特に専門日本語と聴解力）

①専門用語の徹底理解：

-1.授業で出てくる専門用語をその都度、正確に理解する。分からなければすぐに先生やクラスメイトに質問する習慣をつける。

-2.自動車整備士養成施設では、専門用語に特化した日本語教育が行われる場合も多いので、それを最大限に活用する。

-3.辞書だけでなく、イラストや実物を見て、言葉とモノを結びつけ覚える。

②聴解力の強化：

-1.先生の説明や指示を正確に聞き取る能力は、座学だけでなく実習でも非常に重要。

-2.クラスメイトや先生との日常会話も積極的に行い、自然な日本語に慣れる。

③コミュニケーション能力の向上：

-1.質問や意見を日本語で明確に伝える練習をする。

-2.グループワークや実習では、他の学生と協力して作業を進めるため、円滑なコミュニケーションが不可欠。

2)基礎知識の定着と応用力の養成

①座学の徹底理解：

-1.物理、化学、数学、電気の基礎知識は、自動車の構造や整備原理を理解する上で不可欠。授業で出てくる基礎的な内容を確実にマスターする。

-2.特に、エンジン、シャシ、電装、整備法令といった分野は、自動車整備士の国家試験の筆記試験にも直結するため、日々の積み重ねが重要。

②実習への積極的な参加と反復練習：

-1.自動車整備の専門学校では、実習がカリキュラムの大部分を占めます。工具の正しい使い方、各部品の名称と役割、分解・組み立ての手順などを、見て、聞いて、実際に手を動かして覚えることが重要。

-2.実習を通して、座学で学んだ知識を「実践的な技術」として身につける。

3)自動車構造の視覚的・体験的理解

①実際に自動車の各部位を見て、触れて、構造を理解する。

②自動車の部品がどのように連携して機能しているのか、システムとして捉えるようにする。

■シラバス・コマシラバス（骨子案）

委託内容	専修学校の国際化推進事業		本事業名	自動車整備分野留学生ＥＭ事業（略称）		年度	令和７年度（2025 年度）
実施校名	自動車整備系専門学校		実施日	年 月 日	実施形態	対面式	
実証実験の概要	令和６年度に開発した対話型音声ＡＩアプリを使用した実証実験を行う。						
実験の到達目標	・学生が本事業で開発した対話型音声ＡＩアプリを活用しての使い勝手に関することなどの感想を聞き出し、まとめ、整理し、改善へつなげる。 ・ログの検証（利用状況の把握と監査・パフォーマンス分析・トラブルシューティング・セキュリティ対策等）を行いＳＴＥＰ２へつなげる。 ・受験生のキャリア（回答者の属性）を調査し、回答者による傾向値を分析する。						
受験対象者条件	・自動車整備系専門学校日本語学校を卒業し、自動車整備専門学校で学んでいるＮ４レベル以上の留学生 （想定人数：20 人～25 人/クラス・校）						
使用するアプリ	「ＡＩ先生と日本語を学ぼう」		使用する資料	自動車整備系専門学校実証実験アンケート（様式 2） ※各アンケートには基礎学力テストを含む			
機器、準備物	・プロジェクターまたはモニター（接続ケーブル含む） ・ノートＰＣおよびタブレット ・ポケット Wi-Fi ・ログイン用紙 ・アンケート用紙（基礎学力テスト含む）		関連サイト	URL			
実証実験の構成（進め方・配分）							
順番	場所	時間（所要時間）	コマの構成/実施内容			備考	
1	教室	１２：３５～１３：００（２５分）	直前打合せ 教室準備 ネット環境の確認 プロジェクター等の確認 受験者（対象学生）入室			配布物・ＰＣ・タブレット等の準備	
2	教室	１３：００～１３：１０（１０分）	挨拶 本事業の紹介 実証実験の目的説明 ＰＲ動画も活用する（受験生の日本語理解度の確認にも活用）			ログイン用紙の配布	
3	教室	１３：１０～１３：１５（５分）	受験者のアプリ接続 自由に会話を行い、アプリに慣れてもらう。			―	

4	教室	１３：１５～１３：３５ （２０分）	シチュエーション毎の会話（各約３分） ①自動車用語について ②工具の名前や和製英語について ③接客や上司との会話について ④基礎工学・メーカーによる部品名称等の違いについて ⑤ビジネスマナーについて	ＰＰＴにてシチュエーションを表示
5	教室	１３：３５～１４：００ （２５分）	アンケートとまとめ （日本語力・数学力含む）	アンケート用紙の配布
6	控室	１４：００～	意見交換	状況により終了時間は調整

実証実験アンケート項目

1．使い方は簡単でしたか？　2．ＡＩとの会話は役に立ちましたか？　3．ＡＩの日本語はわかりやすかったですか？
4．ＡＩアプリを使うと日本語の勉強が楽しくなりそうですか？　5．良かったところは何ですか？　6．改善してほしいところは何ですか？
7．今後もこのＡＩアプリを使いたいですか？　8．ＡＩアプリで勉強するとき、困ったことはありましたか？あれば教えてください。
9．ＡＩとの会話内容は実生活で使えそうですか？　10．実験でＡＩアプリを使った時間はちょうどよかったですか？
11．ＡＩの反応は早かったですか？　12．他に使ってみたい機能はありますか？あれば教えてください。
上記に加えて、日本語力・これまでに学んだ教育についてのアンケート（テスト形式）

対話型音声ＡＩアプリ・ログ管理内容　※実証実験終了後に各自のアプリの使用状況であるため、受験者を受講生と表記

管理者側機能①
【受講生情報】
1.受講生氏名　2.生年月日　3.年齢　4.入国日（海外の日本語学校の場合は予定）　5.出身国　6.日本語学習時間（アプリ使用前）
7.日本語レベル（JLPT）　8.メールアドレス　9.電話番号

管理者側機能②
【受講状況（アプリ使用状況）】
1.過去６ヶ月分の月別使用時間の表示
2.一月の日別使用時間の表示
3.一日の時間帯別使用時間の表示

管理者側機能③
【キーワード】
各受講生がアプリ内で行った会話の中で、多く発したキーワードをランキング形式で表示（過去６ヶ月のキーワード）

■テキスト概要：「日本国内の自動車業界へ就職するために必要な基礎知識」
・自動車整備士資格習得に向けた専門用語
・専門学校の学習環境のシチュエーション
・自動車整備業界のシチュエーション

・自動車の基礎を学ぶシチュエーション
・基礎自動車工学・メーカーによる部品名称等の違い
・ビジネスマナー・ BtoB ・電話や窓口に関するシチュエーション

（３）実証実験概要

①日本国内日本語学校

・実証実験実施先

学校名	実施日時
ＹＩＣ京都日本語学院	令和７年９月３０日（火） １３：００～１４：１０
京都民際日本語学校	令和７年１０月２日（木） １３：００～１４：１０

・内容：７０分

１０分	挨拶・本事業の紹介・実証実験の目的の説明（ＰＲ動画を使用）
５分	対象学生のアプリ接続・自由に会話を行う
２０分	シチュエーション毎の会話（各約３分） ・移動に関するシチュエーション ・買い物に関するシチュエーション ・病気の時のシチュエーション ・自動車の基礎を学ぶシチュエーション ・入国後すぐに学ぶ内容 ・アルバイトや役所に関するシチュエーション
２５分	日本語・計算・数学力テスト
１０分	アンケートとまとめ

②自動車整備系専門学校

・実証実験実施先

学校名	実施日時
〈専〉ＹＩＣ京都工科自動車大学校	令和７年１１月１０日（月） １３：００～１４：１０

専門学校穴吹工科カレッジ	令和７年１１月２０日（木） １３：４０～１４：５０

・内容：７０分

１０分	挨拶・本事業の紹介・実証実験の目的の説明（ＰＲ動画を使用）
５分	対象学生のアプリ接続・自由に会話を行う
２０分	シチュエーション毎の会話（各約３分） ・自動車整備士資格習得に向けた専門用語 ・専門学校の学習環境のシチュエーション ・自動車整備業界のシチュエーション ・自動車の基礎を学ぶシチュエーション ・基礎自動車工学・メーカーによる部品名称等の違い ・ビジネスマナー・ BtoB ・電話や窓口に関するシチュエーション
２５分	日本語・計算・数学力テスト
１０分	アンケートとまとめ

（４）対話型音声ＡＩアプリ開発

留学生一人ひとりの生活環境状況の把握のヒントにつなげ助言することや日本語力が足りない学生に対して迅速にフォローアップを可能とさせることで学校教職員や企業の教育担当者と留学生がより一層コミュニケーションを図れることを目的に、ログ管理機能とキーワードランキングとプログラムに新たに設けた。

①ログ管理機能作成

学生一人ひとりがアプリで学んでいる時間や時間帯を学校教職員や企業の教育担当者などが管理者画面内のグラフ表示から把握できるようにする（例：１日にどの時間帯で使用しているのか、滞留時間、プロンプトなどの把握）。

②キーワードランキング作成

学校教職員や企業の教育担当者が教えている学生がどのようなことに興味を示しているのかランキング形式で管理者画面に表示する。

７．会議実績

会 議 名	第１回企画推進委員会会議
会議日時	令和７年６月２７日（金）　１４：００～１６：００
会場・形式	〈専〉ＹＩＣ京都工科自動車大学校　教場での対面とオンライン
出席者数	２６名
会議次第	１_　１４：００　開　会（事業責任者挨拶） ２_　１４：１０　委員自己紹介 ３_　１４：１０　議　事 （１）令和６年度 専修学校国際化事業 調査報告（一般財団法人 日本国際協力センター） （２）令和７年度「委託事業の概要（事業計画書より）」 （３）令和７年度「作業行程表（予定）」 （４）令和７年度「開発・作成」…ＡＩ開発・Ｃｕｒｒｉｃｕｌｕｍ Ｐｏｌｉｃｙ・Ｃｕｒｒｉｃｕｌｕｍ Ｆｒａｍｅｗｏｒｋ・実証実験 （５）専修学校の現状と今後の社会を踏まえた検討の論点について　等４_　１５：５０　その他（連絡事項等） ５_　１６：００　閉　会

会 議 名	第１回モデル開発ＷＧ・課題分析ＷＧ・実証実験ＷＧ合同会議
会議日時	令和７年７月１８日（金）　１４：００～１６：００
会場・形式	〈専〉ＹＩＣ京都工科自動車大学校　教場での対面とオンライン
出席者数	１５名
会議次第	１_　１４：００　開　会（事業責任者挨拶） ２_　１４：１０　委員自己紹介 ３_　１４：１０　議　事 （１）文部科学省個別会議の説明 （２）本事業の開発ポリシーについて （３）ＡＩアプリ実証実験について （４）海外日本語学校（スリランカ）調査について ４_　１５：５０　その他（連絡事項等） ５_　１６：００　閉　会

会 議 名	第２回企画推進委員会会議
会議日時	令和７年１２月１９日（金）　１４：００～１６：００
会場・形式	〈専〉ＹＩＣ京都工科自動車大学校　教場での対面とオンライン
出席者数	２１名
会議次第	１_　１４：００　開　会（事業責任者挨拶） ２_　１４：１０　議　事 （１）対話型音声ＡＩアプリ実証実験結果報告 （２）海外日本語学校現地調査（スリランカ）中止報告 （３）次年度に向けての課題 （４）各委員からの意見４_　１５：５０　その他（連絡事項等） ５_　１６：００　閉　会

第２章　令和７年度活動詳細

第２章 令和７年度活動詳細

１．実証実験（要項）

（１）日本国内日本語学校

①ＹＩＣ京都日本語学院（京都）

▶シラバス・コマシラバス

委託内容	専修学校の国際化推進事業	本事業名	自動車整備分野留学生ＥＭ事業（略称）	年度	令和７年度 （2025 年度）
実施校名	ＹＩＣ京都日本語学院	実施日	年 月 日	実施形態	対面式

実証実験の概要	令和６年度に開発した対話型音声ＡＩアプリを使用した実証実験を行う。
実験の到達目標	・学生が本事業で開発した対話型音声ＡＩアプリを活用しての使い勝手に関することなどの感想を聞き出し、まとめ、整理し、改善へつなげる。 ・ログの検証（利用状況の把握と監査・パフォーマンス分析・トラブルシューティング・セキュリティ対策等）を行いＳＴＥＰ２へつなげる。 ・受験生のキャリア（回答者の属性）を調査し、回答者による傾向値を分析する。
受験対象者条件	・日本国内の日本語学校：日本に入国し、日本国内で学んでいるＮ５レベル以上の留学生（想定人数：２０人～２５人/クラス・校）

使用するアプリ	「ＡＩ先生と日本語を学ぼう」	使用する資料	日本国内の日本語学校実証実験アンケート（様式1） ※各アンケートには基礎学力テストを含む
機器、準備物	・プロジェクターまたはモニター（接続ケーブル含む） ・ノートＰＣおよびタブレット ・ポケット Wi-Fi ・ログイン用紙 ・アンケート用紙（基礎学力テスト含む）	関連サイト	https://yic-aienroll.jp/

実証実験の構成（進め方・配分）

順番	場所	時間 （所要時間）	コマの構成/実施内容	備考
1	教室	１２：３５～１３：００ （２５分）	直前打合せ 教室準備 ネット環境の確認 プロジェクター等の確認 受験者（対象学生）入室	配布物・ＰＣ・タブレット等の準備
2	教室	１３：００～１３：１０ （１０分）	挨拶 本事業の紹介 実証実験の目的説明 ＰＲ動画も活用する（受験生の日本語理解度の確認にも活用）	ログイン用紙の配布

3	教室	１３：１０～１３：１５ （５分）	受験者のアプリ接続 自由に会話を行い、アプリに慣れてもらう。	―
4	教室	１３：１５～１３：３５ （２０分）	シチュエーション毎の会話（各約３分） ①移動について ②買物について ③病気のときについて ④自動車について ⑤アルバイトや役所関係について	ＰＰＴにてシチュエーションを表示
5	教室	１３：３５～１４：００ （２５分）	アンケートとまとめ （日本語力・数学力含む）	アンケート用紙の配布
6	控室	１４：００～	意見交換	状況により終了時間は調整

実証実験アンケート項目

1. 使い方は簡単でしたか？　2. ＡＩとの会話は役に立ちましたか？　3. ＡＩの日本語はわかりやすかったですか？
4. ＡＩアプリを使うと日本語の勉強が楽しくなりそうですか？　5. 良かったところは何ですか？　6. 改善してほしいところは何ですか？
7. 今後もこのＡＩアプリを使いたいですか？　8. ＡＩアプリで勉強するとき、困ったことはありましたか？あれば教えてください。
9. ＡＩとの会話内容は実生活で使えそうですか？　10. 実験でＡＩアプリを使った時間はちょうどよかったですか？
11. ＡＩの反応は早かったですか？　12. 他に使ってみたい機能はありますか？あれば教えてください。
上記に加えて、日本語力・これまでに学んだ教育についてのアンケート（テスト形式）

対話型音声ＡＩアプリ・ログ管理内容　※実証実験終了後に各自のアプリの使用状況であるため、受験者を受講生と表記

管理者側機能①
【受講生情報】
1.受講生氏名　2.生年月日　3.年齢　4.入国日（海外の日本語学校の場合は予定）　5.出身国　6.日本語学習時間（アプリ使用前）
7.日本語レベル（JLPT）　8.メールアドレス　9.電話番号

管理者側機能②
【受講状況（アプリ使用状況）】
1.過去６ヶ月分の月別使用時間の表示
2.一月の日別使用時間の表示
3.一日の時間帯別使用時間の表示

管理者側機能③
【キーワード】
各受講生がアプリ内で行った会話の中で、多く発したキーワードをランキング形式で表示（過去６ヶ月のキーワード）

▶実施日時：２０２５年9月３０日（火）１３：００～１４：１０
▶人数：１０名
▶日本語レベル（ＪＬＰＴ）：N2（２名）、N3（６名）、N4（１名）、なし（１名）
▶ターゲット国：ミャンマー（２名）、ネパール（２名）、スリランカ（２名）　計６名
▶実証実験内容

１０分	挨拶・本事業の紹介・実証実験の目的の説明（ＰＲ動画を使用）
５分	対象学生のアプリ接続・自由に会話を行う
２０分	シチュエーション毎の会話（各約３分） ・移動に関するシチュエーション ・買い物に関するシチュエーション ・病気の時のシチュエーション ・自動車の基礎を学ぶシチュエーション ・入国後すぐに学ぶ内容 ・アルバイトや役所に関するシチュエーション
２５分	日本語・計算・数学力テスト
１０分	アンケートとまとめ

▶実証実験風景

【講師写真】

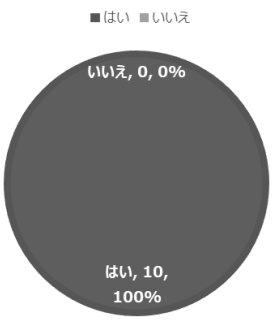


【授業風景】



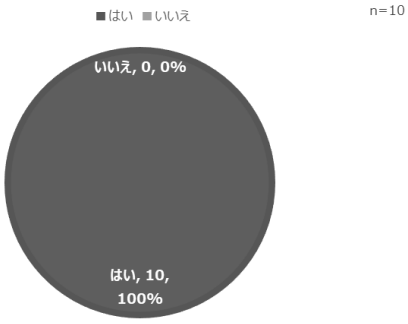
▶アンケート

１.使い方は簡単でしたか？



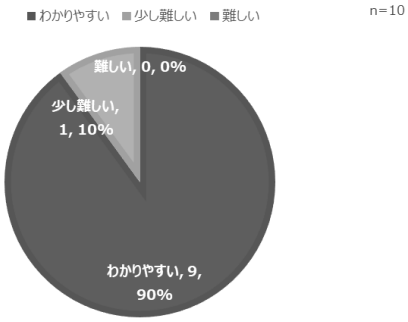
受講生全員が簡単と回答

2.ＡＩとの会話は役に立ちましたか？



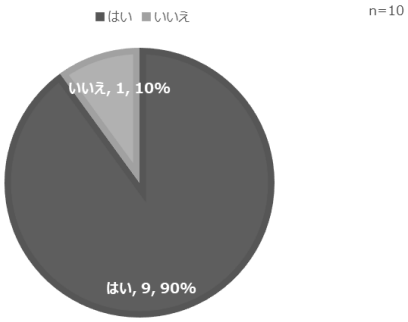
受講生全員が役立つと回答

3.ＡＩの日本語はわかりやすかったですか？



受講生の９０％がわかりやすいと回答

4.ＡＩアプリを使うと日本語の勉強が楽しくなりそうですか？



受講生の９０％が楽しくなりそうと回答

5.良かったところは何ですか？（※回答者原文のまま）

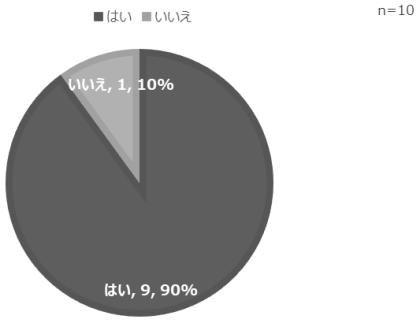
・わからないことをすぐに聞けるところです。
・使い方は簡単。
・私が話しことは AI に全部わかってくれました。
・私が行ったことばをぜんぶ分かってくれました。
・知らないものを聞いたらすぐ教えてくれるのが良かったです。
・私たち言うことをちゃんとして、こたえてあげることです。
・ＡＩアプリを使いことです。
・何でも教えていただけるので、そのところがよかったしなりました。
・まりがいぶんぽう使うも AI わかります。

・聞きたいことをだいたいぜんぶおしえてくれます。

6.改善してほしいところは何ですか？（※回答者原文のまま）

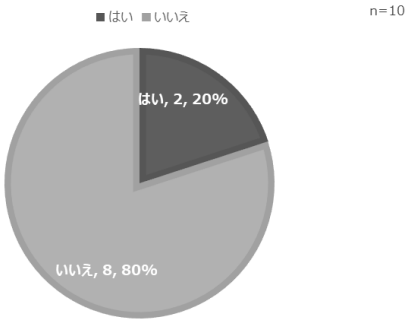
・もっと会話のバリエーションがあるといいです。
・画面インターフェイス。
・改善してほしいところはありません。
・しつもんにもっと詳しく説明してもらえるとありがたいです。
・使い方がいままでわかりやすいから大丈夫です。
・なにもありません。
・聞きたいことを全部教えてくれた。
・日本語だけじゃなくて他の語できるいい。
・こたえの時がめんにかんじのよみかたも出てきたらいいと思います。

7.今後もこのＡＩアプリを使いたいですか？



受講生の９０％が今後も使いたいと回答

8.ＡＩアプリで勉強するとき、困ったことはありましたか？

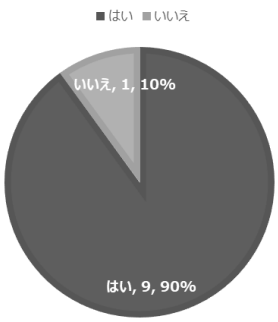


受講生の８０％がアプリを使って勉強することに困らないと回答

あれば教えてください。（※回答者原文のまま）

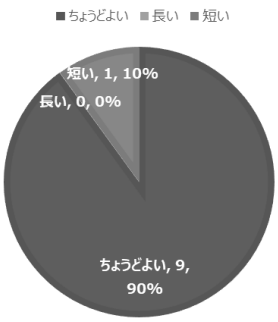
・漢字が読めないとき、意味が分かりにくくなります。
・ときどきこたえのおとはおそく出た。

9．ＡＩとの会話内容は実生活で使えそうですか？



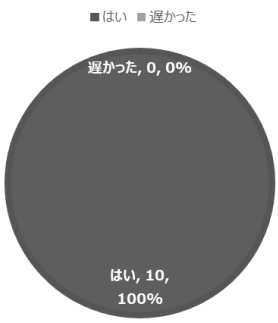
受講生の９０％がＡＩとの会話が実生活で使えそうと回答

10．実験でＡＩアプリを使った時間はちょうどよかったですか？



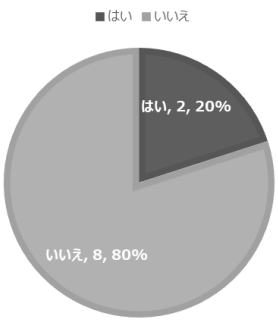
受講生の９０％が実証実験の時間はちょうどよいと回答

11．ＡＩの反応は早かったですか？　（はい・遅かった）



受講生全員から反応は早かったと回答

12．他に使ってみたい機能はありますか？



受講生の８０％は他の機能は必要なくこのままで十分と回答

あれば教えてください。（※回答者原文のまま）

・一緒にゲームとかできるものを使ってみたいですよね。

【アンケート結果から】

すべての項目において肯定的であった。特に、操作性や日本語の勉強が楽しくなる、ＡＩアプリを使い続けたい、実生活に使えそうという項目において、９０％以上の受講生から高い評価を得ることができた。また、機能面においても十分であるという結果であった。

今後、留学生の利用頻度などを追いながら、学校教職員や企業の教育担当者が日本語力の足りない学生のフォローアップが迅速にできることと、さらに一層コミュニケーションが図れる管理体系を構築していくための教材になり得ると考える。

▶テスト成績（国語）

				問題1-1		問題1-2		問題1-3		問題1-4		問題2-1		問題2-2		問題2-3		問題3-1		問題3-2	
		JLPT	国語	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤
			19問	8	2	9	1	3	7	10	0	8	2	7	3	7	3	7	3	6	4
1	ベトナム	なし	17	1		1			1	1		1		1		1		1		1	
2	ベトナム	3	13	1		1		1		1		1		1		1		1		1	
3	ベトナム	2	9	1		1			1	1		1			1		1		1	1	
4	スリランカ	3	11	1			1		1	1			1		1		1	1		1	
5	ミャンマー	3	15	1		1			1	1		1		1		1		1		1	
6	ミャンマー	3	15	1		1		1		1		1		1		1			1	1	
7	スリランカ	4	11		1	1			1	1		1			1		1	1			1
8	ネパール	3	16	1		1			1	1		1		1		1		1			1
9	インドネシア	3	16	1		1		1		1		1		1		1		1			1
10	ネパール	2	12		1	1			1	1			1	1		1			1		1

13.5

問題4-1		問題4-2		問題4-3		問題4-4		問題4-5		問題4-6		問題5-1		問題5-2		問題5-3		問題5-4	
正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤
10	0	3	7	9	1	3	7	2	8	8	2	10	0	8	2	9	1	8	2
1			1	1		1		1		1		1		1		1		1	
1			1	1			1		1		1	1		1			1		1
1			1		1		1		1	1		1			1	1			1
1			1	1		1		1			1	1			1	1		1	
1			1	1			1		1	1		1		1		1		1	
1			1	1			1		1	1		1		1		1		1	
1			1	1			1		1	1		1		1		1		1	
1		1		1		1			1	1		1		1		1		1	
1		1		1			1		1	1		1		1		1		1	
1		1		1			1		1	1		1		1		1		1	

【テスト結果から】

ターゲット国の成績結果は、ミャンマー、ネパール、スリランカの順であった。特にスリランカは平均点を下回っていた。開発する対話型ＡＩアプリを活用することで、日本語力がどのように変化していくのか実証実験で検証続けていく必要があると考える。

▶テスト成績（算数・計算）

				問題6-1		問題6-2		問題6-3		問題6-4		問題6-5		問題6-6		問題6-7		問題6-8	
		JLPT	数学	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤
			14問	5	5	5	5	7	3	6	4	3	7	1	9	3	7	4	6
1	ベトナム	なし	6	1		1			1	1		1			1	1		1	
2	ベトナム	3	10		1	1		1			1		1		1	1		1	
3	ベトナム	2	5		1	1		1		1			1	1			1	1	
4	スリランカ	3	2	1			1	1			1		1		1		1		1
5	ミャンマー	3	3	1			1	1		1			1		1		1		1
6	ミャンマー	3	3		1		1	1		1		1			1		1		1
7	スリランカ	4	7	1		1		1		1		1			1	1		1	
8	ネパール	3	3		1	1		1		1			1		1		1		1
9	インドネシア	3	0		1		1		1		1		1		1		1		1
10	ネパール	2	1	1			1		1		1		1		1		1		1

問題7-1		問題7-2		問題7-3		問題7-4		問題8-1		問題8-2	
正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤
1	9	1	9	1	9	1	9	1	9	1	9
	1		1		1		1		1		1
1		1		1		1		1		1	
	1		1		1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1

【テスト結果から】

ターゲット国の成績結果は、スリランカ、ミャンマー、ネパールの順であった。実際に、現地では単に、学習項目になく学んでいないことや都心部や農業地域といった地域性で教育の差があることが浮き彫りになった結果であった。

②京都民際日本語学校（京都）

▶シラバス・コマシラバス

委託内容	専修学校の国際化推進事業	本事業名	自動車整備分野留学生ＥＭ事業（略称）	年度	令和７年度 （2025 年度）
実施校名	京都民際日本語学校	実施日	令和　年　月　日	実施形態	対面式

実証実験の概要	令和６年度に開発した対話型音声ＡＩアプリを使用した実証実験を行う。
実験の到達目標	・学生が本事業で開発した対話型音声ＡＩアプリを活用しての使い勝手に関することなどの感想を聞き出し、まとめ、整理し、改善へつなげる。 ・ログの検証（利用状況の把握と監査・パフォーマンス分析・トラブルシューティング・セキュリティ対策等）を行いＳＴＥＰ２へつなげる。 ・受験生のキャリア（回答者の属性）を調査し、回答者による傾向値を分析する。
受験対象者条件	・日本国内の日本語学校：日本に入国し、日本国内で学んでいるＮ５レベル以上の留学生（想定人数：２０人～２５人/クラス・校）

使用するアプリ	「ＡＩ先生と日本語を学ぼう」	使用する資料	日本国内の日本語学校実証実験アンケート（様式 1） ※各アンケートには基礎学力テストを含む
機器、準備物	・プロジェクターまたはモニター（接続ケーブル含む） ・ノートＰＣおよびタブレット ・ポケット Wi-Fi ・ログイン用紙 ・アンケート用紙（基礎学力テスト含む）	関連サイト	https://yic-aienroll.jp/

実証実験の構成（進め方・配分）

順番	場所	時間 （所要時間）	コマの構成/実施内容	備考
1	教室	１２：３５～１３：００ （２５分）	直前打合せ 教室準備 ネット環境の確認 プロジェクター等の確認 受験者（対象学生）入室	配布物・ＰＣ・タブレット等の準備
2	教室	１３：００～１３：１０ （１０分）	挨拶 本事業の紹介 実証実験の目的説明 ＰＲ動画も活用する（受験生の日本語理解度の確認にも活用）	ログイン用紙の配布
3	教室	１３：１０～１３：１５ （５分）	受験者のアプリ接続 自由に会話を行い、アプリに慣れてもらう。	―

4	教室	１３：１５～１３：３５ （２０分）	シチュエーション毎の会話（各約３分） ①移動について ②買物について ③病気のときについて ④自動車について ⑤アルバイトや役所関係について	ＰＰＴにてシチュエーションを表示
5	教室	１３：３５～１４：００ （２５分）	アンケートとまとめ （日本語力・数学力含む）	アンケート用紙の配布
6	控室	１４：００～	意見交換	状況により終了時間は調整

実証実験アンケート項目

1．使い方は簡単でしたか？　2．ＡＩとの会話は役に立ちましたか？　3．ＡＩの日本語はわかりやすかったですか？
4．ＡＩアプリを使うと日本語の勉強が楽しくなりそうですか？　5．良かったところは何ですか？　6．改善してほしいところは何ですか？
7．今後もこのＡＩアプリを使いたいですか？　8．ＡＩアプリで勉強するとき、困ったことはありましたか？あれば教えてください。
9．ＡＩとの会話内容は実生活で使えそうですか？　10．実験でＡＩアプリを使った時間はちょうどよかったですか？
11．ＡＩの反応は早かったですか？　12．他に使ってみたい機能はありますか？あれば教えてください。
上記に加えて、日本語力・これまでに学んだ教育についてのアンケート（テスト形式）

対話型音声ＡＩアプリ・ログ管理内容　※実証実験終了後に各自のアプリの使用状況であるため、受験者を受講生と表記

管理者側機能①
【受講生情報】
1.受講生氏名　2.生年月日　3.年齢　4.入国日（海外の日本語学校の場合は予定）　5.出身国　6.日本語学習時間（アプリ使用前）
7.日本語レベル（JLPT）　8.メールアドレス　9.電話番号

管理者側機能②
【受講状況（アプリ使用状況）】
1.過去６ヶ月分の月別使用時間の表示
2.一月の日別使用時間の表示
3.一日の時間帯別使用時間の表示

管理者側機能③
【キーワード】
各受講生がアプリ内で行った会話の中で、多く発したキーワードをランキング形式で表示（過去６ヶ月のキーワード）

▶実施日時：２０２５年１０月2日（木）１３：００～１４：１０
▶人数：２０名
▶日本語レベル（ＪＬＰＴ）：Ｎ３（１名）、Ｎ４（９名）、Ｎ５（７名）、なし（３名）
▶ターゲット国：ミャンマー（１名）、ネパール（３名）、スリランカ（５名）　計９名

▶実証実験内容

１０分	挨拶・本事業の紹介・実証実験の目的の説明（ＰＲ動画を使用）
５分	対象学生のアプリ接続・自由に会話を行う
２０分	シチュエーション毎の会話（各約３分） ・移動に関するシチュエーション ・買い物に関するシチュエーション ・病気の時のシチュエーション ・自動車の基礎を学ぶシチュエーション ・入国後すぐに学ぶ内容 ・アルバイトや役所に関するシチュエーション
２５分	日本語・計算・数学力テスト
１０分	アンケートとまとめ

▶実証実験風景

【講師写真】

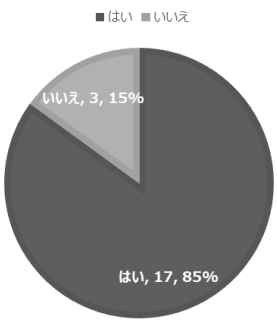


【授業風景】



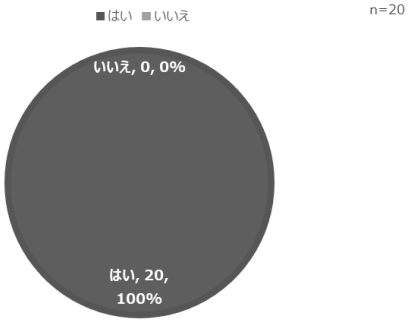
▶アンケート

１.使い方は簡単でしたか？



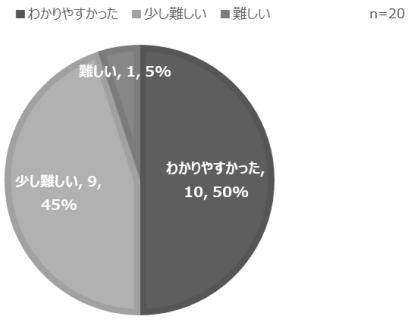
受講生の８５％が簡単と回答

2.ＡＩとの会話は役に立ちましたか？



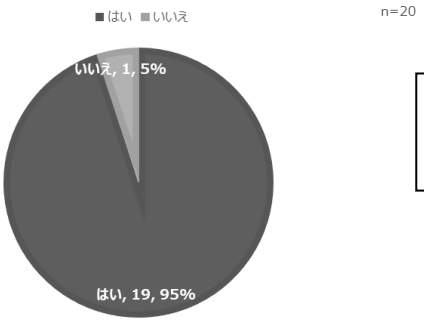
受講生全員が役立つと回答

3.ＡＩの日本語はわかりやすかったですか？



わかりやすい５０％、少し難しかった４５％の回答傾向

4.ＡＩアプリを使うと日本語の勉強が楽しくなりそうですか？



受講生の９５％が楽しくなりそうと回答

5.良かったところは何ですか？（※回答者原文のまま）

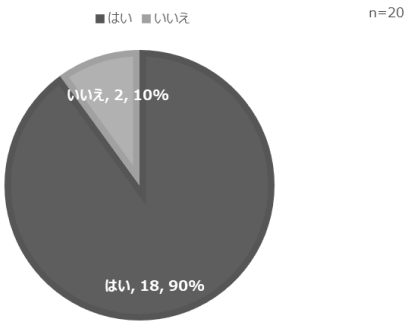
・だいたいのことは教えますから、とても便利だと思う。
・ＡＩの答えはとてもよかった。
・ＡＩの答えはたのしいです。
・日本語でこたえのはとてもべんりだと思ってだいじょうぶです。
・こたえ方とこえがよかったです。
・しつもんしたことをすべてにかんたんなことうがかってくれました。
・こたえ方がよかったです。
・漢字がよくありますからぜんぶわからないです。
・かいわよかったです。

・使いやすい。
・とても便利だと思います。
・べんりだとおもいます。
・使いやすかったです。
・よかったところはＹＩＣせんもんがっこうとかじどうしゃのせんもんです。
・やまとかうみなどです。
・ＡＩのせつめいです。
・詳しいことおしえてくれました。
・日本語べんきょうためにやくに立ちます。
・早いしかんたんなこたえます。
・日本語でしつもんして AI アプリただしいこたえおしえてもらいました。

6.改善してほしいところは何ですか？（※回答者原文のまま）

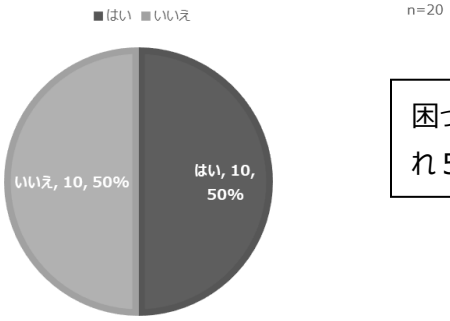
・フリガナを使ってほしい。
・前に聞いたことを消さないでほしい。
・せつめいはながかった。
・かんじがおおいのですくないほしい。
・ちょっとゆっくりはなしてほしいです。
・少しゆっくりはなしていいと思います。
・話している。
・ないです。
・ほかのげんご。
・現在、改善は日本語を使いますけど、他の言語を欲しいんです。
・こたえのかんじの上はひらがながかいてほしいいです。
・うちでたくさんにほんごをべんきょうしたり、にほんごではなしたりします。
・かんじとかことばたくさんべんきょうするべきだ。
・ＡＩのせつめいはもっとくわしかったらいいと思います。
・日本語以外のきき力もできたら、もっとたすかります。
・マイクはだいたいききませんでした。
・むずかしいかんじよみますからとわからないことをべんきょうすることができます。
・えもあるし、せつめいするときはっきりゆっくりはなせれば、よくわかれます。

7.今後もこのＡＩアプリを使いたいですか？



受講生の９０%が今後も使いたいと回答

8.ＡＩアプリで勉強するとき、困ったことはありましたか？

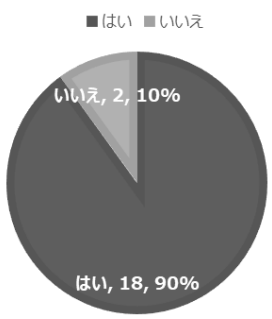


困ったとそうではなかったがそれぞれ５０%という回答傾向

あれば教えてください。（※回答者原文のまま）

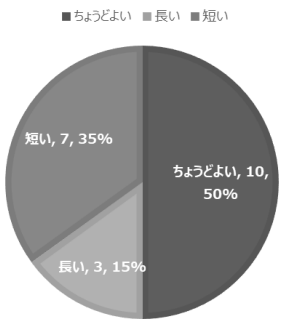
・おなじいみのあるぶんぽうのせつめいのとき、ちょっとわかりにくい。
・ぶんぽうはにがってときくらべるときあまりせつめいしないだと思います。
・かんじが多いです。
・ＡＩアプリでべんきょうはとてもやさしいそれまらなにももんだいがありません。
・ＡＩアプリは私のはつおんがあまりわかりません。
・時々アプリは私の声を聞こえません。
・話すとき次の単語を考えるために止まったら、マイクがよく消しました。
・発音と入力うまくできないとき。はなすときだいたいつかえません。
・なにもかもったないですけど、たいていしつもんがよくわかりませんからちがうこたえはなしかもしれません。

9．ＡＩとの会話内容は実生活で使えそうですか？



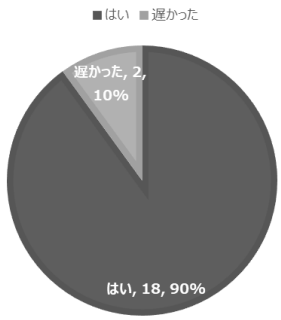
受講生の９０％がＡＩとの会話が実生活で使えそうと回答

10．実験でＡＩアプリを使った時間はちょうどよかったですか？



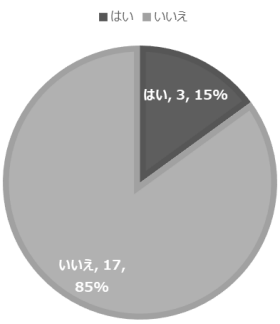
受講生の５０％が実証実験の時間はちょうどよい、３５％が短いという回答傾向

11．ＡＩの反応は早かったですか？　（はい・遅かった）



受講生の９０％が反応は早かったと回答

12．他に使ってみたい機能はありますか？



受講生の８５％は他の機能は必要なくこのままで十分と回答

あれば教えてください。（※回答者原文のまま）

・しゃしんを使ってほしいですが、アプリはできないと言われています。
・しゃしんをとってしつもんしたいです。
・正しい判断とせんたくしてもらいたいです。

【アンケート結果から】

日本に入って間もない３カ月程の留学生が対象であった。操作性や楽しく勉強できる、実生活で使えるといった項目は高評価であったが、実証実験の実施時期時点では、日本語能力を身に付け始めている学生にとっては、会話やテキストで出てくる漢字、文法などがまだまだ理解できないことが伺え、日本に留学する前の日本語教育の課題が見え始めてきたと考える。

本事業で開発を進めている対話型音声ＡＩアプリについては、高評価を得られている。ただし、留学生自身の日本語能力の足りなさといった背景から評価が下がっている項目がある。

この結果から、海外の日本語学校への実証実験は必要であり、その結果から、現地日本語学習手法について検討を重ねていく機会が必要と考える。

▶テスト成績（国語）

				問題1-1		問題1-2		問題1-3		問題1-4		問題2-1		問題2-2		問題2-3		問題3-1		問題3-2	
		JLPT	国語	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤
			19問	5	15	13	7	7	13	3	17	5	15	11	9	12	8	8	12	10	10
1	ネパール	なし	10		1	1			1		1		1		1		1	1		1	
2	ネパール	5	8		1		1		1		1		1	1			1	1		1	
3	ネパール	5	5		1		1		1		1		1		1		1		1		1
4	ミャンマー	4	11	1		1			1		1		1	1			1	1			1
5	スリランカ	5	3		1	1			1		1		1	1		1			1		1
6	スリランカ	5	8		1		1	1			1		1		1	1			1		1
7	スリランカ	4	4		1	1			1		1		1		1		1		1		1
8	スリランカ	5	3		1	1			1		1		1	1		1			1		1
9	スリランカ	なし	2		1		1	1			1		1		1		1		1		1
10	フィリピン	4	14		1	1			1	1			1	1		1		1			1
11	フィリピン	4	14	1		1		1		1		1			1	1			1	1	
12	フィリピン	4	2		1		1		1		1		1	1		1			1		1
13	フィンランド	なし	15	1		1			1		1	1		1		1		1		1	
14	バングラデシュ	5	13	1		1		1			1	1			1		1	1		1	
15	バングラデシュ	4	11	1			1	1			1		1		1	1			1	1	
16	インドネシア	4	12		1	1		1			1		1	1		1		1		1	
17	台湾	3	12		1	1		1		1		1			1	1		1		1	
18	シリア	5	6		1	1			1		1	1		1		1			1	1	
19	ブラジル	4	8		1	1			1		1		1	1		1			1	1	
20	インド	4	1		1		1		1		1		1	1			1		1		1

8.1

問題4-1		問題4-2		問題4-3		問題4-4		問題4-5		問題4-6		問題5-1		問題5-2		問題5-3		問題5-4	
正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤
11	9	5	15	11	9	6	14	7	13	7	13	12	8	9	11	14	6	6	14
1		1		1		1			1		1	1			1	1		1	
1			1		1		1	1			1	1		1		1			1
1			1		1		1	1			1	1		1		1			1
1			1	1			1	1		1		1		1		1			1
	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1
	1	1		1		1		1			1		1		1	1		1	
	1		1	1			1		1		1		1		1	1		1	
	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1		1	1			1		1
1		1		1		1		1		1		1		1		1			1
1		1		1		1			1	1		1			1	1			1
	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1
1			1	1		1		1		1		1		1		1			1
1			1	1			1		1	1		1		1		1		1	
1			1	1			1		1	1		1		1		1		1	
	1	1		1		1		1			1	1			1	1			1
	1		1	1			1		1		1	1		1		1		1	
1			1		1		1		1		1		1		1		1		1
1			1		1		1		1	1		1			1	1			1
	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1

【テスト結果から】

ターゲット国の成績結果は、ミャンマー、ネパール、スリランカの順であった。特にスリランカは大きく平均点を下回っていた。開発する対話型ＡＩアプリを活用することで、日本語力がどのように変化していくのか実証実験で検証続けていく必要があると考える。

▶テスト成績（算数・計算）

				問題6-1		問題6-2		問題6-3		問題6-4		問題6-5		問題6-6		問題6-7		問題6-8	
		JLPT	数学	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤
			14問	15	5	6	14	7	13	9	11	7	13	5	15	6	14	6	14
1	ネパール	なし	9	1		1		1		1		1		1			1		1
2	ネパール	5	1	1			1		1		1		1		1		1		1
3	ネパール	5	7	1			1	1		1		1		1		1		1	
4	ミャンマー	4	1	1			1		1		1		1		1		1		1
5	スリランカ	5	0		1		1		1		1		1		1		1		1
6	スリランカ	5	1	1			1		1		1		1		1		1		1
7	スリランカ	4	1		1		1		1	1			1		1		1		1
8	スリランカ	5	0		1		1		1		1		1		1		1		1
9	スリランカ	なし	3	1		1			1	1			1		1		1		1
10	フィリピン	4	11	1		1			1	1		1			1	1		1	
11	フィリピン	4	8	1		1		1			1		1		1	1		1	
12	フィリピン	4	0		1		1		1		1		1		1		1		1
13	フィンランド	なし	8	1		1		1		1		1		1		1		1	
14	バングラデシュ	5	1	1			1		1		1		1		1		1		1
15	バングラデシュ	4	1	1			1		1		1		1		1		1		1
16	インドネシア	4	8	1		1		1		1		1		1		1			1
17	台湾	3	8	1			1	1		1		1		1			1		1
18	シリア	5	0		1		1		1		1		1		1		1		1
19	ブラジル	4	3	1			1		1		1		1		1	1		1	
20	インド	4	7	1			1	1		1		1			1		1	1	
			3.9																

問題7-1		問題7-2		問題7-3		問題7-4		問題8-1		問題8-2	
正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤
6	14	5	15	3	17	2	18	1	19	0	20
1		1		1			1		1		1
	1		1		1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1
1		1		1		1		1			1
1		1			1	1			1		1
	1		1		1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1
1			1		1		1		1		1
1		1		1			1		1		1
	1		1		1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1
1		1			1		1		1		1

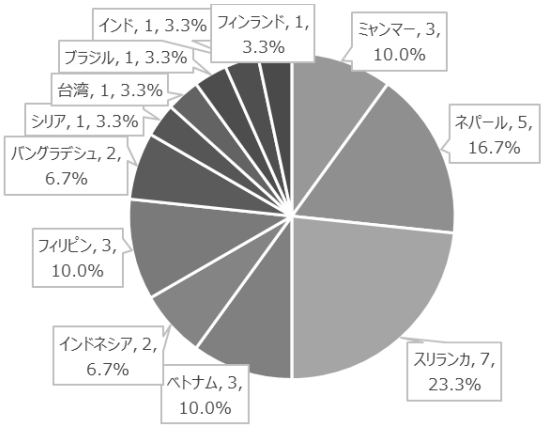
【テスト結果から】

ターゲット国の成績結果は、ネパール、ミャンマー、スリランカの順であった。実際に、現地では単に、学習項目になく学んでいないことや都心部や農業地域といった地域性で教育の差があることが浮き彫りになった結果であった。

③日本語学校トータル結果

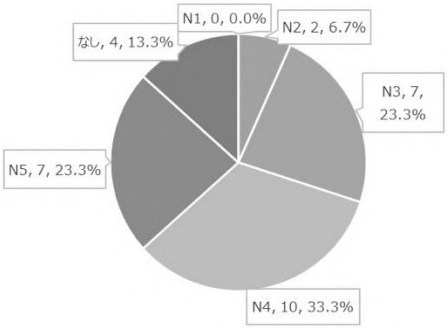
▶受講者出身国

ミャンマー	3	10.0%
ネパール	5	16.7%
スリランカ	7	23.3%
ベトナム	3	10.0%
インドネシア	2	6.7%
フィリピン	3	10.0%
バングラデシュ	2	6.7%
シリア	1	3.3%
台湾	1	3.3%
ブラジル	1	3.3%
インド	1	3.3%
フィンランド	1	3.3%
	30	100%



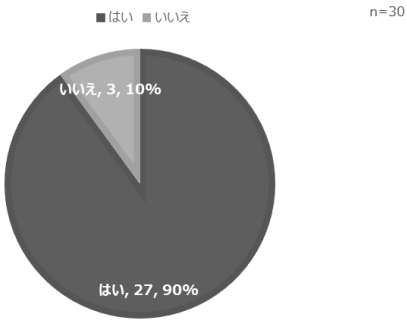
▶受講者日本語レベル

N1	0	0.0%
N2	2	6.7%
N3	7	23.3%
N4	10	33.3%
N5	7	23.3%
なし	4	13.3%
	30	100%



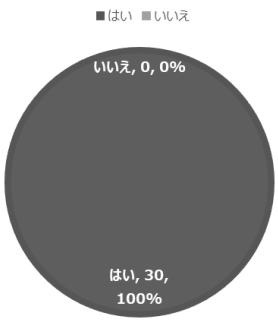
▶トータルアンケート

1.使い方は簡単でしたか？



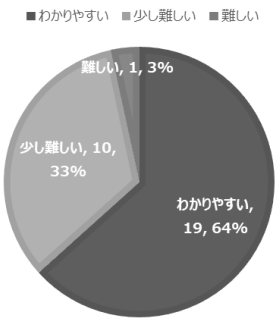
受講生の９０%が簡単と回答

2.ＡＩとの会話は役に立ちましたか？



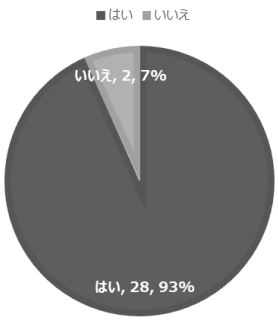
受講生全員が役立つと回答

3.ＡＩの日本語はわかりやすかったですか？



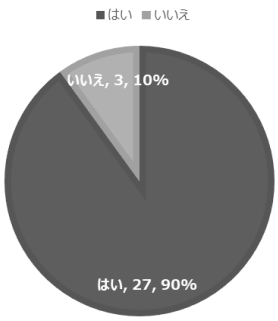
わかりやすい６４%、少し難しい３３%の回答傾向

4.ＡＩアプリを使うと日本語の勉強が楽しくなりそうですか？



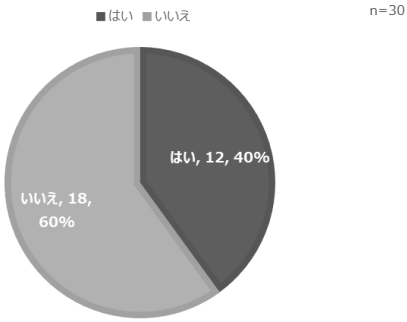
受講生の９３%が楽しくなりそうと回答

7.今後もこのＡＩアプリを使いたいですか？



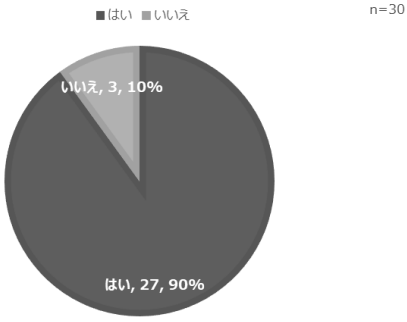
受講生の９０%が今後も使いたいと回答

8.ＡＩアプリで勉強するとき、困ったことはありましたか？



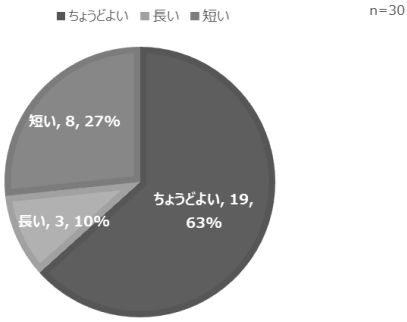
困ってないが６０%という回答傾向

9．ＡＩとの会話内容は実生活で使えそうですか？



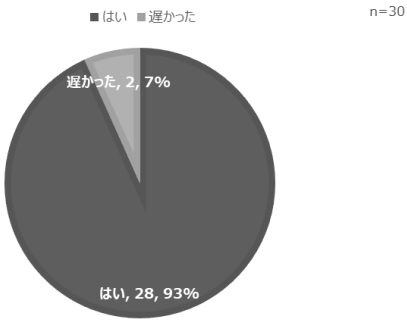
受講生の９０%がＡＩとの会話が実生活で使えそうと回答

10．実験でＡＩアプリを使った時間はちょうどよかったですか？



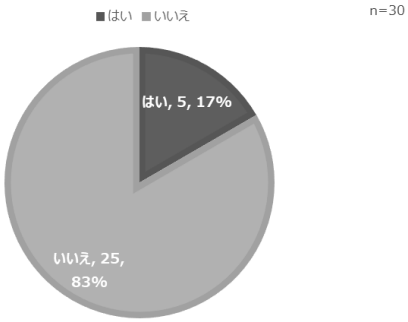
受講生の６３%が実証実験の時間はちょうどよい、２７%が短いという回答傾向

11．ＡＩの反応は早かったですか？　（はい・遅かった）



受講生の９３%が反応は早かったと回答

12. 他に使ってみたい機能はありますか？



受講生の８３％は他の機能は必要なくこのままで十分と回答

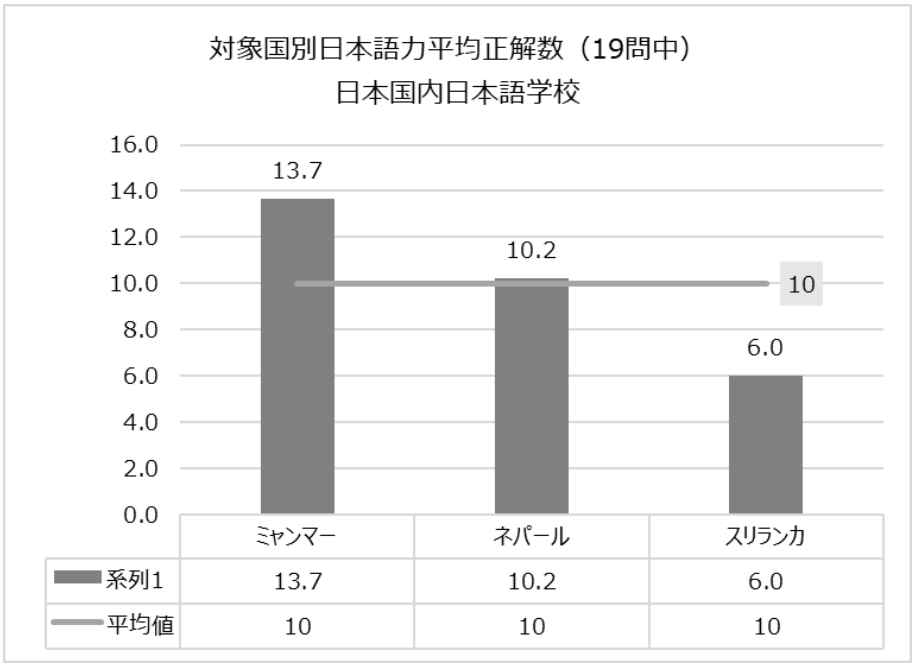
【アンケート結果から】

本事業で開発した対話型ＡＩアプリの操作方法や会話のやりとりが実生活に役に立つ、勉強が楽しくなりそう、今後も使い続けていきたいという点において高評価が得られている。

留学して間もない留学生からある程度環境に慣れ始めている留学生において、有効な教育ツールであると考えられる。

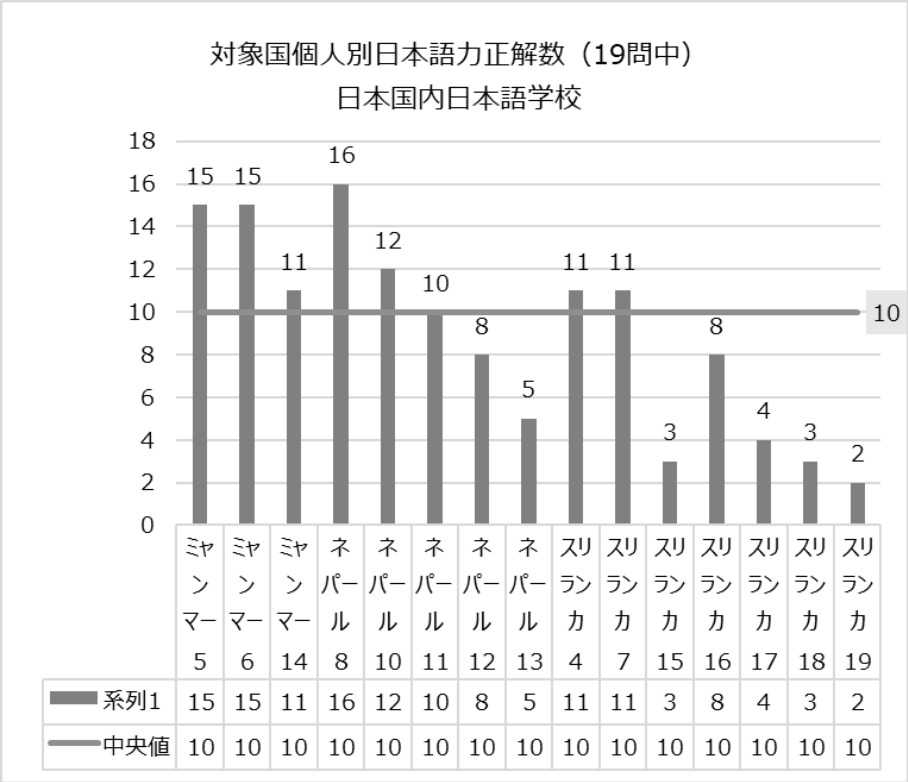
今後、日本語力を高め、コミュニケーションを図る基礎作りにおいて、様々な検証を重ねていくために有効な開発ができていると考える。

▶ミャンマー、ネパール、スリランカターゲット国の日本語試験結果

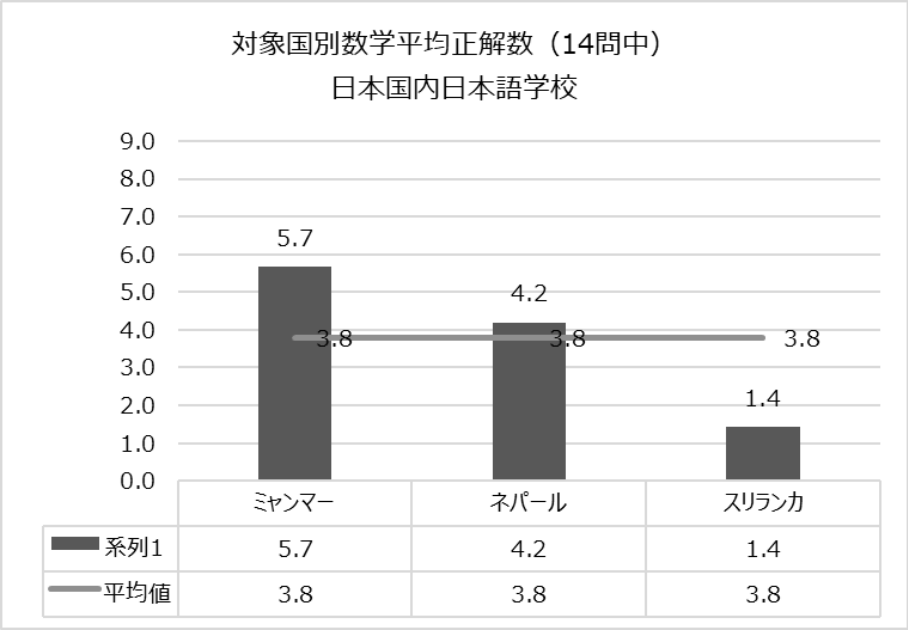


【試験結果から】

ターゲット国を比較するとミャンマー、ネパール、スリランカの順位であった。

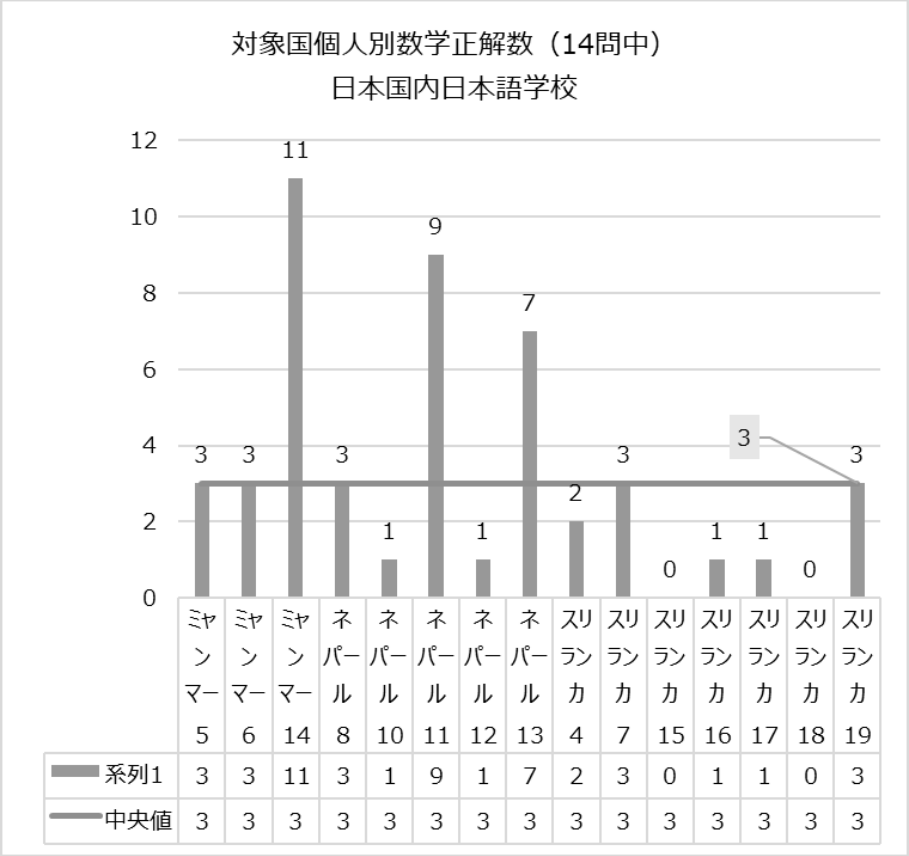


▶ミャンマー、ネパール、スリランカターゲット国の数学試験結果



【試験結果から】

ターゲット国を比較するとミャンマー、ネパール、スリランカの順位であった。



【試験結果から】

日本語学校在籍時点では、日本語力と数学力ともに、ターゲット国を比較するとミャンマー、ネパール、スリランカの順位であった。

教材ツールとして開発した対話型ＡＩアプリを教材ツールとして活用することで、ターゲット国の学力順位の変動があるのか、個々の日本語力向上につながるのかなど実証実験を通して検証を重ねていく。

（２）自動車整備系専門学校

①〈専〉ＹＩＣ京都工科自動車大学校（京都）

▶シラバス・コマシラバス

委託内容	専修学校の国際化推進事業	本事業名	自動車整備分野留学生ＥＭ事業（略称）	年度	令和７年度（2025 年度）
実施校名	〈専〉ＹＩＣ京都工科自動車大学校	実施日	年　月　日	実施形態	対面式

実証実験の概要	令和６年度に開発した対話型音声ＡＩアプリを使用した実証実験を行う。		
実験の到達目標	・学生が本事業で開発した対話型音声ＡＩアプリを活用しての使い勝手に関することなどの感想を聞き出し、まとめ、整理し、改善へつなげる。 ・ログの検証（利用状況の把握と監査・パフォーマンス分析・トラブルシューティング・セキュリティ対策等）を行いＳＴＥＰ２へつなげる。 ・受験生のキャリア（回答者の属性）を調査し、回答者による傾向値を分析する。		
受験対象者条件	・自動車整備系専門学校日本語学校を卒業し、自動車整備専門学校で学んでいるＮ４レベル以上の留学生 （想定人数：20 人～25 人/クラス・校）		
使用するアプリ	「ＡＩ先生と日本語を学ぼう」	使用する資料	自動車整備系専門学校実証実験アンケート（様式 2） ※各アンケートには基礎学力テストを含む
機器、準備物	・プロジェクターまたはモニター（接続ケーブル含む） ・ノートＰＣおよびタブレット ・ポケット Wi-Fi ・ログイン用紙 ・アンケート用紙（基礎学力テスト含む）	関連サイト	https://yic-aienroll.jp/

実証実験の構成（進め方・配分）

順番	場所	時間（所要時間）	コマの構成/実施内容	備考
1	教室	１２：３５～１３：００（２５分）	直前打合せ 教室準備 ネット環境の確認 プロジェクター等の確認 受験者（対象学生）入室	配布物・ＰＣ・タブレット等の準備
2	教室	１３：００～１３：１０（１０分）	挨拶 本事業の紹介 実証実験の目的説明 ＰＲ動画も活用する（受験生の日本語理解度の確認にも活用）	ログイン用紙の配布
3	教室	１３：１０～１３：１５（５分）	受験者のアプリ接続 自由に会話を行い、アプリに慣れてもらう。	―

4	教室	１３：１５～１３：３５ （２０分）	シチュエーション毎の会話（各約３分） ①自動車用語について ②工具の名前や和製英語について ③接客や上司との会話について ④基礎工学・メーカーによる部品名称等の違いについて ⑤ビジネスマナーについて	ＰＰＴにてシチュエーションを表示
5	教室	１３：３５～１４：００ （２５分）	アンケートとまとめ （日本語力・数学力含む）	アンケート用紙の配布
6	控室	１４：００～	意見交換	状況により終了時間は調整

実証実験アンケート項目

1. 使い方は簡単でしたか？　2. ＡＩとの会話は役に立ちましたか？　3. ＡＩの日本語はわかりやすかったですか？
4. ＡＩアプリを使うと日本語の勉強が楽しくなりそうですか？　5. 良かったところは何ですか？　6. 改善してほしいところは何ですか？
7. 今後もこのＡＩアプリを使いたいですか？　8. ＡＩアプリで勉強するとき、困ったことはありましたか？あれば教えてください。
9. ＡＩとの会話内容は実生活で使えそうですか？　10. 実験でＡＩアプリを使った時間はちょうどよかったですか？
11. ＡＩの反応は早かったですか？　12. 他に使ってみたい機能はありますか？あれば教えてください。
上記に加えて、日本語力・これまでに学んだ教育についてのアンケート（テスト形式）

対話型音声ＡＩアプリ・ログ管理内容　※実証実験終了後に各自のアプリの使用状況であるため、受験者を受講生と表記

管理者側機能①
【受講生情報】
1.受講生氏名　2.生年月日　3.年齢　4.入国日（海外の日本語学校の場合は予定）　5.出身国　6.日本語学習時間（アプリ使用前）
7.日本語レベル（JLPT）　8.メールアドレス　9.電話番号

管理者側機能②
【受講状況（アプリ使用状況）】
1.過去６ヶ月分の月別使用時間の表示
2.一月の日別使用時間の表示
3.一日の時間帯別使用時間の表示

管理者側機能③
【キーワード】
各受講生がアプリ内で行った会話の中で、多く発したキーワードをランキング形式で表示（過去６ヶ月のキーワード）

▶実施日時：２０２５年１１月１０日（月）１３：００～１４：１０
▶人数：３７名
▶日本語レベル（ＪＬＰＴ）：N2（１１名）、N3（１４名）、N4（３名）、なし（９名）
▶ターゲット国：ミャンマー（４名）、ネパール（２１名）、スリランカ（４名）　計２９名
▶実証実験内容

１０分	挨拶・本事業の紹介・実証実験の目的の説明（ＰＲ動画を使用）
５分	対象学生のアプリ接続・自由に会話を行う
２０分	シチュエーション毎の会話（各約３分） ・自動車整備士資格習得に向けた専門用語 ・専門学校の学習環境のシチュエーション ・自動車整備業界のシチュエーション ・自動車の基礎を学ぶシチュエーション ・基礎自動車工学・メーカーによる部品名称等の違い ・ビジネスマナー・ BtoB ・電話や窓口に関するシチュエーション
２５分	日本語・計算・数学力テスト
１０分	アンケートとまとめ

▶実証実験風景

【講師写真】

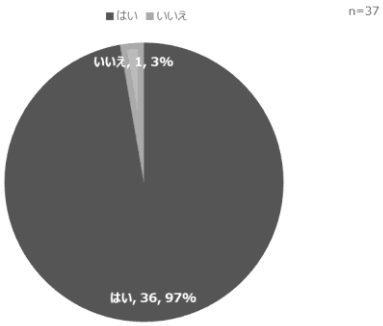


【授業風景】



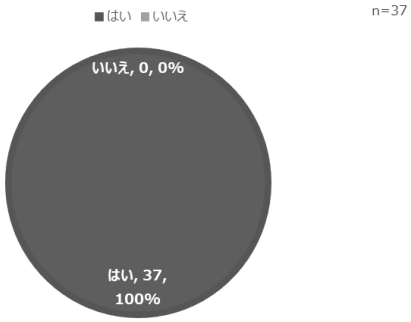
▶アンケート

１.使い方は簡単でしたか？



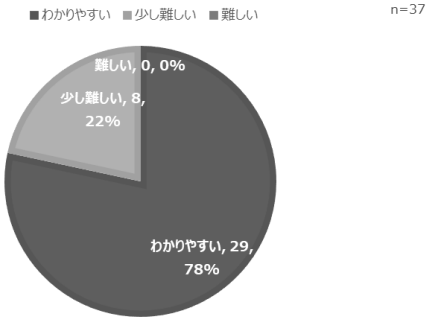
受講生の９７％が簡単と回答

2.ＡＩとの会話は役に立ちましたか？



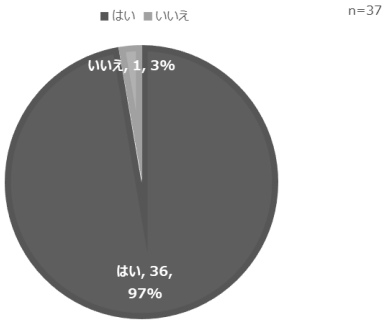
受講生全員が役立つと回答

3.ＡＩの日本語はわかりやすかったですか？



受講生の７８％がわかりやすいと回答

4.ＡＩアプリを使うと日本語の勉強が楽しくなりそうですか？



受講生の９７％が楽しくなりそうと回答

5.良かったところは何ですか？（※回答者原文のまま）

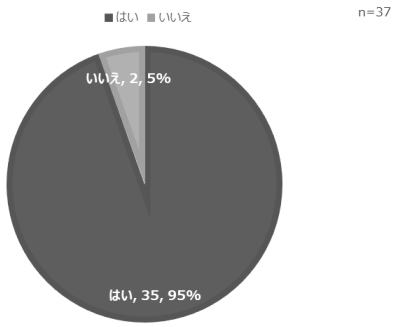
・どんなしつもんしても簡単にせつめいしてくれます。
・聞きたいことはすぐにかいとうしてくれること。
・わかりやすい。
・なんでも答えできることです。
・会語をすることです。
・使りたいことをさがすのはかんたん。
・簡単やよく役に立つです。
・きいたことは何でもこたえることです。
・自分のこえかけてしつもんするはよかったです。

・なんでもきいたらこたえでるのでなんでもきくことができる。
・すぐこたえられるアプリ。
・はつおんがちがうでもよくこたえられる。
・なにかききたいをきいたらすぐにこたえられのでよかったです。
・何でも教えてくれたのでよかったと思います。
・ＡＩアプリの日本語はわかりやすいです。
・かんたんなことでくらしくせつめいします。
・すぐこたえられるやさしい日本語ではなすところです。
・こまかなことでもおしえましす使い方はかんたん日本語の会話練習がたくさんできて、とてもよかったです。
・わからないことをわかるようにきこえます。
・会話ができることがよいと思います。
・留学生のことを分かる AI だから良かったです。
・わからないことがあったらすぐしつもんしたりとかできるようになっています。
・すう分ともだちになってくれた。
・自分のわからないことＡＩからかんたんにできる。
・何を聞いても簡単におしえてくれるからよいへんじしてくれたこと何でも答える日本語で会話できること。
・使いやすいです。
・わからないことおしえてもらいました。

6.改善してほしいところは何ですか？（※回答者原文のまま）

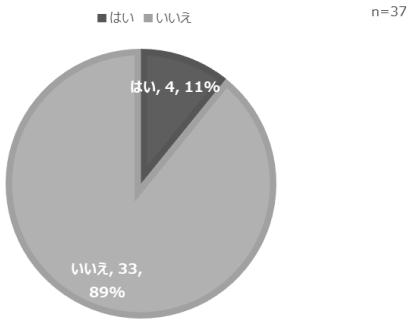
・ネパールごとえいごでもだしてほしい。
・会話だけじゃなくて写真でもできるようにしてほしいです。
・写真も送っていただけるといいとおもいます。
・今はそんなにないけど、母国でもしつもんできればよいです。
・内容がもう少し正確率であればほしいです。
・よくできてますのであまりかいぜんすることはないと思います。
・しゃしんを入れて学びたいことをほんやくしてもらえばいいんです。
・ときどきしつもんとこたえちょっとまちがっています。
・かくのはいやだ。
・ないです。
・もう少しゆっくり話してくれると、もっとわかりやすいと思います。
・日本語のことばをはつおんも改善してほしいです。
・写真もついてきたらとてもいいと思います！
・しゃべりすぎ。もうちょっとすくなくはなした方がいい。
・background をかわってほしい！つまらないです。
・音の開閉。

7.今後もこのＡＩアプリを使いたいですか？



受講生の９５％が今後も使いたいと回答

8.ＡＩアプリで勉強するとき、困ったことはありましたか？

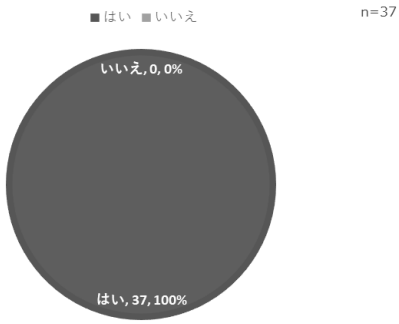


受講生の８９％がアプリを使って勉強することに困らないと回答

あれば教えてください。（※回答者原文のまま）

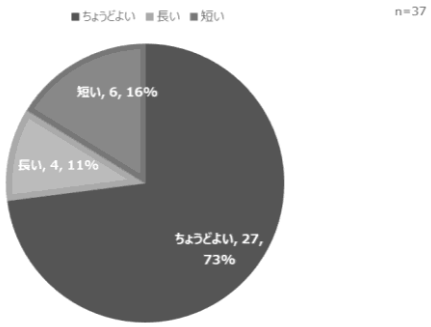
・ときどきただしいこたえはでないしたくさんこまかいことおしえてくれない。
・ときどき聞き取りにくいいことがありましたが、すぐ慣れました。
・ないと思います。
・車の部品の名前はカタカナだから外国人の発音ははっきりできないこともありますから部品の名詞を英語といっしょにできたら助かります。

9．ＡＩとの会話内容は実生活で使えそうですか？



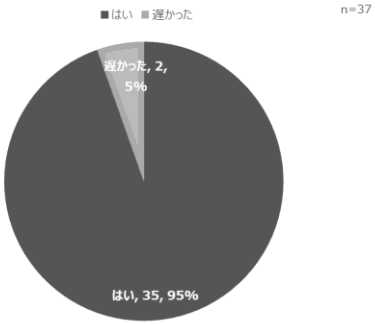
受講生全員がＡＩとの会話が実生活で使えそうと回答

10．実験でＡＩアプリを使った時間はちょうどよかったですか？



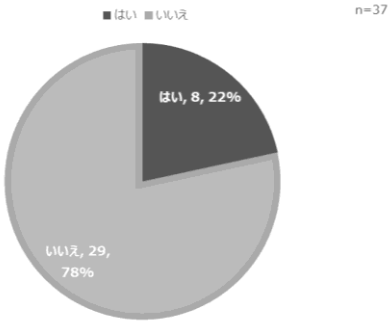
受講生の７３％が実証実験の時間はちょうどよい、１６％が短いと回答

11．ＡＩの反応は早かったですか？　（はい・遅かった）



受講生の９５％が反応は早かったと回答

12．他に使ってみたい機能はありますか？



受講生の７８％は他の機能は必要なくこのままで十分と回答

あれば教えてください。（※回答者原文のまま）

・勉強についていろいろしつもんがあります。
・べんきょういがいたとえばにほんのぶんかについて。
・しゃしんをとっておくること

【アンケート結果から】

全体的に肯定的で高評価であったが、特に、操作性やＡＩとの会話は役立つ、楽しく勉強できる、実生活で使える、今後も使っていきたいといった項目への高評価は、本事業で開発を進めている対話型音声ＡＩアプリは留学生に受け入れられると評価できる。

ただし、この結果から、環境整備をどのように整えていくのか実証実験を通し、ログ管理の有効な使い方など検証を重ねていく必要があると考える。

▶テスト成績（国語）

				問題1-1		問題1-2		問題1-3		問題1-4		問題2-1		問題2-2		問題2-3		問題3-1		問題3-2	
		JLPT	国語	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤
			19問	13	24	33	4	22	15	33	4	26	11	27	10	26	11	21	16	17	20
1	ネパール	なし	13		1	1			1	1		1		1		1		1		1	
2	ネパール	4	13		1	1		1		1		1		1		1		1			1
3	ネパール	3	8		1	1			1	1			1		1		1		1		1
4	ネパール	3	9		1	1			1	1			1	1		1			1		1
5	ミャンマー	2	14		1	1		1		1		1		1		1		1		1	
6	ネパール	なし	11	1		1		1			1	1		1		1			1		1
7	スリランカ	3	15	1		1		1		1		1		1		1			1		1
8	ネパール	なし	14	1		1			1	1		1		1		1		1			1
9	ネパール	2	12		1	1			1	1		1			1	1		1			1
10	ネパール	2	7		1		1		1	1			1	1		1			1	1	
11	ネパール	なし	11		1	1		1		1		1		1			1	1			1
12	中国	3	14		1	1		1		1		1			1	1		1		1	
13	ネパール	なし	6		1		1		1		1		1	1		1		1			1
14	ネパール	3	13		1	1		1		1		1		1			1	1		1	
15	ネパール	3	12		1	1		1		1			1	1			1	1		1	
16	ネパール	4	12		1	1		1		1			1	1			1		1	1	
17	ネパール	3	13		1	1		1		1		1			1		1	1		1	
18	バングラデシュ	なし	11		1	1		1		1		1			1	1			1	1	
19	ネパール	2	11		1	1			1	1		1			1	1			1	1	
20	ネパール	3	9		1		1		1		1	1		1		1			1		1
21	ネパール	なし	15	1		1		1		1		1		1		1		1		1	
22	ベトナム	2	14	1		1		1		1		1		1		1			1		1
23	バングラデシュ	2	11		1	1			1	1		1		1			1		1		1
24	バングラデシュ	3	2		1		1		1		1		1		1		1		1	1	
25	スリランカ	なし	11		1	1		1		1		1		1		1			1	1	
26	スリランカ	3	15	1		1		1		1		1		1		1		1			1
27	ネパール	3	11		1	1			1	1			1	1			1	1			1
28	ミャンマー	2	11		1	1		1		1			1		1		1	1		1	
29	ミャンマー	3	13	1		1		1		1			1	1		1		1			1
30	バングラデシュ	2	8	1		1		1		1		1		1		1			1		1
31	ミャンマー	2	17		1	1		1		1		1		1		1		1		1	
32	ネパール	3	16	1		1			1	1		1		1		1		1		1	
33	ネパール	2	10		1	1		1		1			1		1	1			1		1
34	ネパール	2	17	1		1		1		1		1		1		1		1		1	
35	ベトナム	なし	14	1		1			1	1		1			1		1	1			1
36	ベトナム	3	13	1		1		1		1		1		1		1		1			1
37	スリランカ	4	9	1		1			1	1		1		1		1			1		1

12

問題4-1		問題4-2		問題4-3		問題4-4		問題4-5		問題4-6		問題5-1		問題5-2		問題5-3		問題5-4	
正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤
29	8	14	23	31	6	12	25	9	28	20	17	32	5	21	16	25	12	24	13
1			1	1			1		1		1	1		1		1		1	
1			1	1		1			1	1		1			1	1			1
1			1	1		1			1	1		1			1		1	1	
1		1		1			1		1		1	1			1	1			1
	1		1	1			1	1		1		1			1	1		1	
1		1		1			1		1		1	1		1			1		1
1			1	1		1			1	1		1		1		1		1	
	1	1		1			1		1	1		1		1		1		1	
1			1	1		1			1	1			1	1		1		1	
	1		1		1		1		1		1	1		1		1			1
1			1	1			1		1		1	1			1	1		1	
	1	1		1			1		1	1		1		1		1		1	
1			1	1			1		1	1			1		1		1		1
	1	1		1			1		1	1		1			1	1		1	
1			1	1			1		1	1		1			1	1		1	
1			1	1			1	1			1	1		1		1		1	
1			1	1		1		1			1	1		1			1	1	
1		1		1			1		1	1			1		1	1			1
1			1	1			1		1	1		1		1			1	1	
1			1	1		1			1		1	1		1		1			1
1		1			1	1		1			1		1	1		1			1
1		1		1			1	1			1	1			1	1		1	
1			1	1			1		1		1	1		1		1		1	
1			1		1		1		1		1		1	1		1			1
1			1	1			1		1		1	1			1	1		1	
	1		1	1			1		1	1		1		1		1		1	
	1		1		1		1		1		1	1			1		1		1
1		1		1		1		1			1	1			1	1		1	
	1	1		1		1		1			1	1		1		1		1	
1			1	1			1		1	1		1		1			1	1	
1		1		1		1			1	1		1			1	1		1	
1		1		1		1		1		1		1		1		1			1
1		1		1			1		1		1	1			1	1			1
1			1	1			1		1		1	1			1		1		1

【テスト結果から】

ターゲット国の平均点における成績結果は、ミャンマー、スリランカ、ネパールの順であった。ネパールの人数が多く、この結果を鵜呑みにできないが、本テスト結果ではこのような結果となった。日本語学校から専門学校に入学した場合、スリランカの伸び率が高いことが伺える。

今後、実証実験を重ねていくことで、ターゲット国の日本語力向上がどのように変わるのか、実証実験で検証続けていく必要があると考える。

▶テスト成績（算数・計算）

				問題6-1		問題6-2		問題6-3		問題6-4		問題6-5		問題6-6		問題6-7		問題6-8	
		JLPT	数学	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤
			14問	34	3	34	3	10	27	14	23	8	29	4	33	25	12	28	9
1	ネパール	なし	6	1		1			1		1		1		1	1		1	
2	ネパール	4	3	1		1			1	1			1		1		1		1
3	ネパール	3	10	1		1			1	1		1			1	1		1	
4	ネパール	3	11	1		1		1		1		1			1	1		1	
5	ミャンマー	2	8	1		1			1		1		1		1	1		1	
6	ネパール	なし	6	1		1			1		1		1		1	1		1	
7	スリランカ	3	6	1		1			1		1		1		1	1		1	
8	ネパール	なし	5	1		1			1		1		1		1		1		1
9	ネパール	2	6	1		1			1		1		1		1	1		1	
10	ネパール	2	6	1		1			1		1		1		1	1		1	
11	ネパール	なし	6		1	1			1	1			1		1	1		1	
12	中国	3	13	1		1		1		1		1			1	1		1	
13	ネパール	なし	6	1		1			1		1		1		1	1		1	
14	ネパール	3	4	1		1			1		1		1		1	1		1	
15	ネパール	3	2	1		1			1		1		1		1		1		1
16	ネパール	4	6	1		1			1	1			1		1		1	1	
17	ネパール	3	4	1			1	1		1			1		1	1			1
18	バングラデシュ	なし	2	1		1			1		1		1		1		1		1
19	ネパール	2	1	1			1		1		1		1		1		1		1
20	ネパール	3	7	1		1		1		1			1		1		1	1	
21	ネパール	なし	5	1		1			1		1		1		1		1	1	
22	ベトナム	2	7	1		1		1		1		1			1	1		1	
23	バングラデシュ	2	8	1		1			1		1		1		1	1		1	
24	バングラデシュ	3	1		1	1			1		1		1		1		1		1
25	スリランカ	なし	9	1		1			1		1		1		1	1		1	
26	スリランカ	3	5		1	1			1		1		1		1	1		1	
27	ネパール	3	8	1			1		1		1		1	1		1		1	
28	ミャンマー	2	11	1		1		1		1		1			1	1		1	
29	ミャンマー	3	4	1		1		1		1			1		1		1		1
30	バングラデシュ	2	14	1		1		1		1		1		1		1		1	
31	ミャンマー	2	8	1		1			1		1		1		1	1		1	
32	ネパール	3	5	1		1		1			1		1	1			1	1	
33	ネパール	2	6	1		1			1		1		1		1	1		1	
34	ネパール	2	5	1		1			1		1		1		1		1	1	
35	ベトナム	なし	12	1		1		1			1	1			1	1		1	
36	ベトナム	3	12	1		1			1	1		1			1	1		1	
37	スリランカ	4	9	1		1			1	1			1	1		1			1

6.68

問題7-1		問題7-2		問題7-3		問題7-4		問題8-1		問題8-2	
正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤
18	19	19	18	11	26	11	26	15	22	16	21
	1		1		1		1	1		1	
	1		1		1		1		1		1
1		1		1		1			1		1
1		1		1		1			1		1
1		1			1		1	1		1	
	1		1		1		1	1		1	
	1		1		1		1	1		1	
1		1			1		1	1			1
	1		1		1		1	1		1	
	1		1		1		1	1		1	
1		1			1		1		1		1
1		1		1		1		1		1	
	1		1		1		1	1		1	
	1		1		1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1
1		1			1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1
	1		1		1		1	1		1	
1		1			1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1
1		1		1		1			1		1
	1		1		1		1		1		1
1		1		1		1			1	1	
1		1			1		1		1		1
1		1			1		1	1		1	
1		1		1		1			1		1
	1		1		1		1		1		1
1		1		1		1		1		1	
1		1		1		1			1		1
	1		1		1		1		1		1
	1		1		1		1	1		1	
1		1			1		1		1		1
1		1		1		1		1		1	
1		1		1		1		1		1	
	1	1		1		1			1	1	

【テスト結果から】

ターゲット国の平均の成績結果は、ミャンマー、ネパール、スリランカの順であった。日本語学校別でも、各国順位がバラバラであったことから、現地では単に、学習項目になく学んでいないことや都心部や農業地域といった地域性で教育の差があることがうかがえる結果となった。

②専門学校穴吹工科カレッジ（香川）

▶シラバス・コマシラバス

委託内容	専修学校の国際化推進事業	本事業名	自動車整備分野留学生ＥＭ事業（略称）	年度	令和７年度 （2025 年度）
実施校名	専門学校穴吹工科カレッジ	実施日	令和　年　月　日	実施形態	対面式

実証実験の概要	令和６年度に開発した対話型音声ＡＩアプリを使用した実証実験を行う。
実験の到達目標	・学生が本事業で開発した対話型音声ＡＩアプリを活用しての使い勝手に関することなどの感想を聞き出し、まとめ、整理し、改善へつなげる。 ・ログの検証（利用状況の把握と監査・パフォーマンス分析・トラブルシューティング・セキュリティ対策等）を行いＳＴＥＰ２へつなげる。 ・受験生のキャリア（回答者の属性）を調査し、回答者による傾向値を分析する。
受験対象者条件	・自動車整備系専門学校日本語学校を卒業し、自動車整備専門学校で学んでいるＮ４レベル以上の留学生 （想定人数：20 人～25 人/クラス・校）

使用するアプリ	「ＡＩ先生と日本語を学ぼう」	使用する資料	自動車整備系専門学校実証実験アンケート（様式 2） ※各アンケートには基礎学力テストを含む
機器、準備物	・プロジェクターまたはモニター（接続ケーブル含む） ・ノートＰＣおよびタブレット ・ポケット Wi-Fi ・ログイン用紙 ・アンケート用紙（基礎学力テスト含む）	関連サイト	https://yic-aienroll.jp/

実証実験の構成（進め方・配分）

順番	場所	時間 （所要時間）	コマの構成/実施内容	備考
1	教室	１３：１０～１３：４０ （３０分）	直前打合せ 教室準備 ネット環境の確認 プロジェクター等の確認 受験者（対象学生）入室	配布物・ＰＣ・タブレット等の準備
2	教室	１３：４０～１３：５０ （１０分）	挨拶 本事業の紹介 実証実験の目的説明 ＰＲ動画も活用する（受験生の日本語理解度の確認にも活用）	ログイン用紙の配布
3	教室	１３：５０～１３：５５ （５分）	受験者のアプリ接続 自由に会話を行い、アプリに慣れてもらう。	―

4	教室	１３：５５～１４：１５ （２０分）	シチュエーション毎の会話（各約３分） ①自動車用語について ②工具の名前や和製英語について ③接客や上司との会話について ④基礎工学・メーカーによる部品名称等の違いについて ⑤ビジネスマナーについて	ＰＰＴにてシチュエーションを表示
5	教室	１４：１５～１４：４０ （２５分）	アンケートとまとめ （日本語力・数学力含む）	アンケート用紙の配布
6	控室	１４：４０～	意見交換	状況により終了時間は調整

実証実験アンケート項目

1．使い方は簡単でしたか？　2．ＡＩとの会話は役に立ちましたか？　3．ＡＩの日本語はわかりやすかったですか？
4．ＡＩアプリを使うと日本語の勉強が楽しくなりそうですか？　5．良かったところは何ですか？　6．改善してほしいところは何ですか？
7．今後もこのＡＩアプリを使いたいですか？　8．ＡＩアプリで勉強するとき、困ったことはありましたか？あれば教えてください。
9．ＡＩとの会話内容は実生活で使えそうですか？　10．実験でＡＩアプリを使った時間はちょうどよかったですか？
11．ＡＩの反応は早かったですか？　12．他に使ってみたい機能はありますか？あれば教えてください。
上記に加えて、日本語力・これまでに学んだ教育についてのアンケート（テスト形式）

対話型音声ＡＩアプリ・ログ管理内容　※実証実験終了後に各自のアプリの使用状況であるため、受験者を受講生と表記

管理者側機能①
【受講生情報】
1.受講生氏名　2.生年月日　3.年齢　4.入国日（海外の日本語学校の場合は予定）　5.出身国　6.日本語学習時間（アプリ使用前）
7.日本語レベル（JLPT）　8.メールアドレス　9.電話番号

管理者側機能②
【受講状況（アプリ使用状況）】
1.過去６ヶ月分の月別使用時間の表示
2.一月の日別使用時間の表示
3.一日の時間帯別使用時間の表示

管理者側機能③
【キーワード】
各受講生がアプリ内で行った会話の中で、多く発したキーワードをランキング形式で表示（過去６ヶ月のキーワード）

▶実施日時：２０２５年１１月２０日（木）１３：４０～１４：５０
▶人数：２４名
▶日本語レベル（ＪＬＰＴ）：N2（３名）、N3（１２名）、N4（５名）、なし（４名）
▶ターゲット国：ミャンマー（１名）、ネパール（１９名）、スリランカ（０名）　計２０名

▶実証実験内容

１０分	挨拶・本事業の紹介・実証実験の目的の説明（ＰＲ動画を使用）
５分	対象学生のアプリ接続・自由に会話を行う
２０分	シチュエーション毎の会話（各約３分） ・自動車整備士資格習得に向けた専門用語 ・専門学校の学習環境のシチュエーション ・自動車整備業界のシチュエーション ・自動車の基礎を学ぶシチュエーション ・基礎自動車工学・メーカーによる部品名称等の違い ・ビジネスマナー・ BtoB ・電話や窓口に関するシチュエーション
２５分	日本語・計算・数学力テスト
１０分	アンケートとまとめ

▶実証実験風景

【講師写真】

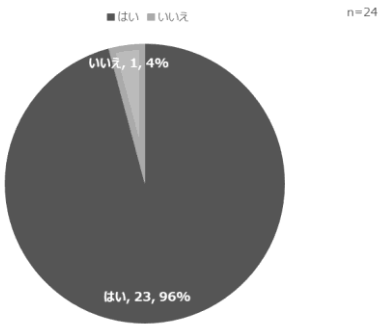


【授業風景】



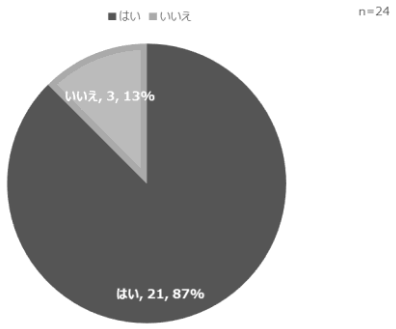
▶アンケート

１.使い方は簡単でしたか？



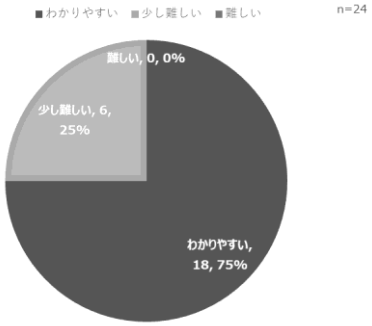
受講生の９６％が簡単と回答

2.ＡＩとの会話は役に立ちましたか？



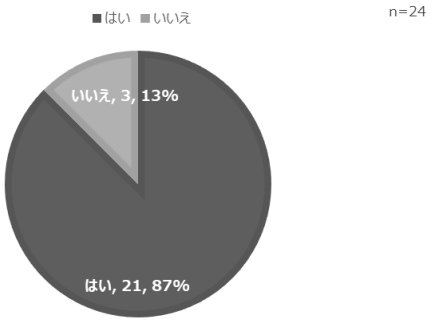
受講生の８７％が役立つと回答

3.ＡＩの日本語はわかりやすかったですか？



受講生の７５％がわかりやすいと回答

4.ＡＩアプリを使うと日本語の勉強が楽しくなりそうですか？



受講生の８７％が楽しくなりそうと回答

5.良かったところは何ですか？（※回答者原文のまま）

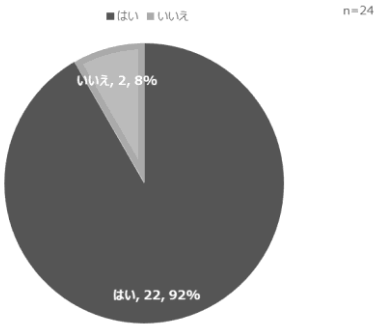
・学習がより面白くなる。
・使いやすい。
・マイクを使用できること。
・質問への回答が早く、日本語も分かりやすい。
・どんなしつもんもおしえてくれるところ。
・車の問題を伝える。
・なんでもこたえますはよかったです。
・かんたんでわからないことをわかります。
・先生のやり方わかりやすい。

・何でも聞くことができる。
・良い仲間ができる感じました。
・なんでもしつもんできます。
・なんでもきくことです。
・このアプリをつかったらにほんごの勉強がわかりやすいです。
・何でも探すことができます。
・わからないことがあったらすぐ答えるのでべんりです。
・ＡＩからこたえたところが良かった。
・つかいかたはかんたんです。
・質問に答える。
・勉強についてとても役に立。
・時間がかからない。
・わからない日本語とかわかりやすいに本ごでおしえること。
・わからないことをさがすことができる。
・しつもんしたことをすぐこたえる。

6.改善してほしいところは何ですか？（※回答者原文のまま）

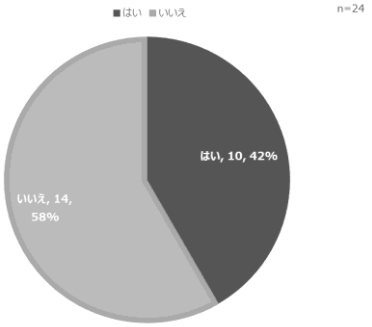
・説明中に停止ボタンほしいいです。
・写真は見させないこと。
・ＡＩがしゃべっている時に一時停止できるにしてほしい。
・マイクとキーボード入力し同時に使用させないで。
・難しい質問が明確に説明されていません。
・はつおんアプリケション作ったらいいと思います。
・ほかのごでもかいわできるになればいいとおもいます。
・特にないです。
・学生たちにとってもべんりですなんかわからなかったらすぐ聞くから聞いた質問が全部見えるようにしてほしいです。
・すむずにつかうできないです。
・Ｍｉｃｒｏｐｈｏｎｅをなおしてほしい。
・ぶんみゃくのちがい、しょくみんかんかぶんかのびみはうかちがいの３かいです。
・もっとはやめに答えるようになったほうがいいと思います。
・しゃしおくってしつもんできること色々な語を入れてほしいです。
・もっとべんきょうしたこのＡＩつかてべんきょうします。

7.今後もこのＡＩアプリを使いたいですか？



受講生の９２％が今後も使いたいと回答

8.ＡＩアプリで勉強するとき、困ったことはありましたか？

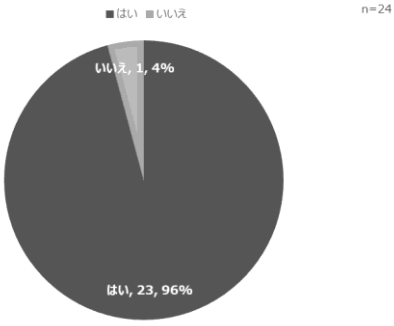


受講生の５８％がアプリを使って勉強することに困らないと回答

あれば教えてください。（※回答者原文のまま）

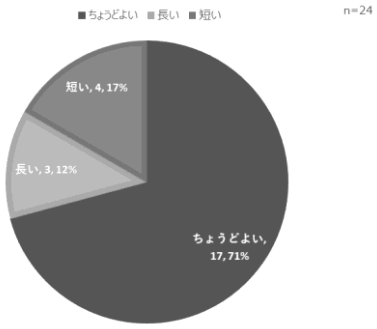
・写真が出て来なかったから、分かりにくかったんです。
・ＡＩが聞き取れないこと。
・はつおんのつかいかた。
・質問するときこたえがずれたことです。
・しつもんするときむずかしいこたえはでてこないんではつおんができなくってこまったです。
・使うとを困った。
・１回こたえたらもう１回こたえない。
・とてもよいかった。

9. ＡＩとの会話内容は実生活で使えそうですか？



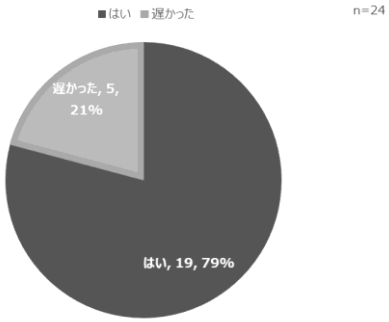
受講生の９６％がＡＩとの会話が実生活で使えそうと回答

10．実験でＡＩアプリを使った時間はちょうどよかったですか？



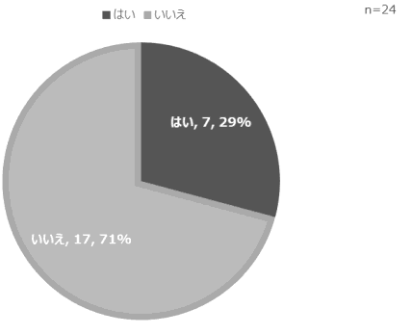
受講生の７１％が実証実験の時間はちょうどよい、１７％が短いと回答

11．ＡＩの反応は早かったですか？　（はい・遅かった）



受講生の７９％が反応は早かったと回答

12．他に使ってみたい機能はありますか？



受講生の７１％は他の機能は必要なくこのままで十分と回答

あれば教えてください。（※回答者原文のまま）

・もう分かってると思います。写真見て説明できるようにするきのうです。
・ジェミニは使います。べんりですから。
・CHAT GPT・

【アンケート結果から】

操作性やＡＩとの会話は役立つ、楽しく勉強できる、今後も使っていきたい、実生活で使えるといった項目への高評価は、本事業で開発を進めている対話型音声ＡＩアプリは留学生に受け入れられると評価できる。

一方、写真が出てくるとより良いといった意見が目立った。便利過ぎると調べることを怠る可能

性も生まれ、将来的に悪影響を与えかねかもしれないため、バランスを検討していく必要があるため、実証実験を通し、有効な使い方など検証を重ねていく必要があると考える。

▶テスト成績（国語）

				問題1-1		問題1-2		問題1-3		問題1-4		問題2-1		問題2-2		問題2-3		問題3-1		問題3-2	
		JLPT	国語	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤
			19問	16	8	24	0	15	9	21	3	18	6	24	0	22	2	20	4	9	15
1	インドネシア	3	16	1		1		1		1		1		1		1		1		1	
2	ネパール	3	14		1	1		1		1		1		1		1		1		1	
3	インドネシア	2	15	1		1		1		1		1		1		1		1			1
4	ベトナム	3	17	1		1		1		1		1		1		1		1			1
5	ネパール	3	11		1	1		1		1			1	1			1	1			1
6	ネパール	なし	16	1		1		1		1		1		1		1		1			1
7	ネパール	4	16	1		1		1		1		1		1		1		1		1	
8	ネパール	3	11	1		1			1	1		1		1		1		1			1
9	インド	4	13	1		1			1		1	1		1		1		1		1	
10	ミャンマー	2	15	1		1		1		1		1		1		1		1			1
11	ネパール	なし	14	1		1			1	1			1	1		1		1			1
12	ネパール	3	10	1		1			1	1			1	1		1			1		1
13	ネパール	なし	14		1	1		1		1		1		1		1		1			1
14	ネパール	3	15	1		1		1		1		1		1		1		1		1	
15	ネパール	3	14		1	1		1		1		1		1		1		1		1	
16	ネパール	4	11		1	1			1		1		1	1			1		1	1	
17	ネパール	2	11		1	1			1	1		1		1		1		1			1
18	ネパール	3	8	1		1		1		1			1	1		1			1	1	
19	ネパール	なし	14	1		1			1	1		1		1		1			1		1
20	ネパール	3	11		1	1		1		1		1		1		1		1		1	
21	ネパール	3	5		1	1		1			1		1	1		1		1			1
22	ネパール	4	12	1		1		1		1		1		1		1		1			1
23	ネパール	4	11	1		1			1	1		1		1		1		1			1
24	ネパール	3	9	1		1			1	1		1		1		1		1			1

問題4-1		問題4-2		問題4-3		問題4-4		問題4-5		問題4-6		問題5-1		問題5-2		問題5-3		問題5-4	
正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤
17	7	13	11	22	2	9	15	11	13	7	17	17	7	7	17	16	8	15	9
	1		1	1		1		1			1	1		1		1		1	
1		1		1			1		1		1	1			1	1		1	
	1		1	1		1		1			1	1		1		1		1	
1		1		1		1		1		1		1			1	1		1	
1			1	1			1		1		1	1		1		1		1	
1		1		1		1		1		1		1			1		1	1	
1			1	1			1	1		1		1		1		1			1
1		1		1		1			1		1		1		1		1		1
1		1		1			1		1		1	1			1	1		1	
	1		1	1		1		1		1		1		1		1			1
1		1		1		1		1		1		1			1		1	1	
1		1		1			1		1		1		1		1	1		1	
1		1		1			1	1			1		1	1		1		1	
1		1		1			1		1		1	1			1	1		1	
1		1		1			1		1		1	1			1	1		1	
1		1		1		1		1			1	1			1	1		1	
	1	1		1			1		1		1	1		1		1			1
	1		1	1			1		1		1		1		1		1		1
1		1			1	1		1		1		1			1	1		1	
	1		1	1			1		1		1		1		1	1		1	
	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1
1			1	1			1		1	1		1			1		1		1
1			1	1			1	1			1	1			1		1		1
1			1	1			1		1		1		1		1		1		1

【テスト結果から】

ターゲット国の平均点における成績結果は、地域性なのかスリランカからの留学生は居なく、ミャンマー、ネパールの順であった。ただ、ミャンマーからの留学生は一人ということもあり、この結果を見る限りでは検証できる状況ではないといえる。

今後、ターゲット国からの留学生の受け入れと日本語力向上の変化を情報共有しながら、汎用化に向けた検証を続けていく必要があると考える。

▶テスト成績（算数・計算）

				問題6-1		問題6-2		問題6-3		問題6-4		問題6-5		問題6-6		問題6-7		問題6-8	
		JLPT	数学	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤
			14問	18	6	9	15	6	18	6	18	6	18	0	24	9	15	12	12
1	インドネシア	3	11	1		1		1		1		1			1	1			1
2	ネパール	3	5	1		1			1		1	1			1	1		1	
3	インドネシア	2	2	1		1			1		1		1		1		1		1
4	ベトナム	3	0		1		1		1		1		1		1		1		1
5	ネパール	3	3	1			1		1		1		1		1		1	1	
6	ネパール	なし	4	1		1			1		1	1			1		1	1	
7	ネパール	4	2		1		1		1		1		1		1		1		1
8	ネパール	3	0		1		1		1		1		1		1		1		1
9	インド	4	6	1			1	1		1		1			1	1		1	
10	ミャンマー	2	9	1			1	1		1			1		1	1		1	
11	ネパール	なし	9	1		1			1	1			1		1	1		1	
12	ネパール	3	0		1		1		1		1		1		1		1		1
13	ネパール	なし	1	1			1		1		1		1		1		1		1
14	ネパール	3	7	1			1		1		1		1		1	1		1	
15	ネパール	3	4	1			1	1		1			1		1		1	1	
16	ネパール	4	2	1		1			1		1		1		1		1		1
17	ネパール	2	4	1		1			1		1		1		1	1		1	
18	ネパール	3	5	1		1			1		1	1			1	1		1	
19	ネパール	なし	5	1			1	1		1		1			1		1	1	
20	ネパール	3	3	1			1		1		1		1		1		1		1
21	ネパール	3	2	1			1	1			1		1		1		1		1
22	ネパール	4	0		1		1		1		1		1		1		1		1
23	ネパール	4	9	1		1			1		1		1		1	1		1	
24	ネパール	3	0		1		1		1		1		1		1		1		1

3.88

問題7-1		問題7-2		問題7-3		問題7-4		問題8-1		問題8-2	
正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤	正	誤
8	16	6	18	6	18	5	19	1	23	1	23
1		1		1		1		1			1
	1		1		1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1
1			1		1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1
1		1			1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1
1		1		1		1			1		1
1		1		1		1			1		1
	1		1		1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1
1		1		1		1			1		1
	1		1		1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1
1			1	1			1		1		1
	1		1		1		1		1		1
	1		1		1		1		1		1
1		1		1		1			1	1	
	1		1		1		1		1		1

【テスト結果から】

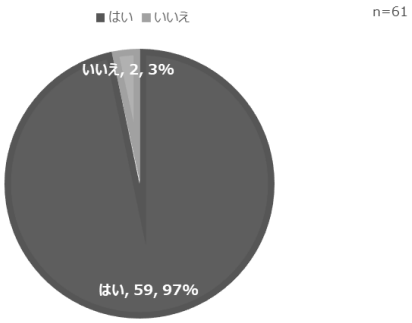
ターゲット国の平均の成績結果は、地域性なのかスリランカからの留学生は居なく、ミャンマー、ネパールの順であった。ただ、ミャンマーからの留学生は一人ということもあり、この結果を見る限りでは検証できる状況ではないといえる。

ただし、ネパールのみを見た場合、現地では単に、学習項目になく学んでいないことや都心部や農業地域といった地域性で教育の差があることがうかがえる結果となった。

③自動車整備系専門学校トータル結果

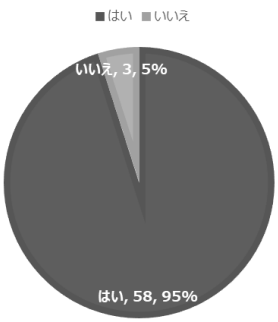
▶アンケート

1.使い方は簡単でしたか？



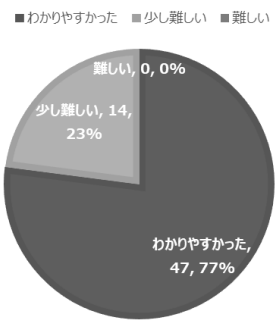
受講生の９７%が簡単と回答

2.ＡＩとの会話は役に立ちましたか？



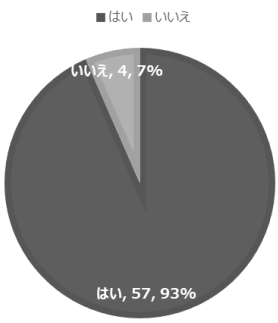
受講生の９５％が役立つと回答

3.ＡＩの日本語はわかりやすかったですか？



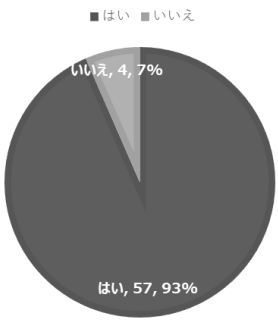
わかりやすい６４％、少し難しい３３％の回答傾向

4.ＡＩアプリを使うと日本語の勉強が楽しくなりそうですか？



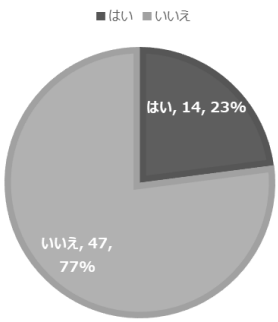
受講生の９３％が楽しくなりそうと回答

7.今後もこのＡＩアプリを使いたいですか？



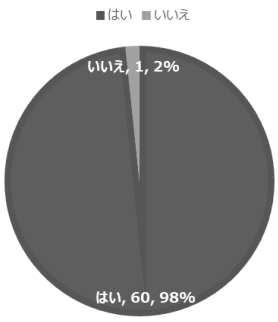
受講生の９３％が今後も使いたいと回答

8.ＡＩアプリで勉強するとき、困ったことはありましたか？



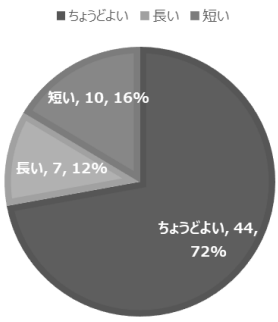
困ってないが７７%という回答傾向

9．ＡＩとの会話内容は実生活で使えそうですか？



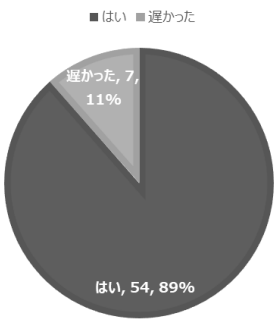
受講生の９８%がＡＩとの会話が実生活で使えそうと回答

10．実験でＡＩアプリを使った時間はちょうどよかったですか？



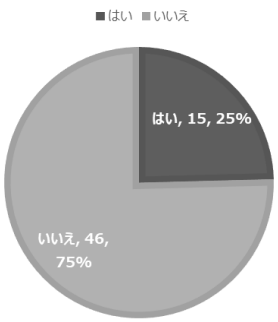
受講生の７２%が実証実験の時間はちょうどよい、１６%が短いという回答傾向

11．ＡＩの反応は早かったですか？　（はい・遅かった）



受講生の８９%が反応は早かったと回答

12. 他に使ってみたい機能はありますか？



受講生の８３％は他の機能は必要なくこのままで十分と回答

【アンケート結果から】

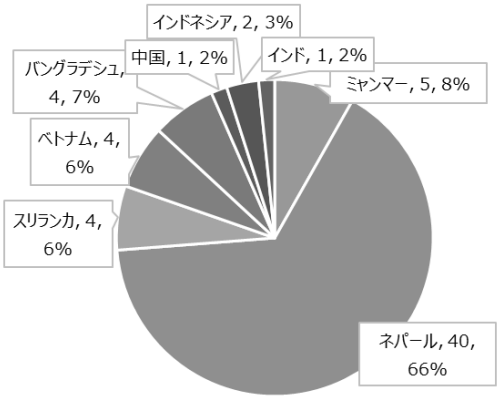
実証実験を受講した自動車整備系専門学校の留学生全体として、操作方法をはじめ、ＡＩアプリとの会話が役に立つ、実生活で使えそうといった日々の生活を送る上で便利なツールとして認識してもらえた感じがうかがえる。

今後、取り組みを進めるにあたり、キャリア形成においてどのように役に立つのかの検証を重ねていく役立つツールの一つになる可能性が高いと考えられる。

③自動車整備系専門学校トータル結果

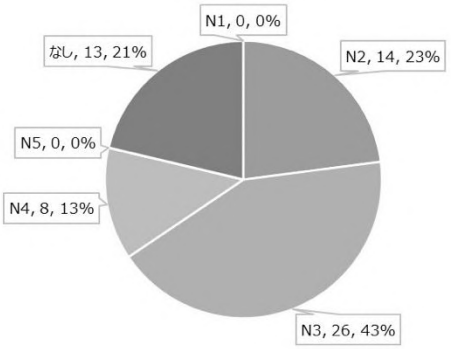
▶受講者出身国

ミャンマー	5	8.2%
ネパール	40	65.6%
スリランカ	4	6.6%
ベトナム	4	6.6%
フィリピン	0	0.0%
バングラデシュ	4	6.6%
中国	1	1.6%
インドネシア	2	3.3%
インド	1	1.6%
	61	100%



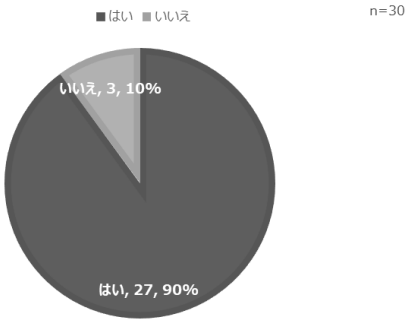
▶受講者日本語レベル

N1	0	0.0%
N2	14	23.0%
N3	26	42.6%
N4	8	13.1%
N5	0	0.0%
なし	13	21.3%
	61	100%



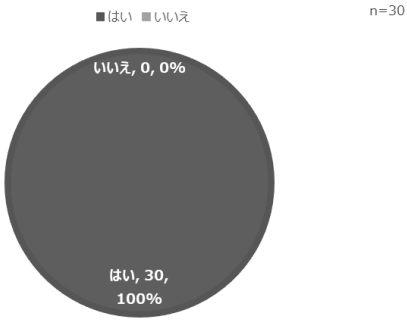
▶トータルアンケート

1.使い方は簡単でしたか？



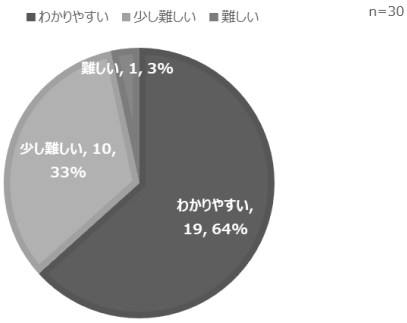
受講生の９０%が簡単と回答

2.ＡＩとの会話は役に立ちましたか？



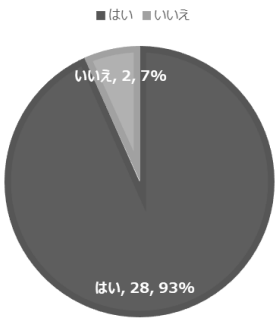
受講生全員が役立つと回答

3.ＡＩの日本語はわかりやすかったですか？



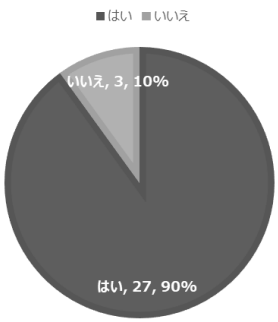
わかりやすい６４%、少し難しい３３%の回答傾向

4.ＡＩアプリを使うと日本語の勉強が楽しくなりそうですか？



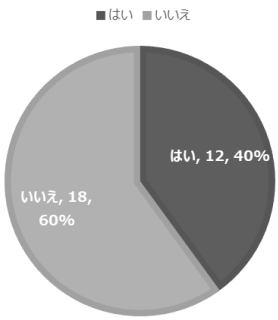
受講生の９３％が楽しくなりそうと回答

7.今後もこのＡＩアプリを使いたいですか？



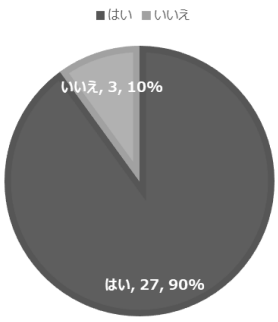
受講生の９０％が今後も使いたいと回答

8.ＡＩアプリで勉強するとき、困ったことはありましたか？



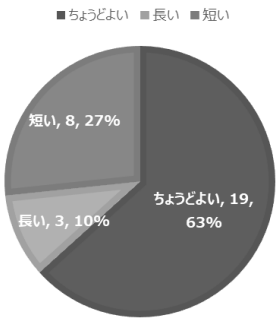
困ってないが６０％という回答傾向

9. ＡＩとの会話内容は実生活で使えそうですか？



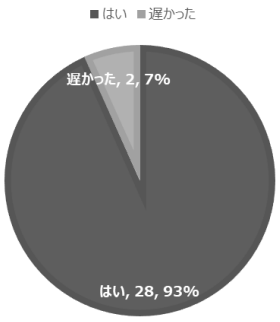
受講生の９０％がＡＩとの会話が実生活で使えそうと回答

10. 実験でＡＩアプリを使った時間はちょうどよかったですか？



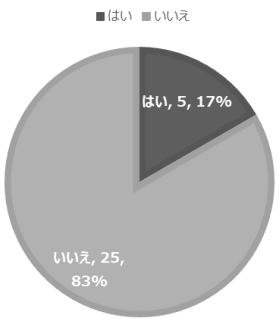
受講生の６３％が実証実験の時間はちょうどよい、２７％が短いという回答傾向

11．ＡＩの反応は早かったですか？　（はい・遅かった）



受講生の９３％が反応は早かったと回答

12．他に使ってみたい機能はありますか？



受講生の８３％は他の機能は必要なくこのままで十分と回答

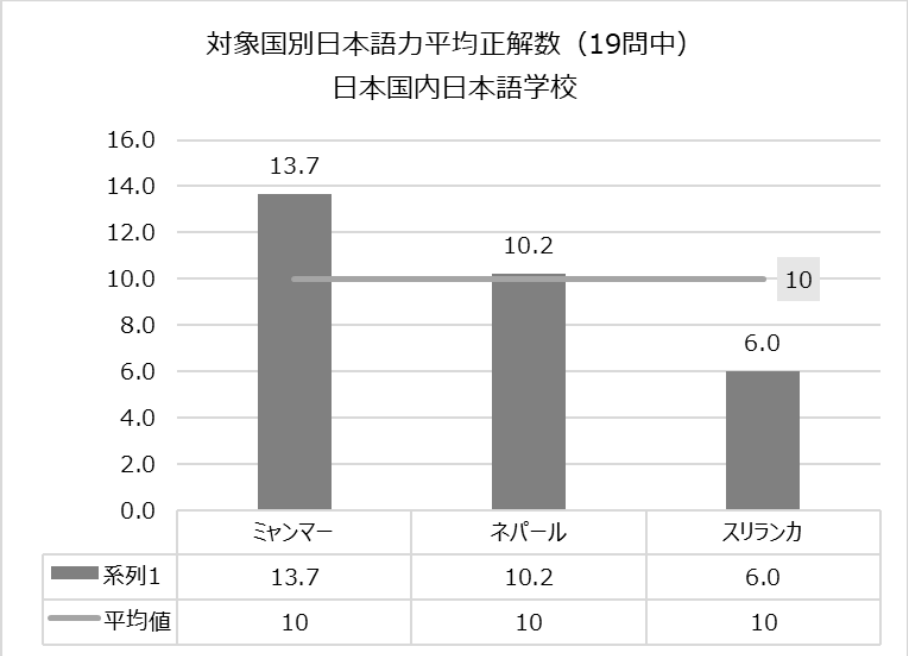
【アンケート結果から】

本事業で開発した対話型ＡＩアプリの操作方法や会話のやりとりが実生活に役に立つ、勉強が楽しくなりそう、今後も使い続けていきたいという点において高評価が得られている。

留学して間もない留学生からある程度環境に慣れ始めている留学生において、有効な教育ツールであると考えられる。

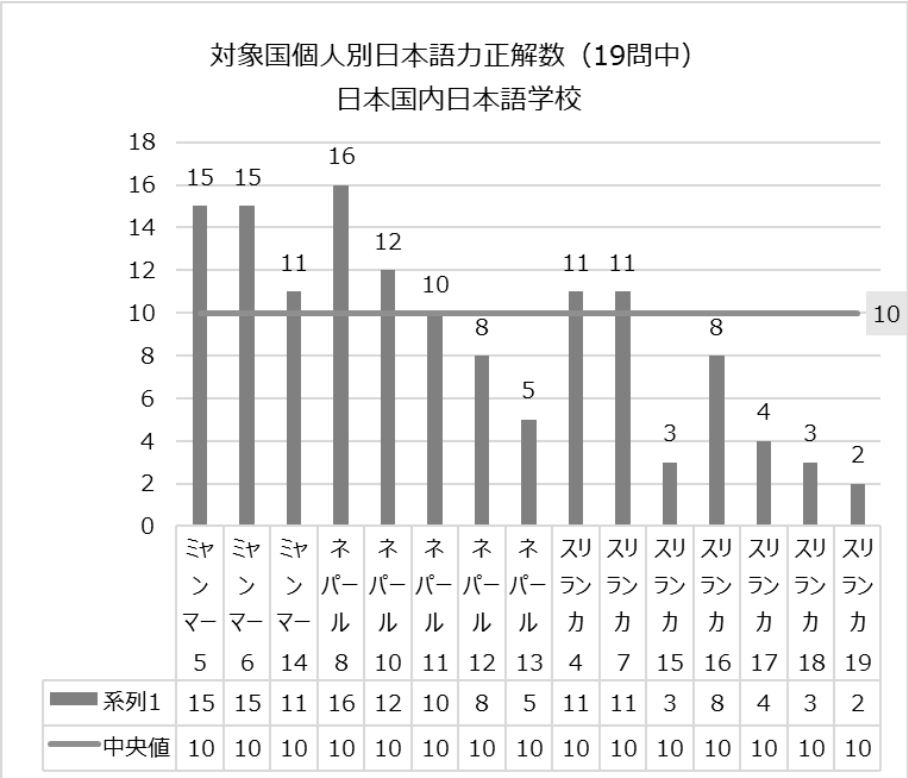
今後、日本語力を高め、コミュニケーションを図る基礎作りにおいて、様々な検証を重ねていくために有効な開発ができていると考える。

▶ミャンマー、ネパール、スリランカターゲット国の日本語試験結果

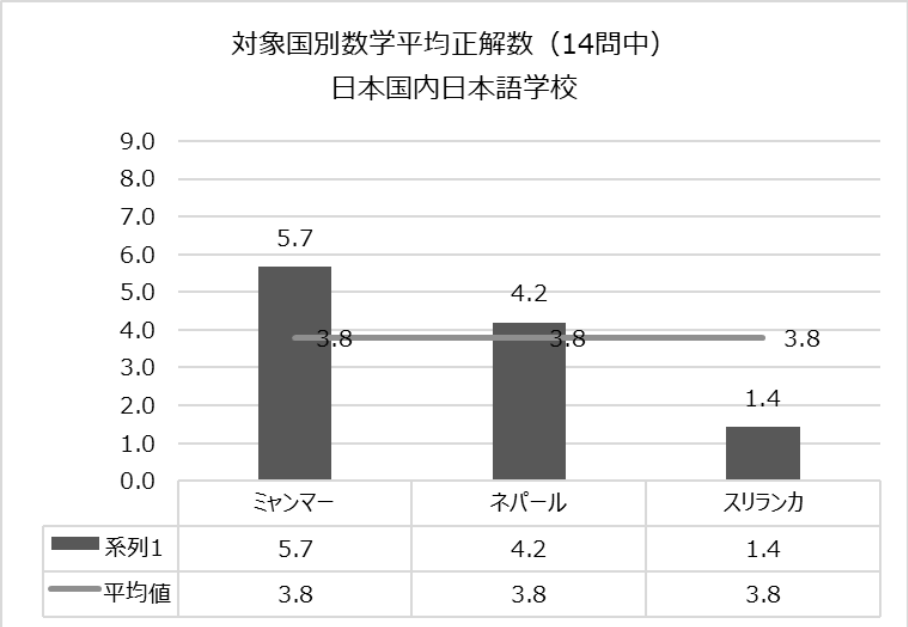


【試験結果から】

ターゲット国を比較するとミャンマー、ネパール、スリランカの順位であった。



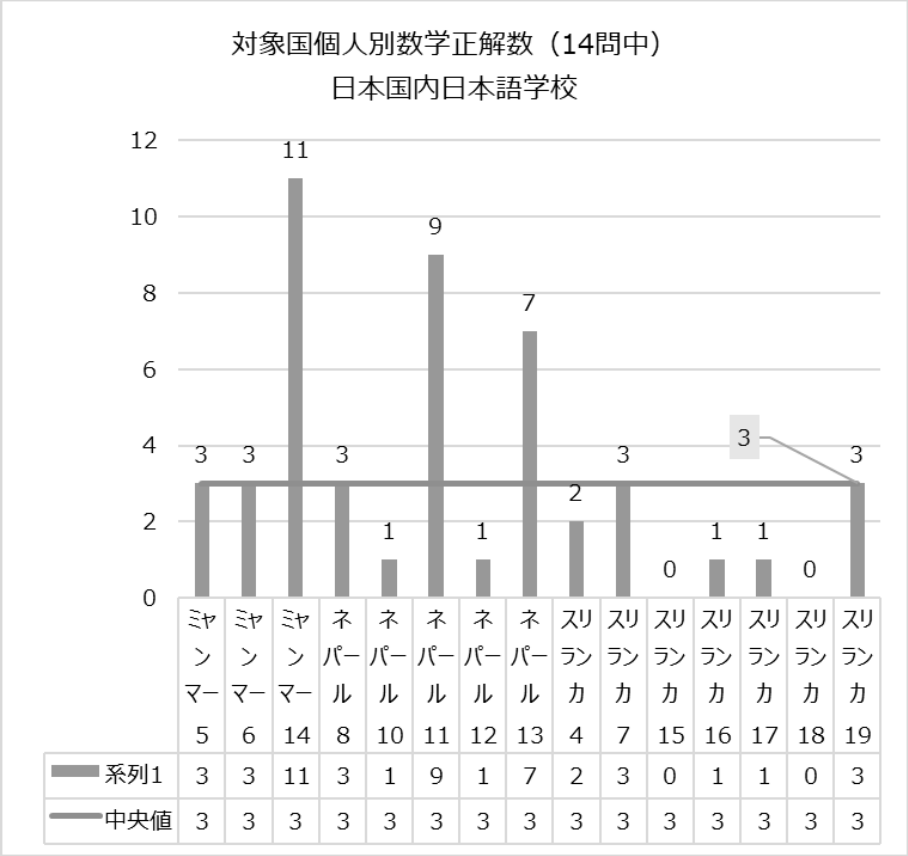
▶ミャンマー、ネパール、スリランカターゲット国の数学試験結果



	ミャンマー	ネパール	スリランカ
系列1	5.7	4.2	1.4
平均値	3.8	3.8	3.8

【試験結果から】

ターゲット国を比較するとミャンマー、ネパール、スリランカの順位であった。



	ミャンマー5	ミャンマー6	ミャンマー14	ネパール8	ネパール10	ネパール11	ネパール12	ネパール13	スリランカ4	スリランカ7	スリランカ15	スリランカ16	スリランカ17	スリランカ18	スリランカ19
系列1	3	3	11	3	1	9	1	7	2	3	0	1	1	0	3
中央値	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

【試験結果から】

日本語学校在籍時点では、日本語力と数学力ともに、ターゲット国を比較するとミャンマー、ネパール、スリランカの順位であった。

教材ツールとして開発した対話型ＡＩアプリを教材ツールとして活用することで、ターゲット国の学力順位の変動があるのか、個々の日本語力向上につながるのかなど実証実験を通して検証を重ねていく。

２．対話型音声ＡＩアプリ開発

新たに、ログ管理とキーワード検索機能追加し、学校教職員や企業教育担当者が、留学生や外国籍従業員の学習状況を把握できるよう、ログ管理（月別、日別、時間別管理）機能を搭載。

（１）月別管理

登録した受講生の学習状況が日付ごとにアプリを使っている人数と学習時間が表示される。

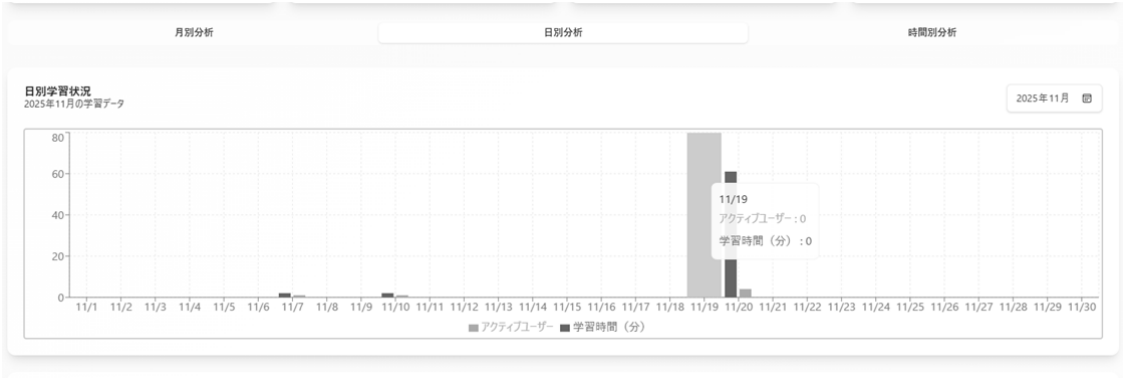
【月別学習状況グラフ画面例】



（２）日別管理

登録した受講生の学習状況が日付ごとにアプリを使っている人数と学習時間が表示される。

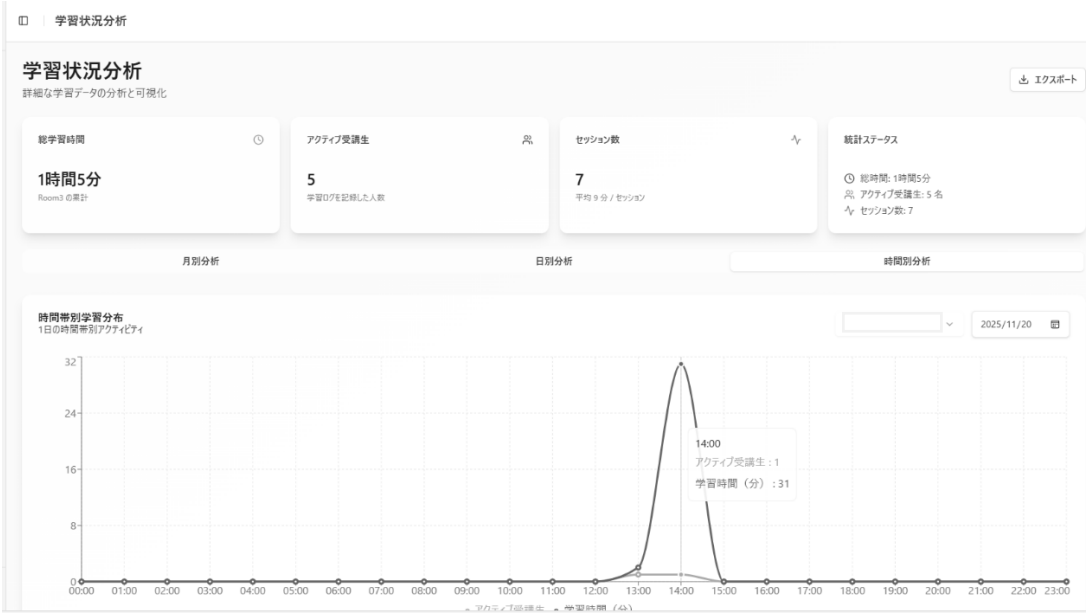
【月別学習状況例グラフ画面】



（３）時間別管理

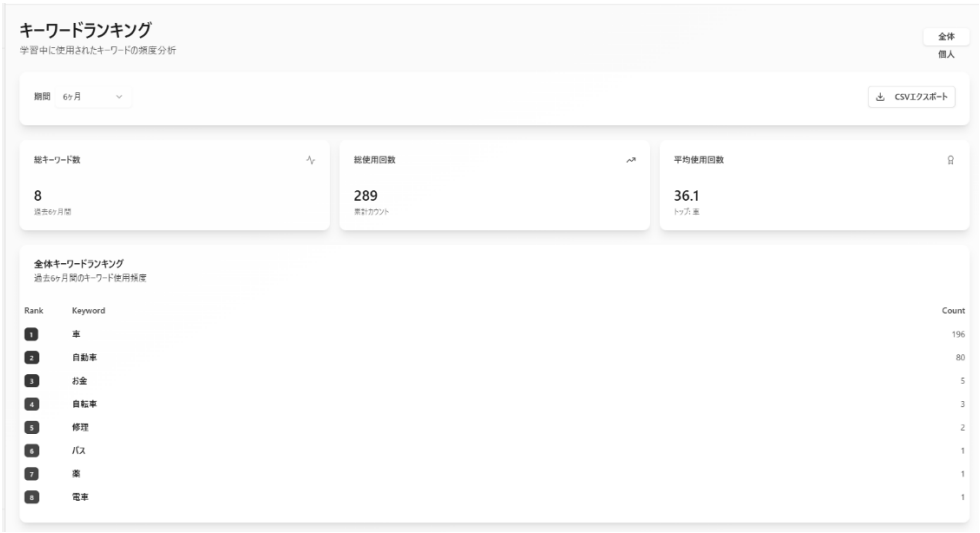
登録した受講生の学習状況が個別にアプリを使っている学習時間帯が表示される。

【時間別学習状況グラフ画面例】



（４）キーワードランキング

留学生や外国籍従業員が本アプリで何を質問しているのかランキングで表示される。日本に来て興味があることや困っていることなどを把握することが可能となり、コミュニケーション向上のツールに活用されると考える。



第３章　まとめ（成果）

第３章 まとめ（成果）

１．実証実験（成果）

（１）実施目的と実施期間

【目的】

①日本国内日本語学校

「日本語学校から自動車整備の専門学校へ進学を考えている場合に、日本語学校時代に何を学習しておいた方がよいか？」をテーマに、日本語能力の徹底的な向上、特に聴解力と専門用語に慣れる準備から敬語・丁寧語の基礎力を知る。また、数学（足し算、引き算、掛け算、割り算、割合、分数、簡単な方程式など）と物理（力学、電気など）の日本語学校在籍時点の理解度を知ることで、自動車分野へ進む学生への指導内容の検討とすることを目的とする。

②自動車整備系専門学校

「留学生が自動車整備の専門学校へ入学して、自動車整備士養成施設のカリキュラムにスムーズについていける学習は何をしたらよいか？」をテーマに、日本語能力のさらなる向上、特に専門日本語と聴解力の強化を図ることにより、コミュニケーション能力向上にもつなげる。また、物理、化学、数学、電気の基礎知識の定着や自動車整備士国家試験に向けた日々の指導内容の検討に反映することを目的とする。

【実施期間】

令和７年９月３０日～令和７年１１月２０日

（２）実施先

①日本国内日本語学校

学校名	実施日時	人数
ＹＩＣ京都日本語学院	令和７年９月３０日（火） １３：００～１４：１０	１０名
京都民際日本語学校	令和７年１０月２日（木） １３：００～１４：１０	２０名

②自動車整備系専門学校

学校名	実施日時	人数
〈専〉ＹＩＣ京都工科自動車大学校	令和７年１１月１０日（月） １３：００～１４：１０	３７名

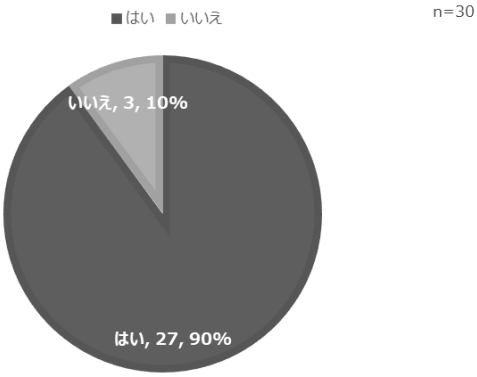
専門学校穴吹工科カレッジ	令和７年１１月２０日（木） １３：４０～１４：５０	２４名

（３）アンケート・基礎学力試験結果から導き出した考察

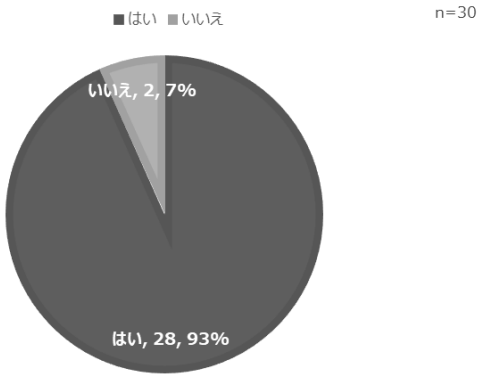
①日本国内日本語学校

■アンケート結果（抜粋）

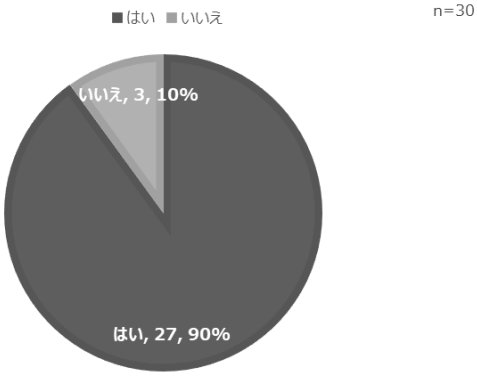
使い方は簡単



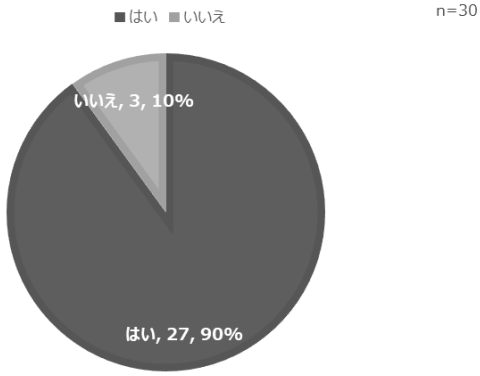
日本語の勉強が楽しくなりそう



今後もこのＡＩアプリを使いたい



ＡＩとの会話内容は実生活で使えそう



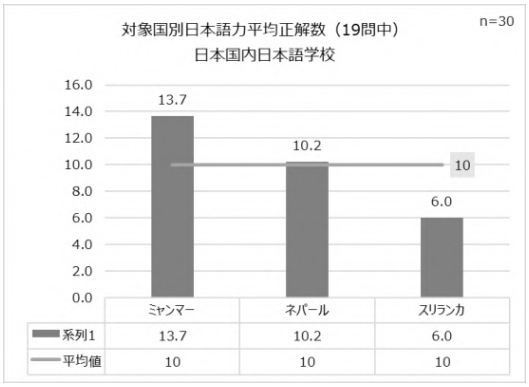
実証実験を受講した日本語学校の全留学生の声を整理すると、開発した対話型ＡＩアプリの操作９０％、勉強が楽しくなる９３％、今後も使っていきたい９０％、会話内容が実生活で使える９０％と高い評価を得られることができた。

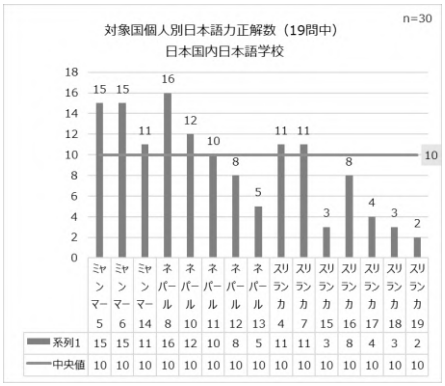
この結果から、授業のみならず、自宅学習の含めた日常的に活用できるツールであると思われる。

■基礎学力試験

【日本語】

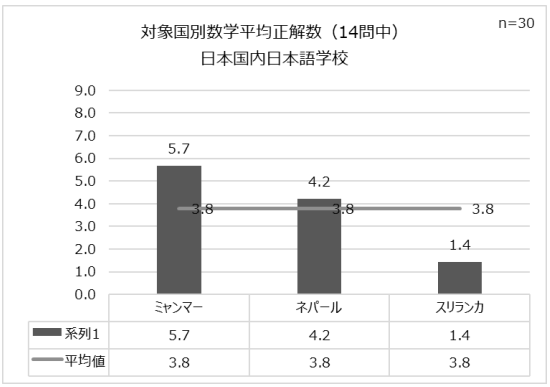
日本語学校在籍留学生の成績順は、ミャンマー、ネパール、スリランカの順であった。

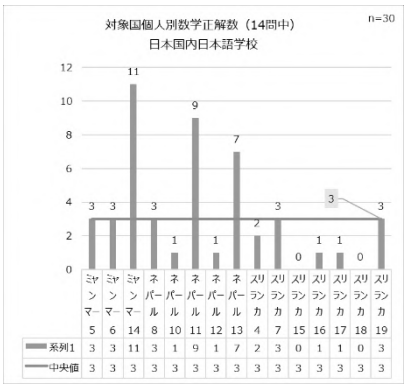




【数学】

日本語学校在籍留学生の成績順は、ミャンマー、ネパール、スリランカの順であった。



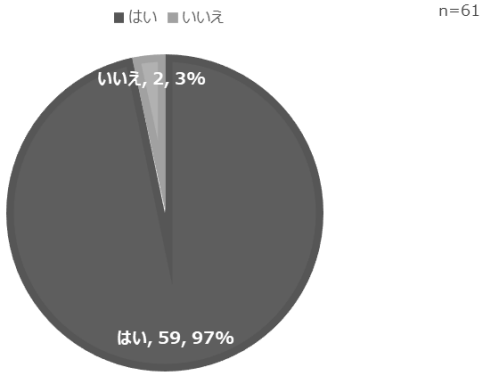


国別の試験結果は、ミャンマー、ネパール、スリランカの成績順であった。日本語力と数学力をミャンマーとスリランカを比べてみるとかなり大きな差があることが見える。

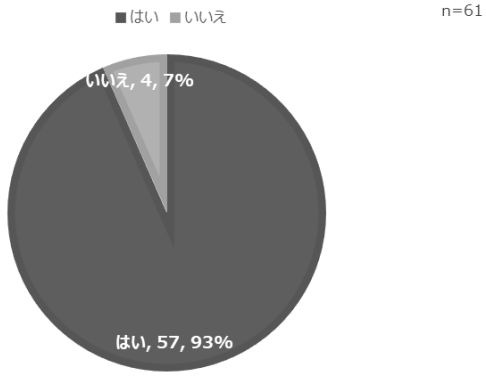
②自動車整備系専門学校

■アンケート結果（抜粋）

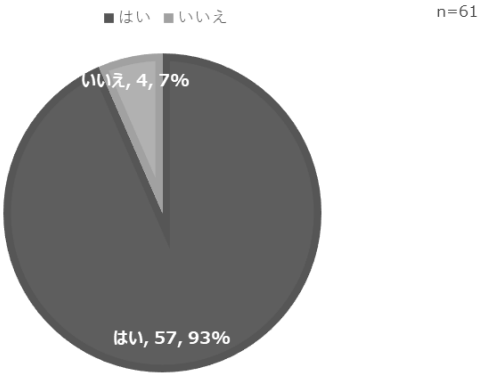
使い方は簡単



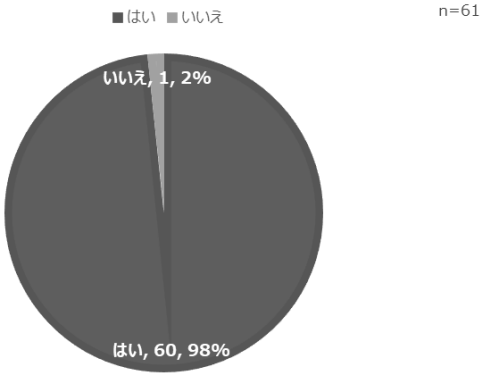
日本語の勉強が楽しくなりそう



今後もこのＡＩアプリを使いたい



ＡＩとの会話内容は実生活で使えそう



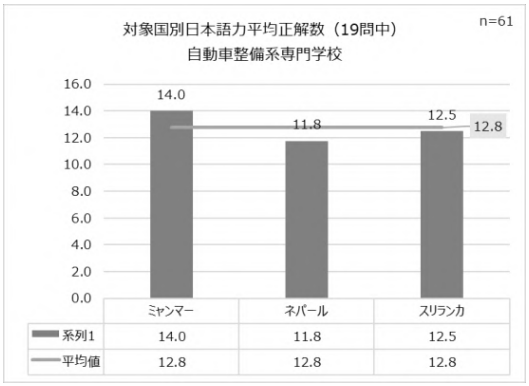
実証実験を受講した日本語学校の全留学生の声を整理すると、開発した対話型ＡＩアプリの操作９７%、勉強が楽しくなる９３%、今後も使っていきたい９３%、会話内容が実生活で使える９８%と高い評価を得られることができた。

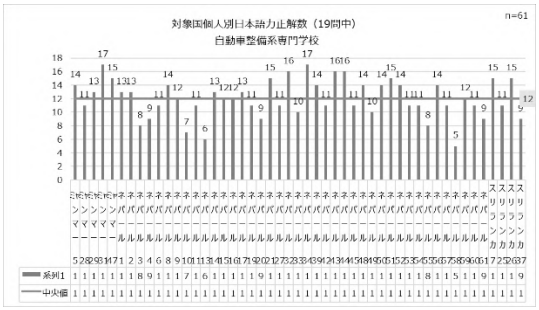
日本在住期間が長いためか、日本語学校の留学生よりも高い評価であった。使用する時間を学校授業などに限定せず、自宅学習の含めた日常的に活用できるツールであると思われる。

■基礎学力試験

【日本語】

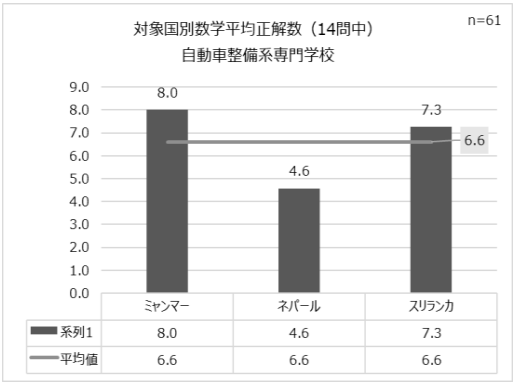
自動車整備系専門学校に進学した留学生の成績を見ると、ミャンマーは変わらず一番高いが、ネパールとスリランカの順位が逆転した。

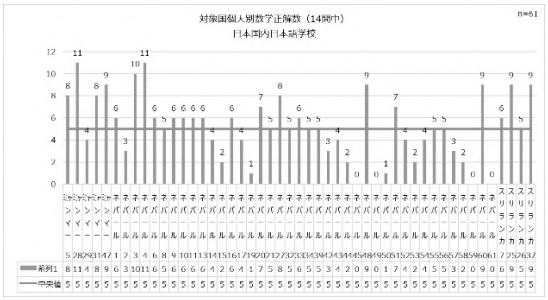




【数学】

自動車整備系専門学校に進学した留学生の成績を見ると、ミャンマーは変わらず一番高いが、ネパールとスリランカの順位が逆転した。

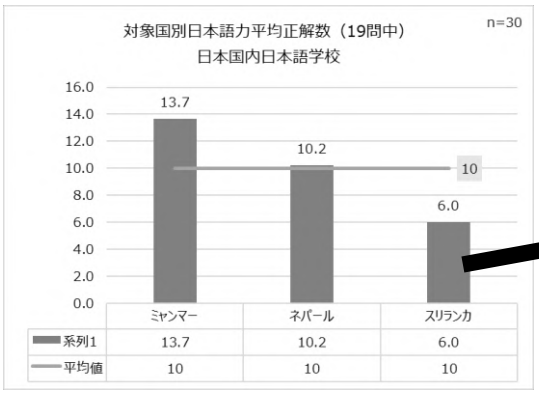


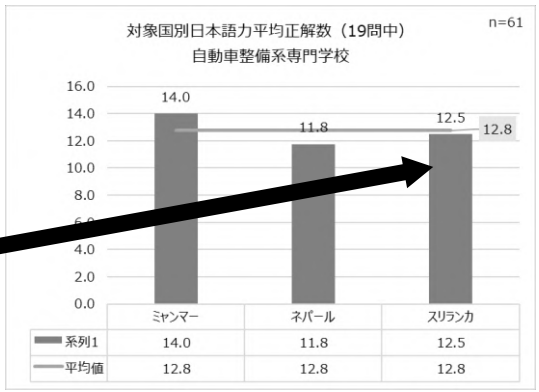


③日本国内日本語学校から自動車整備系専門学校に進学した際の成績の伸び率

【国語】

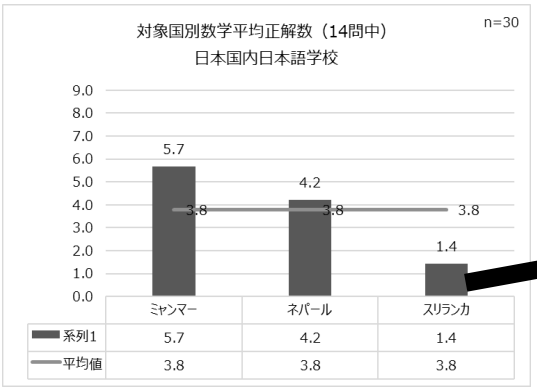
日本語学校から自動車整備系専門学校に進学した国別の伸びは、スリランカが一番大きい。

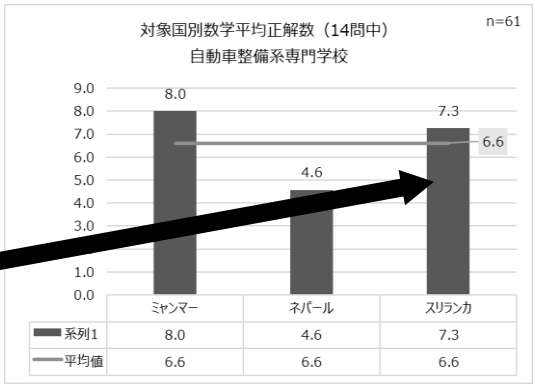




【数学】

日本語学校から自動車整備系専門学校に進学した国別の伸びは、スリランカが一番大きく、ネパールの伸びが小さい。





2．対話型音声ＡＩアプリ開発（デモ版）

本年度、ログ管理とキーワードランキング機能をプログラムに組み込み、学校教職員や企業の教育担当者が受け持つ担当グループ（＝教室）に在籍する留学生の学習状況を把握できるように開発を進めた。

対話型ＡＩアプリを通して、学習時間帯や何を疑問に思っているのかを把握できるようになることで、どのような生活を送っているのかが想像でき、迅速なコミュニケーションを図ることが見込めるツールとして開発した。

実証実験でも高い評価を得られていることから、今後もさらに実証実験の協力を得ながらさらに改善を重ねていく。

３．考察

令和 7 年度は、日本国内の日本語学校２校と自動車整備系専門学校２校の協力を得て、令和６年度に開発した対話型ＡＩアプリを使用して延べ９１名の留学生に実証実験を実施した。

実証実験を通して対話型ＡＩアプリの操作性や正確性などについて、ツールの評価をしたところ、一定の高評価が得られた結果となった。

また、ターゲット国の留学生の成績においては、日本語学校在籍時点と自動車整備系専門学校に進学した場合の成績の変化大きかった。この結果を一概に国別の判断をするための参考にするということは言えないが実証実験の結果の事実とした受け止め方はできる。特に、自動車整備系専門学校に進学したスリランカの留学生の伸びが目立った。

日本語学校在籍期間で日本語力が向上できた場合、留学生とのコミュニケーションがもっとできる可能性があると思える結果となった。

海外の日本語学校が開発した対話型ＡＩアプリを活用することで、今以上に高い日本語力が身に付いて入国する留学生を一人でも多く育成することにつなげられる可能性があると考える。

４．令和７年度の成果及び次年度の活動について

（１）令和７年度成果

①日本国内日本語学校実証実験

・シラバス・コマシラバス作成

・対話型音声ＡＩアプリを使った実証実験の実施

学校名	実施日時	人数
ＹＩＣ京都日本語学院	令和７年９月３０日（火） １３：００～１４：１０	１０名
京都民際日本語学校	令和７年１０月２日（木） １３：００～１４：１０	２０名

②自動車整備系専門学校実証実験

・シラバス・コマシラバス作成

・対話型音声ＡＩアプリを使った実証実験の実施

学校名	実施日時	人数
〈専〉ＹＩＣ京都工科自動車大学校	令和７年１１月１０日（月） １３：００～１４：１０	３７名
専門学校穴吹工科カレッジ	令和７年１１月２０日（木） １３：４０～１４：５０	２４名

③対話型音声ＡＩアプリ改善

・ログ管理機能：留学生の学習状況が見られることで学習環境の把握が可能となる

・キーワードランキング機能：留学生がどのようなことに興味や不安ごとがあるかランキングで表示できることで、より一層迅速なコミュニケーションが図れる可能性が見込まれる

（２）次年度の活動

①実証実験・・・

自動車整備系専門学校に声掛けをし、広域的に実証実験の実施

②対話型音声ＡＩアプリ開発・・・

中級・上級の専門用語の洗い出し反映

③環境整備・・・

自動車整備系専門学校における学習環境整備、自動車分野へのインターンシップ受け入れのための環境整備

④海外日本語学校調査・・・

海外の日本語学校への調査および対話型ＡＩアプリを使った実証実験の実施

※情勢により、見送り可能性もあり

⑤キャリアマップ導入の検討・・・

日本の日本語学校～自動車整備系専門学校～就職～職業定着に向けたキャリアマップ導入の骨子を作成

■MEMO

第４章 会議録

＜ 会　議　録 ＞

事業名	令和７年度「専修学校の国際化推進事業」外国人留学生の戦略的受け入れ、円滑な就職及び定着に向けた体制整備「自動車整備分野の外国人留学生（受け入れ/在学/就職/定着）のためのエンロールメント・マネジメントモデル事業」
会議名	第１回企画推進委員会会議
開催日時	令和７年６月２７日（金）　１４：００～１６：００
場　所	〈専〉ＹＩＣ京都工科自動車大学校　教場
出席者	【会場参加】 委員：佐々木　章、杉本康幸、脇﨑敏幸、細谷昭央、川村哲史、平岡俊弥、野堀昌史、稲永由紀、板倉真紀、矢川賢治、乗地博之、川嵜洋一、土井宏美、小林建次、池田　希（計１５名） 【オンライン参加】 委員：永江貴史、大門　剛、阿部一則、上田直紀、細野康男、一色舞子、入江　剛、岡村慎一、田中秀樹（計９名） オブザーバー（請負業者）：吉川隆治（計１名） 事務局：喜多好洋（計１名） （合計２６名）

【 議 事 内 容 】

【 目　的 】

本事業の取り組み内容の共通認識を行うことを目的とした会議を開催した。

【 次　第 】

１_ １４：００　開　会（事業責任者挨拶）
２_ １４：１０　委員自己紹介
３_ １４：１０　議　事
（１）令和６年度 専修学校国際化事業 調査報告（一般財団法人 日本国際協力センター）
（２）令和７年度 「委託事業の概要（事業計画書より）」
（３）令和７年度 「作業行程表（予定）」
（４）令和７年度 「開発・作成」…ＡＩ開発・Ｃｕｒｒｉｃｕｌｕｍ Ｐｏｌｉｃｙ・Ｃｕｒｒｉｃｕｌｕｍ Ｆｒａｍｅｗｏｒｋ・実証実験
（５）専修学校の現状と今後の社会を踏まえた検討の論点について　等
４_ １５：５０　その他（連絡事項等）
５_ １６：００　閉　会

＜配布資料＞

【資料１】議事次第
【資料２】会議出席表
【資料３】令和７年度 文部科学省委託事業「専修学校の国際化推進事業」（ＰＰＴＸ）
【 内　容 】
以下、次第に沿って会議が進められた

１．開　会
【喜多事務局】本日は、お忙しい中会議ご出席いただきまして誠にありがとうございます。本日は、令和７年度「専修学校の国際化推進事業」外国人留学生の戦略的受け入れ、円滑な就職及び定着に向けた体制整備「自動車整備分野の外国人留学生（受け入れ/在学/就職/定着）のためのエンロールメント・マネジメントモデル事業」の第一回企画推進委員会会議となります。昨年度の振り返り、今年度の取り組みにつきまして委員の皆様と認識の共有をしたいと思います。よろしくお願いいたします。等

２．委員自己紹介
【永江委員】麻生工科自動車大学校の永江と申します。昨年に引き続き、本年もよろしくお願いいたします。
【大門委員】穴吹工科カレッジの大門と申します。よろしくお願いいたします。
【阿部委員】国際情報工科自動車大学校の阿部と申します。よろしくお願いいたします。
【上田委員】５００名ほどの留学生を受け入れている日本語学校です。よろしくお願いいたします。
【細野委員】デジタルハリウッド大学の細野と申します。生成ＡＩやＤＸ関連を専門としています。よろしくお願いいたします。
【一色委員】今年度より参加させていただく広島女学院大学日本文化学科の一色と申します。現在は、本学にて日本語教員養成課程の主任を務めており、留学生に対する日本語教育も担当していますが、今は主に日本語教師養成に携わっています。よろしくお願いいたします。
【入江委員】サンポーの入江と申します。専門学校、大学、企業様と取引をしています。日本語学校、高校向けにイベントや情報誌をしています。前回に引き続き、参加させていただきます。よろしくお願いいたします。
【田中委員】学校法人ＹＩＣ学院山口の田中と申します。現在、留学生の取り組みに携わっています。日本語学校によってレベル差があるなど課題が多くあります。皆様方と意見交換していきたいと思います。よろしくお願いいたします。
【吉川オブザーバー】吉川と申します。成果報告書やアプリ開発などを作業しています。皆様が使い勝手が良いものを作っていければと思います。
よろしくお願いいたします。
【矢川委員】京都府自動車整備士振興会の矢川と申します。よろしくお願いいたします。

【乗地委員】京都府自動車整備士振興会の教育課長をしています乗地と申します。京都府圏の自動車整備士向けに法律に基づいた講習の実施や自動車整備士養成施設の運営、国家試験の実施などを行っています。今年度もよろしくお願いいたします。
【稲永委員】筑波大学の稲永と申します。専門分野においては、教育学や社会学といった分野です。教学マネジメント、教育の質をどのようにするかというところに関わっています。専門学校さんとは長くお付き合いしています。専修学校の質保証や教員養成などに携わっています。よろしくお願いいたします。
【板倉委員】株式会社グッドニュースの板倉と申します。今年度から参加させていただきます。私どもは、キャリアマップとしまして、専門学校の学生用の就職アプリを提供しています。専門学校さんに導入いただいて、教職員の方が学生の就職用の指導として使っていただき、企業さんは求人を出す際に活用するといった就職全般のＤＸを実現させるアプリを提供しています。専門学校の全分野を対象としていますが、自動車整備分野、留学生といったところの相談が多くなってきています。何かお力になればと思いますよろしくお願いいたします。
【土井委員】ＹＩＣ学院京都の土井と申します。総合支援課で就職支援を担当しています。昨年度に引き続き、よろしくお願いいたします。
【池田委員】ＹＩＣ京都日本語学院の池田と申します。昨年に引き続き、よろしくお願いいたします。
【杉本委員】いすゞ自動車近畿株式会社の杉本と申します。主にバスやトラックなどを扱っています。採用教育部で採用活動や教育を含めて活動しています。よろしくお願いいたします。
【脇﨑委員】いすゞ自動車近畿株式会社で採用担当をしています脇﨑と申します。日頃は採用業務をメインに行っています。その中でここ４～５年で外国籍のエンジニアが急増しています。何かご協力できればと思います。今年度もよろしくお願いいたします。
【川村委員】スズキ自販京都で整備の責任者をしています川村と申します。昨年度から引き続き、よろしくお願いいたします。
【平岡委員】トヨタカローラ京都の平岡と申します。弊社では、留学生の割合が２割ほど占めており、留学生を大変重要視しています。今年度も、よろしくお願いいたします。
【野堀委員】トヨタカローラ京都の野堀と申します。この春にエンジニアから採用や教育を担当することになりました。外国籍のスタッフに日本語教育をどのようにしていくのか、といったところに力をいれています。よろしくお願いいたします。
【細谷委員】トヨタＬ＆Ｆ近畿の細谷と申します。弊社では、フォークリフトをはじめとする様々な物流現場で効率化を目指せるような機械の販売、整備をしています。よろしくお願いいたします。
【小林委員】ＹＩＣ京都工科自動車大学校の小林と申します。本校は自動車の養成施設になっており、整備士を育てています。１５０名ほどの留学生が在籍しています。今後、留学生対策は重要となりますので、本事業を通して良い環境づくりができればと考えています。よ

ろしくお願いいたします。
【川嵜委員】ＹＩＣ学院の川嵜と申します。留学生の環境整備士という名称ができ、そこの室長をしています。今年度から参加させていただきます。よろしくお願いいたします。
【喜多事務局】欠席者も含めまして、全３０名で本事業を進めていきます。よろしくお願いいたします。

３．議　事
【佐々木事業責任者】皆様、お忙しい中会議ご出席いただきまして誠にありがとうございます。本事業は２年目に入ります。新しく参加いただいている方もいらっしゃいますので、昨年度の振り返り、今年の事業計画、ポイントなど含めてご説明していきます。企業様にとっては日本人だけではなく、留学生の雇用や教育、我々専門学校にとっても日本人のみならず、留学生の教育、それから日本語学校においても日本に留学してくる海外からの流れを特に、自動車分野、自動車整備分野として我々が事業主体となって皆様方のお役に立てるように開発していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
本事業は、文部科学省委託事業「専修学校の国際化推進事業」として昨年度から４年事業で取り組んでいます。次第に沿って説明していきます。

（１）令和６年度 専修学校国際化事業 調査報告（一般財団法人 日本国際協力センター）の説明が行われた。
【佐々木事業責任者】こちらは、文部科学省が国際化推進事業の専門学校や日本語学校などの全体における調査報告の結果です。従いまして、我々が昨年度調査を行った結果とは違っています。留学生にとってどのようなニーズ調査があるかをご報告いたします。学校における留学生の環境がどのようになっているのかといったことを今月１７日に発表されたものです。中身につきましては、それぞれご覧いただければと十分お分かりになると思います。ざっくりとした説明になりますが、昨年１２月に実施された２，６６３校の内、１，７４３校が回答した結果です。
留学生の受け入れ状況は、入学生の過半数、半分以上が今集中していて、これは専門学校特有なものです。ご参加されている自動車整備の学校さんはお分かりと思いますが、今学生募集のオープンキャンパスには、多くの留学生が来ています。もちろん、全ての方が留学できるといったものではございません。自動車整備分野が注目されている表れでもあります。このような方々を受け入れ、しっかり教育して企業様に送り出すことが、自動車整備分野の就労人口減少の解消につながると思います。
都市圏では、ネパール、中国、ベトナムが多く、地方はネパール、スリランカ、ミャンマーが多いことが分かります。地域によって、国別で留学生が集まることが分かります。入管の関係もあると思います。日本で就職を希望する留学生が多いことも分かります。定着率も徐々にではありますが、上がってきていますが、それでもまだまだといった感じです。調査の中身は、日本語学校と専門学校がございます。日本語学校の場合は、一度日本語学校で学

んで、そのうえで上級の専門学校や大学などに進学し、就職するといった流れの傾向です。
　分野別では、都市圏では商業実務、文化、教養といったビジネス系の学校です。国家資格を取得して仕事をする方が定着率は高くなる傾向です。自動車分野におきましては、技人国在留資格で国家資格を取得していれば、就職に導くことができ、かつ定着率は高いと思います。国家資格の種類によっては、外国人の方が資格取得していても就職がなかなか決まらないということもあります。このような調査報告が出ていますので、このようなものを参考にしながら取り組んでいきたいと思います。本調査報告書につきましては、文部科学省のサイトにも掲載されています。等

（２）令和７年度　「委託事業の概要（事業計画書より)」の説明が行われた。
【喜多事務局】実施体制の説明を改めていたします。本事業は、企画推進委員会の下、モデル開発WG、課題分析WG、実証実験WGの三つのWG体制となっています。企画推進委員会では、事業方針の策定や進捗状況の管理、事業全体の運営管理、成果の検証や報告書の編集・まとめ等を行います。モデル開発WGは、外国人留学生確保のためのルートや現地と日本の日本語学校との連携、専門学校養成施設との連携、企業との連携を行い、就職の定着率を高めることを行います。課題分析WGでは、実態の調査と課題の分析がメインとなります。現状の外国人の日本語レベルの状況と実際に必要であるレベルの調査とその課題の確認、実証実験の結果をもとに分析し、本事業の取り組みに関しての課題や改善を行います。実証実験WGは、対話型音声ＡＩアプリを使った実証実験や対面授業の実証実験を行い、受講者アンケートを取り、課題分析WGにつなげ、検証するといったことを行います。等

（３）令和７年度　「作業行程表（予定)」の説明が行われた。
　令和７年度は、日本国内の日本語学校、自動車整備系の専門学校、スリランカの現地日本語学校で実証実験を予定しています。学生の使用感や環境整備といったことに対して、検証することを目的としています。本年度の作業行程表をご覧ください。２ブロック目に昨年開発を始めました対話型音声ＡＩアプリの初級編の実証実験を行うとともに、利用状況の確認、ログの確認、どのようなワードを聞いているのか、どのようなテーマを聞いているのかといったことの把握、トラブルシューティング、セキュリティ対策を行い、ステップ２、３の開発に進めていきたいと考えています。また、次年度に対面授業を行うため、日本語学校、自動車整備系専門学校のシラバスの作成、就職後の定着に向けたインターンシップ等を含む企業教育向けのシラバス骨子案作成についても今年度視野に入れています。実証実験や現地調査委においては、個別に相談することもあると思いますので、その際には、よろしくお願いいたします。等

（４）令和７年度　「開発・作成」…ＡＩ開発・Ｃｕｒｒｉｃｕｌｕｍ　Ｐｏｌｉｃｙ・Ｃｕｒｒｉｃｕｌｕｍ　Ｆｒａｍｅｗｏｒｋ・実証実験の説明が行われた。
【佐々木事業責任者】今、事務局から今年度の事業計画について説明がありました。本企画

推進委員会の委員の方々が３つのＷＧに分かれてそれぞれ議論してご意見をいただく体制で取り組み、進めていきます。

本年度で取り組む内容につきましては、昨年度は対話型音声ＡＩアプリの初級編としてデモ的ではございますが開発しました。専門学校入学、企業様への採用は、ＪＬＰＴのＮ２以上、Ｎ１以上とされていますが、それは学校でやるべきということで当たり前になっています。その中では取得できない留学生もいます。留学生を教育、定着させるためには、ＪＬＰＴ資格取得以外の環境が必要ということを昨年度からご説明してきました。この環境をどのように補完していくかというところで、対話型音声ＡＩアプリ開発や環境整備を整えていくということが本事業の大きな狙いとなります。

改めて、本日は初参加の方々がいらっしゃいますので、本事業のご説明をいたします。本事業は、昨年度を含め、計４年間の事業となります。外国の日本語学校から日本の日本語学校、もしくは専門学校に留学する。留学し、企業に就職する。そこで定着する。という流れの取り組みで、ここまでの流れをどのようなモデルカリキュラムとして開発するかといった事業です。日本の１８歳人口が減少しており、将来の就労人口が減少することは皆様ご存じのとおりです。外国から日本に入ってきて就職することは当然の流れです。その中でどのようなやり方が就労人口の定着につながっていくのか、就職する前の教育でどのようなことをする必要があるのかをしっかりとプログラム化していかないと成り立たない。日本語学校、専門学校、企業といった個別で自分たちだけの範囲の教育だけをしていても留学生の定着にはつながらない横断的に考えた教育プログラムの開発が必要です。昨年度は、日本語学校、専門学校、企業の環境調査を行いました。その声を反映、補完するためにＮ５レベルまでの対象の対話型音声ＡＩアプリの開発に着手しました。ただし、これが正しいかどうかの検証まではしていません。これを本年度実証実験で検証していきます。アプリということでログの検証も視野にいれています。ただ、現時点では、あくまでも調整段階です。実証実験にご協力いただくための仕様書の作成含めて進めていきます。

実証実験では、先ほど、事務局から説明があった内容を検証していきたいと考えています。留学生だけの自動車整備科というものが自動車整備系専門学校にありますので、そこでも検証いただければと思います。

また、留学生の数だけででは、中国やベトナムが多いですが、これから伸びてくると思われるスリランカ、ミャンマー、ネパールに着目しています。今年度は、国の情勢等を考えスリランカの日本語学校で実証実験を行い、そこで対話型音声ＡＩアプリの確認をしたいと考えています。ただ、対話型音声ＡＩアプリだけではなく、対面式授業のカリキュラム開発もシラバス・コマシラバス含めて進めていきます。

今年度は、このような計画を持って進めていきたいと思います。では、どのように開発していくか、開発ポリシーとして、段階的環境整備、ＡＩ開発・カリキュラム開発・教材開発・実証実験(体験学習)です。海外留学生、現地日本語学校という表現ではなく、日本への留学志向と明記しました。そこから日本の日本語学校へ入学、自動車整備専門学校入学、最後に自動車業界企業への就職といった一貫した流れです。

日本への留学志向というところでは、このような人に留学してきてほしいといった感じのものです。日本へ留学するための必要条件として、語学はもちろん、学歴、パスポート、ビザ、経費、生活といった語学のみならず、様々な条件をクリアしないと日本に留学できない。それはどのようなことなのか、同国の教育体系、日本の日本語学校に合うものであるのか。日本へ留学する条件として、母国で日本でいう１２年間の教育を受けていれば日本の専門学校、大学に留学資格はあるが、学校によって勉強内容が異なる。日本の学校においても同じで、数学を例にすると、数１～３まで勉強する学校もあれば、数１～２までのところもある。学生の学習レベルが違っており、海外では日本よりもっと大きく違ってくる。このような学習環境やレベルを知った上で、どのような教育を施していくのかが大事になる。これが調査の必要性です。外国の日本語教育機関のカリキュラムを知ることが必要です。日本の日本語学校では、専門学校に進学する場合、日本語学校時代に何を勉強したら良いのか、日本語の勉強、ＪＬＰＴ資格取得は第一であるが、自動車整備の専門学校に進学するには、もう少しこの部分を勉強してきてほしいといったことはあります。日本語能力の徹底的な向上です。Ｎ２、Ｎ３を取得していても聴解力が欠けている留学生はいます。また、車に関する専門用語というか一般的な用語を勉強してきてほしい。日本人の高校生であればほとんど知っている程度のものは勉強してきてほしい。日本語検定は標準語で出題され、その合否で決定しています。方言地域の専門学校授業についてこられるか。聴解力は非常に重要なものです。基礎的な理数系の知識の習得、自動車への興味関心度を高めてほしいといったことがあります。

自動車整備の専門学校においては、留学生が自動車整備士養成施設のカリキュラムにスムーズについていける学習は何をしたらよいか。日本語能力のさらなる向上、特に専門用語と聴解力になりますが、これにはどのような環境整備が必要となるか皆様方からお聞きしましてまとめていきたいと思います。また、自動車構造の視覚的・体験的理解を専門学校でもっと多く取り入れた方が良いといったことがあります。これらのテキスト開発、カリキュラム開発を行い、実証実験で評価検証をしていきます。

就職においては、企業としては、就職して定着するためには何を学習すればよいのか。ビジネスレベルの日本語能力、日本の文化、マナー、コミュニケーション能力といったもので開発を進める。実際にインターンを行い、卒業生調査といったことを行い反映していくことを考えています。詳細につきましては、次の通りです。

日本・海外の日本語学校では、ＪＬＰＴをＮ２以上目指す。専門学校や企業においては、求めるところなので、日本語学校でしっかりとした教育をしてほしい。聴解力の強化として、座学だけでなく実習での先生の説明や指示のことや板書がない中で口頭での説明を正確に聞き取る能力を強化する。アニメ、ドラマ、歌、Ｙｏｕ　ｔｕｂｅを取り入れて聞く力を身に付けさせても良いと思う。次に、専門用語に慣れる準備をしていてほしい。ＷｅｂやＹｏｕｔｕｂｅ動画などを使って自動車分野に触れることはら始めてほしい。敬語、丁寧語を使えるようにしてほしい。授業だけの授業にならない応用できるようにしてほしい。数学の基礎、力学、電気、自動車への興味関心として電気自動車や自動運転などに触れる機会を設けてほ

しい。自動車整備の専門学校では、入学してからの日本語能力の向上をはじめ、専門用語の徹底的な理解、聞く力聴解力の強化、コミュニケーション能力、基礎知識の定着と応用力の養成、履修することは前提であるが、スムーズに進めるにはどのようにするのかといったことになる。自動車業界に就職して定着するにはどうするのか、ビジネスレベルでの日本語能力、敬語、謙遜語、丁寧語、ビジネスメールや企画書、日本文化と日本のビジネスマナー、時間厳守、チームワーク、報連相、暗黙のルール、コミュニケーション能力と対人スキルなどを日本人でもできない人は多いが、このような考え方を持って段階的なカリキュラムを開発する方向性です。等

【杉本委員】外国籍の方を受け入れて５年程度になるが、受け入れ当初は、抵抗感が強く、どのように教育したら良いのか、どのような仕事をさせれば良いのかといったところからスタートした。現在は、抵抗感が少なくなってきた。そういう意味では、日本語の部分は社内でもある程度やり取りができるようになってきていて、それは慣れの部分と感じる。企業に入るにあたってのビジネスマナー、ビジネススキルなどは、学生の間で学んでほしいところはあるが、話を聞いていくと、学校の中では難しいことも理解してきた。また、会社でビジネスマナーを教えるとなると、十分な時間を確保できないこともあり、難しいと言わざるを得ない。現状、ＡＩの発達を考えていくと、ＡＩ教育は今求められているものと考える。本事業の取り組みは良いものと感じている。

【阿部委員】本校では、留学生と日本人を混ぜての授業を積極的に取り組んでいて、その状況は良いと感じている。ただ、本格的な授業を受ける前に留学生を集めて１年間、日本語を学ぶカリキュラムを取り入れているからこその結果と思われる。このようなところで、アプリを使った実証実験授業は留学生のみならず、日本人学生も興味が出てくると思うし、私ども教員も使っていきたいと思う。実証実験には協力していきたいと考えている。

【矢川委員】自動車業界の企業側の話になるが、資料に書かれている暗黙のルールは、留学生のみならず、特に若い日本人は分かっていないのがほとんどと思う。それを文化が違う外国籍の方にどのようにして教えていけるのか。このようなことにＡＩを使ってどこまで対応できるのかが難しい課題と思う。また、日本企業側にも勉強してもらわないと、日本への魅力がなくなる。もっと日本の魅力を発信するカリキュラムにする視点も取り入れた方が良いと思う。

【稲永委員】資料に書かれているものを全てできるとなると日本人でもパーフェクトな人材で、おそらくできる学生はいないと思う。パーフェクトな人を求めるのか、もしくはミニマムなところで、企業に入ってＬｅａｒｎｉｎｇ ａｎｄ Ｄｏｉｎｇでやっていく前段階としてどこまでやるのかといった線引きはかなり違ってくると思う。

　また、今の日本の就労環境を前提に、そこにはめ込むような形の人材を考えるのか、それとも価値観が違う人たちが集って働くというような社会になっていきつつなる今、留学生は鍛えないといけないが、留学生が就労するところの職場の人たち、双方が歩み寄っていく形を考えていないといけないと思う。完璧な漢字、完璧な日本語でコミュニケーションを取れることはあるにこしたことはないが、「てにをは」が難しい、漢字が書けないといったことは

生じると思う。その際に、例えば、チェックをしっかりつけることで自分の意思が伝わるなど現場の工夫が色々とあると思うので、セットで考えるのも良いかと思う。文化に同化するような形、自分の文化を大切にしながらともに生きるような形があると思う。仕事の定着だと後者になると思う。このあたりを考えると本事業の取り組みはかなり重労働なものと感じた。

【佐々木事業責任者】様々なご意見ありがとうございます。まずは、試してから問題点や課題の解決をしていくということが前提となっています。今までこのような取り組みの前例がない、各学校や企業が独自工夫しながら取り組んでいると思われます。従いまして、本事業の取り組みを理由化したプログラム・カリキュラムにし、実証実験を行い、問題点を出していくということをスタートにしています。おそらく、ＡＩを含めて完璧なものは難しいと思います。ＡＩも間違った受け答えをしますので、情報を与えて学習させていくことが必要です。人間が情報を与えない限りＡＩは学習しません。実証実験で行った結果は、ＡＩに学習させるつもりで取り組んでいます。まずは、どのようにＡＩを活かしていくか、この点をしっかりと考えていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。等

（５）専修学校の現状と今後の社会を踏まえた検討の論点についての説明が行われた。

【佐々木事業責任者】専修学校の現状と今後の社会を踏まえた検討の論点について話をさせていただきたいと思います。ますは、専門学校の学生数についてです。平成２７年～令和６年までの推移です。ここ１～２年は意外と学生数は減っていない。ただし、再来年あたりからになると１８歳人口が減少しているため、大きく下がっていくと予想できます。これは、大学も同じような流れになると思われます。労働人口の推移や人手不足の状況の資料もご確認いただければと思います。ただし、この資料は文部科学省からのものですので、別の省庁では違った内容になっていると思います。専門学校は来年の４月から単位制になります。養成施設は時間制です。専門学校における適切な留学生の受け入れや管理をどのように実現していくのかが問題点となっています。専門学校が質の高い留学生を獲得するために、戦略的に留学生を受け入れる国を開拓し、留学生が希望する進路を実現するための方策、受け入れ基準や管理方法の見直しなどが必要となってくるといったことが課題です。これらを踏まえた上で、実証実験を通して課題解決に望むということが本事業の取り組みになります。

【小林委員】本事業で開発するものは、学校で試してみたいということが正直なところです。自動車分野に関しては学生に教えることはできるが、その他のことを教えるとなるとなかなか提供できるものが見当たらない。本事業の取り組みに中で橋渡しできるようなものができるようになればと思う。

【佐々木事業責任者】時間の関係上、皆様全員にご意見を伺うことができずに申し訳ございません。ご質問、ご意見等がございましたら、事務局へご連絡ください。また、委員の方々に個別でお伺いすることになることもございます。本日は、長時間ありがとうございます。等

４．その他（連絡事項等）

【喜多事務局】

７月１８日（金）にモデル開発WG、課題分析WG、実証実験WGの合同会議を開催いたします。お忙しい中大変恐縮いたしますが、会議ご出席のほど、よろしくお願いいたします。

５．閉会

本日は、ありがとうございます。今後とも、よろしくお願いいたします。との言葉で会議散会となった。

【会議風景】





＜ 会　議　録 ＞

事業名	令和７年度「専修学校の国際化推進事業」外国人留学生の戦略的受け入れ、円滑な就職及び定着に向けた体制整備「自動車整備分野の外国人留学生（受け入れ/在学/就職/定着）のためのエンロールメント・マネジメントモデル事業」
会議名	第１回モデル開発ＷＧ、課題分析ＷＧ、実証実験ＷＧ合同会議
開催日時	令和７年７月１８日（金）　１４：００～１６：００
場　所	〈専〉ＹＩＣ京都工科自動車大学校　教場
出席者	【会場参加】 委員：佐々木　章、杉本康幸、細谷昭央、川村哲史、平岡俊弥、野堀昌史、川嵜洋一、土井宏美、小林建次、池田　希、ライバビンドラ （計１１名） 【オンライン参加】 委員：田中秀樹、一色舞子（計２名） オブザーバー（請負業者）：吉川隆治（計１名） 事務局：喜多好洋（計１名） （合計１５名）

【 議 事 内 容 】

【 目　的 】

本事業の取り組み内容の共通認識を行うことを目的とした会議を開催した。

【 次　第 】

１_ １４：００　開　会（事業責任者挨拶）
２_ １４：１０　委員自己紹介
３_ １４：１０　議　事
（１）文部科学省個別会議の説明
（２）本事業の開発ポリシーについて
（３）ＡＩアプリ実証実験について
（４）海外日本語学校（スリランカ）調査について
４_ １５：５０　その他（連絡事項等）
５_ １６：００　閉　会

＜配布資料＞
【資料１】議事次第
【資料２】モデル開発ＷＧ、課題分析ＷＧ、実証実験ＷＧ（ＰＰＴＸ）
【資料３】会議出席者名簿

【 内　容 】
以下、次第に沿って会議が進められた

２．開　会
【喜多事務局】本日は、お忙しい中会議ご出席いただきまして誠にありがとうございます。定刻になりましたので、令和７年度「専修学校の国際化推進事業」外国人留学生の戦略的受け入れ、円滑な就職及び定着に向けた体制整備「自動車整備分野の外国人留学生（受け入れ/在学/就職/定着）のためのエンロールメント・マネジメントモデル事業」の第１回モデル開発WG、課題分析WG、実証実験WG合同会議を開催いたします。よろしくお願いいたします。

２．委員自己紹介
【ライバビンドラ委員】ネパール出身のライバビンドラと申します。本国で日本語学校をしています。日本でもドコモショップでグループリーダとして働いています。よろしくお願いいたします。

３．議　事
（１）文部科学省個別会議の説明について以下の説明と意見交換が行われた。
【喜多事務局】前回の企画推進委員会会議の後、文部科学省委託事業を請け負った先の教育機関や団体が集まり、個別会議や分野別横断会議が行われました。その際の発表内容も含めてご説明したいと思います。段階的開発ポリシーについて企画推進委員会会議でご説明しましたが、今年度は昨年度開発したＡＩアプリを使った実証実験を行い、ステップ２の日本国内の日本語学校及び自動車整備系専門学校、社会人向けのステップ３の設計を目指す。
　また、実証実験では、海外の日本語学校の学生をはじめ、日本国内の日本語学校、自動車整備系専門学校の学生に対しても行い、ＡＩチャットボットに学ばせて発展させていくことを発表しました。海外と日本国内の日本語学校においては、自動車整備分野に進学を考えている場合、日本語学校在籍中で何を学んだ方が良いのかを狙いとしています。
　日本語能力の徹底向上においては、特に聴解力と専門用語について言及がありました。聴解力については、口頭から正確に聞き取る力が必須であること、日本語学校在籍中に専門用語に慣れる準備が必要であるといった意見がありました。そのためにも、自動車整備士国家試験合格に必要な理数系の知識教科はもちろん、自動車への興味、関心を深化させていくこと、自動車業界の現状や将来についての話もありました。自動車分野へのアプローチとして実証実験の結果報告をしてほしいといった意見がありました。我々委員以外の所からの意見がほしいということでした。
　本事業は、汎用性も当然ながら視野に入れていかなければなりませんので、ＡＩアプリ以外にカリキュラム、シラバスについてもその方向で日本語学校や自動車整備系専門学校に活用してもらえるよう開発していく必要がございます。インターンシップやカリキュラムマッ

プを活用した就職後の定着についても同様に進めていきたいと考えています。

次に、自動車整備系専門学校の狙いにては、留学生が自動車整備系専門学校に入学して、カリキュラムをスムーズについていくためには、どのような勉強をすれば良いのかといった話し合いが行われました。日本語能力の更なる向上、特に専門用語の理解と聴解力ということでした。専門用語の中では、実際のものと言葉を如何に結びつけるようにするのか、といったところが課題として挙げられていました。

聴解部分の強化に関しましては、教員の説明や指示を正確に聞き取る能力や日本人を含めたクラスメートや教員との日常会話を積極的に行うことによって方言を含めた言い回しに慣れていくことを必要とするということでした。

近年の自動車整備に関しましては、車検に関してではありますが、今までは一人一台以上担当でお客様からお預かりして翌日以降にお渡ししていましたが、近年では、３～４名程度のチームを組んで車検を行うようになってきています。

専門学校在籍中にグループワークや実習において他の学生と協力して作業を進めることが求められ、他者とのコミュニケーション能力が不可欠となってきています。実習授業の中においても積極的な参加と反復練習において工具のことや分解、組み立ての手順等を自分自身が何度も手を動かして覚えていくことが重要であるということを話しました。留学生の学歴について質問がございましたが、母国で１２年間以上学習し、その後、日本国内の日本語学校、自動車整備専門学校の学歴を想定しているという説明をしました。等

（２）本事業の開発ポリシーについての説明と意見交換が行われた。

【喜多事務局】開発ポリシーの業界・企業に関して、留学生が自動車業界に収書し、定着するために必要な学習は何かという部分につきましては、前回の企画推進委員会会議で発表があった通り、日本のビジネス文化、マナーといった言及が多く見られました。

時間を守るといった約束、チームワーク、協調性を身に付けてもらう。チーム全体で作業を行うことによる成果が重要視される傾向が求められるということを理解してもらう。

ビジネスマナーに関しては、日本人の学生もなかなかできていないことにはなりますが、名刺交換等のあいさつ、服装をはじめ、お辞儀の仕方のきをつけて礼が体が脱力した状態で行うといったことを教える必要性があるということでした。

暗黙のルールに関しては、現在、グレーゾーンに関するハラスメント部分も取り上げられていますので、会議や会社行事への参加に関してはあまり大きな言及はありませんでした。職場の雰囲気や人間関係の円滑化にする要素の暗黙のルールをいかにして伝えていくのかが重要という話にはなっていました。

コミュニケーションや漢字に関しては、傾聴力、相手の話をいかに理解して適切に反応するのかということになります。この部分は日本人も十分注意するべきものと考えています。ある留学生についてお話ししますと、本人は悪気は全くない、話の内容を理解できていなくても理解できているような相槌を打ってしまうということもありますので、当校としましては、多くの企業様が多くの留学生を受け入れていただき感謝しています。

今は就職先をいかに探すのかということに関しては頭を悩ますことが無くなってきていますが、各学校で取り組むのではなく、行政や各団体が主体となって進めていくのではないかという意見がございました。等

【土井委員】最近は各企業様から外国人留学生を採用したが、離職後を絶たないという話がありました。やはり定着ということがとても大事と思う。せっかく就職したにも関わらず早期離職してしまった。このようなところもしっかりと考える必要があると思う。入学前から就職。定着と長期的に見据えたものとして考えていく必要があると思う。

【喜多事務局】本事業の取り組み目標は最終的に就職先への定着ということになります。定着させるために専門学校ができること、日本国内の日本語学校ができることについて伺いたいと思います。

【土井委員】例えば、今回のアプリ開発を通じて、外国人留学生が就職した後にキャリアパス、社内でも昇進というものがあると思うが、それをどのようなものか具体的に今後の活躍できる内容を明確化したアプリの中で分かるような仕組みがあればとても良いのではないかと思う。

【喜多事務局】開発ポリシーに関しまして他にご意見をお願いします。

【川嵜委員】学校で日本語教員と留学生の生活面サポートという環境整備に携わっています。日本語力の向上で特に聴解力と専門用語という点において留学生は当然ながらアルバイトをしている。その中で非常に多いのが夜間の工場でのアルバイトである。

その理由として、日本語言語を話すことなく長時間労働勤務ができ、会話力を必要としない環境である。飲食店やコンビニでアルバイトをするというプログラムを作れば、アルバイトでも日本語が必要になる環境が作れるし、日本語会話能力も向上すると思う。工場勤務の留学生アルバイトと飲食店やコンビニ勤務の留学生アルバイトに日本語会話力を比べると、飲食店やコンビニでアルバイトしている留学生が圧倒的に高い。勉強した日本語と職場の日本語が違うことで留学生は戸惑ってしまう。

少し前、Ｎ１を取得した学校の卒業生で自動車分野に就職して、お客様対応しているときに、ＪＬＰＴであればブレーキを踏んでも車が止まりませんでした。ということになるが、お客様と話をしているとブレーキをグッと踏んでもガッと止まらないという話し方をされた。ここでの「グッと」「ガッと」という意味が全く分からない。日常会話での対応が分からない。日本語学校でＪＬＰＴのための勉強をしているのと日常生活の会話は違う。学校に通うのは半日しかない、日常生活においていかに日本語に触れる、一般生活になれる環境を整えていくことも私どもでできればサポートにつながると思った。

【喜多事務局】接客を要するアルバイトを学校側から斡旋できるような体制づくりが必要であると思われているということでしょうか。

【川嵜委員】サポートする環境づくりの一つであると考える。

【喜多事務局】普段の学校生活の中で何ができると思われますか。

【川嵜委員】今日本に来る留学生は、ネパール、スリランカ、ミャンマーからの留学生が多い。スリランカと、ネパールは日本語文法が似ているため、以外にコミュニケーションが取

れるが、非漢字圏のため漢字が読めない、特に自動車の専門用語になるとより読めなくなってしまう。授業の構築の場合においては、自動車の用語、教科書に出てくるような漢字を授業に導入するようにしていた。開発ポリシーには、聴解力と専門用語と書かれているが、漢字力の強化は今の留学生には必須であると思う。

【喜多事務局】カリキュラムの中に漢字力を強めに盛り込むような方向で検討していきたいと思います。日本語学校のカリキュラムの中に組み込むとした場合の意見をお願いします。

【池田委員】日本語学校で漢字のカリキュラムはありが、やはりＪＬＰＴ寄りの教え方になっている。そこを強化することは可能であるが、自動車に関するものは、Ｎ１を超えているようなものと感じている。日本語学校に組み込むのは難しいと思う。ただ、専門学校の授業の中やアプリを活用したものは可能と思う。

【喜多事務局】留学生を対応している学科のある専門学校のカリキュラムという方向で考えていきたいと思います。就職先の定着を大きな目標としていますが、そのことに対してご意見をいただきたいと思います。

【細谷委員】当社はまだ外国人留学生の採用はしていない状況で、今後、そのようなことになるだろうと感じています。定着率で見ると日本人の学生も同じように思える。思い描いていたイメージと入社したときのギャップが大きな課題と思う。

　現段階ではインターンシップなどの就業体験、就職先のルールや文化を知ってもらって入社していただくことに取り組んでいる。入社後でギャップを感じるのと入社前とでは大きな違いがあると思う。就職先を考えている何社かを就業体験して決めるような仕組みができれば定着率の向上につながると思う。

【喜多事務局】本事業で各企業様へのインターンシップは視野に入れていますが、インターンシップの期間はどの程度を考えていますか。

【細谷委員】１週間は短く、１か月は長いのでその間ぐらいを考えている。

【喜多事務局】２週間前後と思われますが、自動車整備系の専門学校として新たに年間行事に組み込めると思われますか。

【小林委員】一級はカリキュラムとしてインターンシップはあるが、その他は無い状況である。自動車整備で２年間の中で行わなければならない授業が正直なところすごく多い、そのため、プラスαで２週間となると厳しい状況である。授業時間として認められるのであれば、授業の一環として組み込むことはできると思う。授業以外で考えると難しい。ただ、１週間以内であれば学生を集めることはできると思う。複数であれば、例えば３日間を２～３社という体験は可能と思う。

【喜多事務局】短期間という話ですが、それについてご意見をお願いします。

【川村委員】仕事や会社の環境に慣れるまでに時間が掛かる。短期間で何を学ぶかによる。また、多くの日本人の中に外国人留学生が入るパターンと外国籍の社員がいる中に入るのとでは違うと思う。受け入れ可能かについては、外国籍の社員がいる中に入るのであれば、学びにつながると思う。調整次第にはなるが受け入れは可能である。

【杉本委員】インターンシップは受け入れているが、長期であることで学べることが、短期

では体験で終わってしまう。受け入れに関しては可能であるが、学びのレベル設定をどのようにするか内容によると思う。
【野堀委員】短期間のインターンシップの受け入れ自体は可能であるが、その目的と学ぶ内容をしっかりと作り込まないともったいないと思う。
【喜多事務局】開発ポリシーの流れに関しましてご意見をお願いします。
【田中委員】日本に入国する前の事前学習で日本語の専門科目の学習内容にあたると思うが、生活内容を日本の日本語学校に入学する前に取り入れた方が良いと思う。日本に来た際に、電車の乗り方などがわからない状態がある。実際の授業においても座学でちょっとした日本文化的な専門用語も理解できない状況になってしまっている。カリキュラムの前段階の事前学習面で日本文化の理解、専門養育についてなどを組み込んでも良いと感じた。等

（３）ＡＩアプリ実証実験について説明と意見交換が行われた。
【喜多事務局】ありがとうございます。ここで対話型音声ＡＩアプリを活用した実証実験について説明させていただきます。本年度は、日本国内の日本語学校、自動車整備系専門学校、スリランカ現地日本語学校を予定しています。想定人数は、各２０～２５名を想定しています。日本国内の日本語学校の実証実験に関しましては、本事業協力校で８月を予定しています。対象は日本に留学したＮ５レベルです。
　本事業で開発している対話型音声アプリの使い勝手について聞き出し、整理しまとめ改善につなげることを目的としています。利用状況に関しましてはログシステムを導入する。
　実証実験のタイムスケジュールは資料をご覧ください。授業では、昨年度制作しましたＰＲ動画をまずは見せてそこから入りたいと思います（ＰＲ動画視聴)。漢字など読めない部分が出てくると思いますので、その際には担当者が説明し留学生に理解してもらった上で留学生が所持しているスマホから入って実証実験を進めたいと思います。タブレットやＰＣも視野に入れていますが、実際に留学生が自宅に戻った際には、スマホがメインとなると思いますので、そのように考えています。アプリに慣れた後、各シチュエーションで質問して進めるという方向です。その後、アンケートを実施するというように考えています。
　ログの検証も１週間、２週間という期間を考えています。アンケート内容につきましては、配布資料をご覧ください。
【池田委員】８月は夏休みですが、１回に５０分ということですが、普段授業をしている時は時間が取れないと思うので、夏休みに集まってもらうしかないかなと思う。人数は問題ないと思うが、対象の日本語レベルＮ５以上ということが気になる。当校ではＮ５～Ｎ１までいるので、どの学生を対象とするのか。現在のアプリを使ってみたところ、聞いたことに対して上級レベルで答えてくるため、学生が理解できるのかという心配とアンケートでも初級はもちろん、中級レベルでも分からない言葉が多く出てきている。この点を整理していかないときちんとした結果が出ないと感じる。
【喜多事務局】ＪＬＰＴを取得していても日本語会話力が低いためコミュニケーションが取れないということもございますので、アンケートや受験生のレベルに関しましては、Ｎ５～

Ｎ１や大学を卒業している学生にも参加いただけると傾向分析ができると思っています。
【一色委員】音声ＡＩアプリのシチュエーションを一通り確認しましたが、入国前に日本で生活する上でのマナーなどが学べるのであれば、留学生の不安を解消できると思う。いきなり日本の実社会に出る前の日本語練習の場になる有意義なものと考える。アプリを使用することによって教師が対応できないことも補えることもあると思うが、アプリと生身の人間との対話では全く異なるのでいくばくかの心配はある。就職先の定着があるが、実際の日本語母国者との接する機会によるその地域への愛着が芽生えないと定着につながらないと思う。アプリを活用しつつ、生身の人と会話を交わし、つながりを持てる場ができると良い。ハイブリッドな形でできると良いと感じた。
【喜多事務局】ありがとうございます。実証実験を通して様々な検証をしていきたいと思います。次に、自動車整備系専門学校の実証実験についてですが、９月～１０月を考えています。実施先は本事業参加の協力校の中で選出することを考えています。対象者は日本語学校を卒業し、自動車整備の勉強をしているＮ４以上の留学生。想定人数は２０～２５名を考えています。
　成果目標としては、ステップ２、ステップ３につなげていきたいと考えています。タイムスケジュールに関しましては１コマ４５分で考えています。実施時期や想定人数につきましてご意見をお願います。
【小林委員】９月は学生が試験休みになるため、１０月に入ってからが良いと思う。対象人数は問題ないと思う。本校の場合は、留学生が自動車を学ぶ期間は３年課程の形をとっている。１年生は日本人の入学生に学生に近い、３年生は卒業後に近いレベルと考える。１年生～３年生のレベルが違うため、どのレベルに合わせるか、それともレベル関係なく合わせて実証実験していくのかは今後の打ち合わせになると思う。タイムスケジュールに関してはその時の状況次第でアンケート内容に関しては、まずはこの内容で行ってみてはと思う。

（４）海外日本語学校（スリランカ）調査について説明と意見交換が行われた。
【喜多事務局】次に、海外のスリランカ現地の日本語学校での実証実験についてですが、現在調整中です。日本に留学するための必要なＮ５レベルを目指すような受講生を対象としています。想定人数は２０～２５名程度。現地の学業レベル、デバイス、通信環境の状況等の把握、アプリの使い勝手などを確認し、今後の改善策を得るということになります。
　タイムスケジュールは１コマ４５分を考えています。アプリはステップ１の初級を使います。今年度はスリランカでの実証実験を考えています。次年度以降、ネパールでも考えていますが、想定人数の２０～２５名の実施は可能でしょうか。
【ライバビンドラ委員】可能と思う。ただ、このような機会ははじめてのことなので、日本の自動車分野に就職できる専門学校が実施するということを告知する必要があると思う。
【喜多事務局】アンケートを実施するには、日本語の他に現地語や英語を付けようと思いますが、そこまでしないでふりがなで大丈夫でしょうか。

【ライバビンドラ委員】英語が一番良いと思うが、ふりがなであっても良いと思う。両方あれば問題ないと思う。漢字は読めないと思う。
【喜多事務局】海外調査、スリランカについてご説明します。海外スリランカの現地日本語学校の調査概要を資料に記載していますが、期間に関しましては、今のところ９月３０日～１０月３日を予定しています。航空券やビザ所得の件がありますが、今のところその日程を予定しています。人数は事務局と教職員の２名を予定しています。１校は本事業委員の関係のある日本語学校でヒアリングを行います。その他は調整中です。都心と都心から離れた地域の比較を考えています。距離や公共機関、時間などのことがありますので、１日１校を目安として考えています。調査の際に、学力レベルとして日本語力、国語力や数学のテストを行いたいと考えています。出題例の詳細は資料を参照ください。
【平岡委員】ふりがなを振っているので文章は読めるが、その中身の意味が分からない。例えば、トルクレンチの長さは分かる、問題はトルクレンチの有効長と書いてある。有効長という言葉は分かるが、有効長という意味が分からない。車でもガソリンエンジンの車ということは分かるが、ガソリンエンジンが搭載されているとなると搭載の意味が分からない。これをどのように教えていくのかが社内でも課題となっている。ふりがなを振る程度しか現状はできない状況である。円周率が通じるのかといったことなどを考えながらテキスト作成に気を付けている。
【喜多事務局】確かに読めるが意味が分からないということが留学生には見受けられるため、そのあたりも踏まえて開発を進めていきたいと思います。ログ管理について話をお願いします。
【吉川オブザーバー】実際に管理をする方々がどの時間帯でアプリを開いているのか、どれほど学習しているのかがわかるようにしたいと考えています。アプリの特性で出たり入ったり頻繁にするため、それを一覧にしますと膨大な量になりますので、出入りの時間ではなく、１日の２４時間の内、この時間帯に何分アプリを開いていたかということが一覧表でわかるようにしていきたいと思う。等

４．その他（連絡事項等）
次回の会議は、１２月中旬を予定しています。８月～１１月は実証実験の期間として考えています。

５．閉会
【佐々木事務局責任者】長時間の会議ご参加ありがとうございます。本日の議題、ご意見につきましては、事務局の方で調整したうえで進めていきたいと思います。実証実験、ＡＩアプリ開発は、実際にある程度想定し、調整したうえで行ってみて、どのような結果となったか、そこに課題と改善があるということになります。どのような準備をして進めるとスムーズに行くのか、ＡＩも勉強させなければならない。質問していかなければＡＩも十分な回答

ができない。実証実験はやったものが正解ではない、やってから皆様からのご意見をいただき、修正を重ねて良いものを作り上げていくというそれを繰り返し行っていくことになります。取組みを進めながら精度を上げていくことになります。調査委に関しましても、先ほどのお話でもございましたが、外国籍の方は日本語の意味が分からないということがございますので、それも含めて調査を行います。日本でしっかり働ける環境づくりに結びつけることができればと思います。
本日は、ありがとうございます。今後とも、よろしくお願いいたします。との言葉で会議散会となった。

【会議風景】




＜ 会　議　録 ＞

表 1

事業名	令和７年度「専修学校の国際化推進事業」外国人留学生の戦略的受け入れ、円滑な就職及び定着に向けた体制整備「自動車整備分野の外国人留学生（受け入れ/在学/就職/定着）のためのエンロールメント・マネジメントモデル事業」
会議名	第２回企画推進委員会会議
開催日時	令和７年１２月１９日（金）　１４：００～１６：００
場　所	〈専〉ＹＩＣ京都工科自動車大学校　教場
出席者	【会場参加】 委員：佐々木 章、杉本 康幸、細谷 昭央、川村 哲史、板倉 真紀、 矢川 賢治、小林 建次、池田　希（計８名） 【オンライン参加】 委員：永江 貴史、大門　剛、阿部 一則、奥居 薪子、稲永 由紀、入江　剛、 田中 秀樹、土井　宏美（計８名） オブザーバー：貝原　剛（文部科学省総合教育政策局生涯学習推進課)、 北村　修（みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社)、 伊藤 宏支、吉川 隆治（請負業者）（計４名） 事務局：喜多 好洋（計１名） （合計２１名）

【 議 事 内 容 】

【 目　的 】

本年度結果報告および次年度以降の取り組み内容について共通認識を目的とした会議を開催した。

【 次　第 】

１_ １４：００　開　会（事業責任者挨拶）
２_ １４：１０　議　事
（１）対話型音声ＡＩアプリ実証実験結果報告
（２）海外日本語学校現地調査（スリランカ）中止報告
（３）次年度に向けての課題
（４）各委員からの意見
３_ １５：５０　その他（連絡事項等）
４_ １６：００　閉　会

＜配布資料＞
【資料１】議事次第

【資料２】出席者名簿・座席表
【資料３】令和７年度 文部科学省委託事業「専修学校の国際化推進事業」（ＰＰＴＸ）
【資料４】シラバス・コマシラバス見本（自動車整備系専門学校用）
【資料５】シラバス・コマシラバス見本（海外日本語学校用）

【 内　容 】
以下、次第に沿って会議が進められた

１．開　会
【喜多事務局】皆様ご出席いただきまして誠にありがとうございます。定刻になりましたので、令和７年度文部科学省委託事業、専修学校の国際化推進事業、自動整備分野留学生 EM 事業第２回企画推進委員会を開催いたします。
【北村オブザーバー】みずほリサーチアンドテクノロジーズ株式会社の北村です。本日はよろしくお願いいたします。
【貝原氏（文部科学省）】本日はお呼びいただきまして、誠にありがとうございます。国際化事業につきましては、良い取組みをしていると思っています。ご参加の委員の皆様の意見等を伺いながら勉強させていただきたいと思っております。今国際化が進んでいる中で留学生の対応等で国としての舵を色々検討している中で、今後どのように進めていくのかということもあると思います。その辺も含めて意見を伺えればと思っています。よろしくお願いいたします。
【奥居代理委員（上田委員代理）】京都民際日本語学校教務の奥居と申します。今日はこのような場所に呼んでいただきまして、ありがとうございます。勉強させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

２．議　事
【佐々木委員】皆様、お忙しい中ご参加いただきまして誠にありがとうございます。この事業は今年度２年目となり、トータルで４年間のスキームで取り組む事業です。企業と団体、自動車整備系専門学校、日本語学校の皆様にご協力いただいて取り組む事業です。海外留学生が日本に入国して日本語学校で日本語を勉強し、大学、専門学校進学して就職して職業に定着していく流れがありますが、この自動車整備分野は留学生の定着していかないことになり兼ねない。そこで開発しています対話型音声ＡＩアプリや実際の国別の教育のレベルといったことを検証し、日本語学校での教育、専門学校での教育という段階を踏まえたプログラムを開発していく必要があると思っていますのでよろしくお願いいたします。
　今年度の全体のスキームと総括をご説明します。左から海外の日本語学校、日本の日本語学校、自動車整備の専門学校、企業の定着といった一連の段階的な流れの開発を進めています。下には、段階的に表示されるＡＩアプリのキャラクターがあります。日本語教育でＪＬＰＴだけ目指すだけでは不足で、例えばＮ２を持っている方が良いですが、専門学校で自動

車の専門学校に進学して通用するかというと必ずしもそうではありません。就職でも不合格になるケースはあります。専門技術や知識不足だけではなく、それをしっかり補完するための生活環境整備が非常に大切であるところが本スキームの基本になっています。それぞれの段階でこの対話型音声ＡＩを使って環境整備を進めてようと考えています。

昨年は対話型音声ＡＩの初期の段階で今年度はそれをもとにして日本語の日本語学校、自動車整備の専門学校の国別の学力格差の検証をしています。日本語能力ＪＬＰＴのＮ５からＮ４レベル程度のテスト、数学物理として中学一年から三年程度のテストを行っています。

実証実験の結果として、日本語の日本語学校の場合、成績１位はミャンマー、２位ネパールで、３位スリランカとなっています。次に、自動車整備の専門学校では、１位ミャンマー、２位スリランカ、３位ネパールです。国別比較をした成績グラフではネパールは伸びがそんなになくスリランカは伸びが顕著に表れていいます。２校の日本語学校と専門学校でも同じような結果となっています。

この結果から、どのように教育を施していくのかが次年度以降の課題となります。次に、開発した対話型ＡＩアプリがどのように使われているのかを今回検証しました。また、スリランカの日本語学校で実証実験と調査を予定していましたが、洪水の問題で渡航できなくなり見送りました。来年以降、改めて諸外国の日本学校で実証実験の実施を予定しています。

（１）対話型音声ＡＩアプリ実証実験結果報告、および（２）海外日本語学校現地調査（スリランカ）中止報告と意見交換が以下のとおり行われた。

【喜多事務局】今年度の進捗につきましてご報告いたします。対話型ＡＩアプリ開発ですが、夏頃から改善を行い順調にできました。実証実験は、昨年度開発した対話型音声ＡＩアプリ初級編を使って海外の日本語学校向け開発をステップ１とし、日本の日本語学校向けをステップ２、専門学校の学生もしくは社会人向けにステップ３といった形でつなげることを目的として日本の日本語学校に実施しました。実証実験のアンケートには各受験生の出身地、国と日本でいうところの市、何々市にあたる部分のスタイルを設け、国の括りではなく、その国の出身地域による学力差、日本語、計算する能力などを知ることで、教育内容の違いを少しでも把握し、今後のシラバス・コマシラバスの作成につなげることを目的としました。

海外、スリランカの日本語学校の調査では、海外の日本語学校でオンラインによる授業を行う、配信することが可能か調査を本来実施する予定でいましたが、水害により中止せざるを得なくなりました。

実施状況ですが、令和６年度に開発しました対話型音声ＡＩアプリを使用し、日本国内の日本学校で５つのシチュエーション、自動整備系専門学校で１０のシチュエーションごとに時間を決めて実施しました。対話型音声ＡＩアプリの使いやすさ等に加えて、日本語力、計算力、数学力のテストを１３カ国の９１名の留学生に実施しました。内訳は約７０％６４名がターゲット国のミャンマー、ネパール、スリランカ出身でした。日本語レベルは、設定レベルＮ５またはＮ４以上が全体の８１％を占めていました。結果として、９１．６％の受講生から簡単である、もしくは使いやすいと回答をいただきました。アンケートの回答の自由

記述の中には、わからないことを聞くことができるといった回答が多かった。一方で、例えば写真の表示が欲しいといったような要望もありました。学力については、出身国によって大きな開きがありますが、入国後、特に進学後に大きく成績を伸ばしている国もありました。また、同じ国の出身者での学力を比較しますと、都心部に近い学生は高く、郊外、特に農村部や山間部の学生は低い傾向でした。

実証実験の日程と実施校の報告です。日本国内の日本学校では９月３０日と１０月２日にＹＩＣ日本語学院と京都民際日本学校で合計３０名の学生が受講しました。自動車整備系専門学校は、１０月１０日と１１月２０日にＹＩＣ京都工科自動車大学校と専門学校穴吹工科カレッジで行いました。Ｎ４レベル以上の学生を対象とし、合計６１名の学生が受講しました。結果ですが、全体９１名のグラフとなります。

今回のターゲット国の出身者が全体の７０％を占めていました。特にネパールに関しましては、約５０％を占めていました。

日本語レベルは、Ｎ５以上が８１％、Ｎ４以上が７３％した。左側のグラフが日本語学校で実証実験を行った時の日本語力の成績です。右側が自動車整理系の専門学校の日本語力の成績です。ミャンマー、ネパール、スリランカの順で日本学校に在籍時点における成績順の点数が、自動車整備系の専門学校で学ぶ中で、スリランカの伸び率がもっとも高く点数を大きく伸ばす結果となりました。

３カ国の平均点も上がってはいますが、それに近づく点数まで伸びていました。ミャンマーは、学力があることが明確になっています。スリランカは、環境の適応力が高いところが一つの判断基準になると思います。計算のグラフに関しては、計算と数学力の比較をしています。日本語力と同様に、ミャンマー、ネパール、スリランカの順が、ミャンマー、スリランカ、ネパールとなり、ネパールとスリランカが逆転しました。筆記試験の内容は配布資料を確認ください。

実証実験の受講生から試験の必要性を質問されました。国ごとや同じ国でも地域によって学習している範囲も違うのでそれを知った上で教えていきたいと説明したところ、それを理解したようで真剣に取り組んでいました。

日本国内の日本語学校では、受験者の出身国、日本語レベルにつきましては、５０％がターゲット国出身者でＮ５レベル以上は、８６％でした。アンケートでは９０．４％の学生が肯定的な回答でした。わからないことが来ることがよい、わからないことを聞くことができるといった回答や日本国内の日本語学校の学生らしく自分自身が間違った文法で話をしても、ＡＩが正しく判断して答えてくれたのが嬉しかったなどの回答が挙げられます。改善の希望点としては、音声で回答する際に文字でも表示するように作っていますが、その文字にふりがなが欲しい、学生の母国語で使用したいといったことでした。

学力については、ミャンマーが高く、スリランカが低い結果でした。これは日本語力も数学、計算の通学力も同じ結果です。点数の差も大変大きいところもありました。ミャンマーとネパールにおいて計算・数学力の点数の低い学生は、時間切れで解答できていない学生が多く、スリランカは時間切れに加えて、母国で学んでいないと思われる学生が複数名いまし

た。

５０％のグラフ内訳ですが、日本の日本語学校学生ではスリランカが一番多い人数で日本語レベルもＮ５以上が８６％に達している状況でした。アンケート選択式の項目は委員会で発表していますが、お時間ある時にでもご覧ください。

自由記述式につきましては、受講生の回答を原文のままええ記載いています。漢字の書き間違いは修正していますが、例えば文法や句読点、漢字、ひらがな、カタカナは原文のまま記載しています。右側にテキストマイニングとして、受講生が多く使われている言葉が大きくするような形で表示しています。視覚的にも把握しやすいと思い記載しています。

続いて日本語力の試験結果です。グラフはターゲット国のミャンマー、ネパール、スリランカの点数と平均点が１０点、右側は個人別の点数となっています。個人別は中央値１０点でグラフを表示しています。計算・数学力に関しましても国ごとの平均点と個人別の点数を記載しています。中央値は3点の結果でした。ここでご意見を伺いたいと思います。

【奥居代理委員（上田委員代理)】実証実験の受講生はレベルで集めた。4月に日本に入国した学生や7月に入国してきた学生もいる。スリランカの受講生は日本に来たばかりであったため、日本語にまだ慣れていないところがあってこのような結果になったと思われる。受講生みんなＡＩで日本語を学ぶことに興味を持った受講生が多かったので、実証実験が終わった後も楽しかったという感想をもらっている。

【喜多事務局】学生には真剣に取り組んでいましたし、実証実験しやすい会場も使用させていただきました。ご協力ありがとうございました。

【池田委員】対話型ＡＩアプリに関しては、学生が楽しそうに使っていた。成績のグラフの説明に気になる点がある。同じ学生の変化ではなく、サンプル数の問題もあるので、一概に決めつけるような流れで聞いてしまうと危険かもしれない。ミャンマーは高校卒業試験がとても難しいため、日本に来ている学生自体の基礎学力が高いというのは確かであるため、そのような面も含めて、シラバスなど作成したいと思う。

【喜多事務局】ありがとうございます。今年度は昨年度開発しました対話型ＡＩアプリを使用するにあたってＹＩＣ京都日本語学校とＹＩＣ自動車整備大学校を元にシラバス・コマシラバスを作成して実証実験を実施しました。来年度に向けたシラバス・コマシラバスには、この結果を踏まえて委員の方々のご協力とご教示いただきたいと思います。次に、実証実験の感想コメント動画を流しますので視聴願います（コメント動画視聴)。ご視聴ありがとうございます。その他の実証実験も同じように撮影していますが、ＰＲ動画等に反映して皆様にお届けできるようにしたいと思いますので、お手隙の際にご覧いただけますと幸いです。

自動整備系専門学校の実証実験の結果をご報告いたします。当校および専門学校穴吹カレッジ様で実証実験を行いました。受講は８カ国６１名の学生で、その内４９名約８０％がターゲット国出身です。Ｎ４以上は７８％となっています。結果は、９２．２％の方が肯定的でした。自由記述では、「質問に対して簡単に答えてくれる」「日本語会話の練習になる」「友達ができたように感じた」などがありました。改善希望点の方では、「文字に加えて写真等が欲しい」「時には間違った回答することがあったのでそれがないようにしてほしい」といっ

たものがありました。今現在、問題になっていますが、人間でも同じようなことは言えますが、ＡＩもすべて正しい回答はできないので、１００％を求めると厳しいと思いますが、学び続けることで近づけていくようにできると考えています。

自由記述では、日本語学校の学生に比べて、自動整備系の専門学校の学生の方が、ひらがなの使用が多くなっている傾向が見られ、句読点の欠落が多く見られた結果となっています。日本学校を離れて自動車の勉強に移るに従い、そのようになった印象です。

学力についは、日本語力、計算、数学力ともにスリランカ、ミャンマーを逆転し、ネパールからの留学生が力をつけている結果になっています。真面目に一問一問解いた姿勢が点数の伸びであると感じています。それぞれの国の学力と地域性においての結果として、小学校、中学校、高校に当たる学習を受けた頃に、山間部や農村地域に住んでいる学生の点数が低くなっていました。出身国別をグラフにしました実証実験の受講者学生はターゲット国で８０％を占めています。全体の６６％はネパールが占めていました。

日本語のレベル別では、Ｎ４以上が７８％となっていますが、その中でＪＬＰＴの資格を持っていない留学生が１３名いましたので、ＡＩアプリを使用しながらＪＬＰＴの資格取得に向かって進んでほしいと思います。

次に、回答選択式の結果ですが、記載していますので説明は割愛いたします、お手隙の際にご確認いただければと思います。

自由記述では、先ほどの日本語学校と同じように原文のまま記載しています。やはり、句読点等がない文章が多く見受けられます。文字がすべてひらがなでつながっている、ひらがなが逆さを向いている留学生もいます。ただ、内容的に日本語学校の学生よりも少し専門的なことは入っていました。右側に視覚的に分かりやすいと思いテキストマイニングで表示しています。自動車整備系専門学校学生の日本語力をグラフ化しました。ターゲット国３カ国の日本語力平均点は１９点中１２．８点でした。ミャンマーがネパールを超えています。ネパールとスリランカが平均点に届いてなく、個人別点数の中央値は１２点の結果です。数学も同様な結果で順位は、ミャンマー、スリランカ、ネパールの順です。個人別点数では、１４問中平均点が６．６点、中央値が５点でした。ここで、ご意見をいただきたいと思います。

【大門委員】本校の午後のクラスの学生対象に実証実験を協力実施した。学力差は説明と同じ状況。受講した学生にとっては、良い経験になったと思う。担任教員や受講学生からはもう少しやってみたいとの意見があった。授業の中でこれを盛り込めることができればという声があった。運用が上手く出来れば取り入れたいと思う。良い教材になると思う。

【喜多事務局】ありがとうございます。また、学生さんには実証実験授業に一生懸命参加いただきまして、誠にありがとうございます。引き続きよろしくお願いいたします。他にご意見を伺いたいと思います。

【小林委員】このＡＩとの会話内容は実生活に使えそうかどうかにおいては、専門学校、日本学校にとって使えるといった学校内での声があった。内容が良かったこともあり、留学生が困っているのが実感できた。

【喜多事務局】本対話型ＡＩアプリはログ管理のほかに、キーワードランキングも入ってい

ます。自動車整備系ということもあり、自動車、車が多いのですが、バス、薬といった生活に関することもここで見ることができます。ここで実証実験の結果についてご意見を伺いたいと思います。

【阿部委員】当校も同じようや割合の留学生を受け入れている。学力の傾向も同じで、スタートの伸びにおいて、ターゲット国を見るとミャンマーが頭一つ出ている。対話型ＡＩアプリについては、間違った回答が出るといった学生の回答があったが、使っている学生が「使いやすい」「簡単」といったところの回答が多い、すごく良いのができていると感じる。

また、ＡＩならではと思ったことは、学生が少し間違った伝え方をしても、しっかりとＡＩが汲み取っていることが、アンケートの回答から見受けられる。しっかりとした対話型ＡＩアプリができていると思った。

【喜多事務局】ありがとうございます。次年度は、実証実験のご協力などご相談することがあると思いますので、その際には、是非、よろしくお願いいたします。

【永江委員】福岡でも同じで、ネパールが２／３以上占めていて、ミャンマー、スリランが続いている。ただ、当校の特徴として中国が多いところ若干あるが、それでもりネパール、ミャンマーが多いのは変わらない。優秀だからといって配慮する必要はないと感じている。また、このようなアプリは、留学生に対して色々な学びの変化を取り入れると結構喜び、興味を持ってやる。当校でもやってみたいと思う。

【喜多事務局】ありがとうございます。来年度の実証実験の際には、ご協力の相談をさせていただきます。本年度スリランカの日本語学校での実証実験は、洪水の影響で見送りました。来年度できればと考えています。

次に、対話型音声ＡＩアプリのログ管理の概要についてご説明します。ログ管理をシステムに取り入れた目的は、アプリの使用者をグループ・クラスに分けてその学生の使用状況を管理者が把握することができるようにすること。誰でも見られるようになると知らない学生の状況になるため、グループ・クラスに分けて自分（管理者・教員）、もしくは自校の学生の状況が見られるようにしています。他校の状況は見られないように、ＩＤ・ＰＡＳＳをそれぞれに配布して管理できるようにしています。月別の学習時間、時間帯別、夜間や昼間に何時頃に使用しているか把握できることによって、個別に学習指導や生活指導につなげることができるようにしています。

また、学習管理システムのキーワードランキングが見られますが、これを活用することによって、クラス全体、学生がどのようなことに疑問を持っているのか、質問しているのかが把握できるようになります。このことにより、通常の授業内容の改定に役立つことができるようになると思われます。悩み事等についても把握できるようになると、早期に迅速な対応が可能になることを目的としています。ログ管理の実施クラスは６１名です。ＹＩＣ京都工科自動車大学校３７名、穴吹工科カレッジ２４名を見てみました。学習状況は、月別学習時間では実証実験を行った時期だけがほとんどでしたが、一部の学生は実験を継続して使用していることが分かりました。

キーワードは、車、自動車車といったキーワードがランキングの上位にあります。対象者

が自動整備系の専門学校で学んでいる留学生であったためと思われます。中にはお金のことや薬のこと、バス等の移動手段についてＡＩアプリに質問をしていることが分かりました

今年度、ログ管理の課題としては、実証実験以降の使用継続者が決して多いとはいえない、ただし、日本の日本語学校の実証実験を実施した時期は、反映してなかったため、追い切れていない状態です。アンケートの回答の中に写真やフリガナを入れてほしいとの改善希望がありましたが、すべてを叶えることはできないが検討していきたいと思います。ログ管理の画面ですが、学習管理システムとして、受験生の管理、学習状況の管理、キーワードをこのように見ることができます。ここでご意見を伺いたいと思います。

【稲永委員】この短期間の中で多くの実証実験に取り組んだことは、とても評価できる。確認だが、実証実験はアプリ改良のための位置づけだったか。アプリが３ステップになっているが、今現在、ステップ１しかない、ステップ２、ステップ３を開発するために、日本語学校と自動車整備系専門学校の学生を対象に実施したということか。

【喜多事務局】アンケートについてご説明した通り、日本語と数学の試験を入れています。次年度以降に、例えば、通常の授業を行うようなシラバス作成に役立てたいと思い、実証実験を行いました。

【稲永委員】分析方法は、実証に実証を重ね、その実証からのデータを次のアプリにどのように役立てるのかという目的に対して分析は試みられるものと私は思う。

よって、今日の学力の違いといったものはとても興味深いが、それが次年度のアプリ改良にどのようにつながるのか、おそらくまだ解析途中だと思うがつながるまでの分析が必要と感じた。特に国に寄らず、学力については準備性、レディネスがとても大事である。

まずは日本語と各国の言語の構造の違いが、どの程度距離に違いがあるかということ、それとは別に、もしかすると国に関係なく、学力の違いがアプリの使用した結果に響いてくるなど、能力の伸長に対して、どのような要素が関わりを持っているのか、といったことがある程度分かれば、これぐらいのスペックの人に対しては、このような機能があるとより望ましいとか、あるいは慣れた自由記述でも、このスペックでは実現できないが、これはできるといった細かい情報を多分得られる、細かい情報を得るのに必要なことがあるのかもしれないなと思った。

インプットやレディネスの部分を使用状況や間違いの状況とつなぎ合わせると、少ないが考えられることがあるともっと取得したデータも有意義に活用できると感じた。

【喜多事務局】ありがとうございます。今回の実証実験の結果から多角的に判断して、少しでも良いものにしていきたいと思っております。ログ管理について、内容もしくはログ管理は学生指導面や生活指導面、もしくは業内容の改訂等に利用できそうなのかご意見をいただきたいと思います。

【田中委員】担任の立場から考えると、学生の学習進行状況などが把握できるようになることは随分役立つかと思う。

【喜多事務局】ありがとうございます。留学生の数も増えている状況なため、担任の先生や指導担当の先生の負担が軽減できるようになればと思っています。次に、学生の進学につい

てご意見をいただきたいと思います。
【入江委員】東京近郊でも留学生の進学は増えている。ここ数年、自動車整備の学校は募集状況が大変好調な状況である。都市の中でも生活の中でも留学生を多く見かける。留学生は結構アプリをよく使っている場面を見ている。今回の実証実験の状況や結果の説明からでも、普段から色々なアプリを多く使っている学生だからこそ、もっと活用できると思う。これからどのようにして良い形へ持っていくかが非常に重要なポイントになると思う。
　ただ、このような取り組みがもっと広まっていくと、日本に来ても安心して学べると思う。点数的にも高い点数を取れない学生もアプリを使うことでもっと良い形で理解力が高まる学習環境が日本に整っているということを知ってもらえるきっかけにつながると、今後、進学にも拍車をかけて増えていくと思う。
　また、各学校の皆様が積極的に取り組んでいて、学生もたくさん使って利用していることは、やはり活用しやすいアプリであると感じた。
【喜多事務局】ありがとうございます。次に就職に関して役立てることができそうであるかお聞きしたいと思います。
【土井委員】留学生を採用の企業担当者に聞いたところ、留学生は、わからないことを教えてほしいことがあっても「もうわかりました」で終わってしまう。だが、実際わかってないことが非常に多い。教育側の説明で、今後のために、わからないことの追求が必要という話がある。このアプリでは、使用している学生がよく検索している内容はどのようなものか情報収集することは可能のか。
【喜多事務局】学生のログ管理の中でどのようなことを質問しているのかといったことは、見ることができますので、そういった事前の管理もできます。また、例えば担任の先生に日本人学生でも深夜１２時でも電話をかけてくる学生がいます、留学生の場合、夜間に相談しづらい時にＡＩを活用してもらったらと思っています。
【土井委員】是非、検索内容の情報収集を活用することで、改善していきたいと思う。
【喜多事務局】ありがとうございます。企業側からのご意見をいただきたいと思います。外国人労働者の方が当該のアプリを使用した場合、ログ管理は指導担当者の支援や人材育成に役立つと感じますか。
【川村委員】ログ管理は、直接会話をしている以外、アプリを使用していることが分かれば、会話以上のこともあると思うので役に立つと思う。
【杉本委員】弊社では１００人近くの外国籍社員が仕事をしているが、その中でネパール出身の比率が高い。学力の話があったが、ネパールの裾野が広がってきているイメージを持ちながら聞いていた。社内では学力レベルの見方はしてなかった。色々な試験で比較する場面あるので、そのような目線で見ようと感じている。ログ管理であるが、言葉の部分は、特殊な用語が多くでてくるため、その部分をしっかりと見ていければと感じている。人数が多い分、管理者部分は難しいことがあるかもしれないが、実証実験などを通して取り組んでいくとすごく良いものができると感じているので協力は惜しまない。
【喜多事務局】ありがとうございます。ご相談させていただきます。

（３）次年度に向けての課題の説明と意見交換が下記のとおり行われた。
【喜多事務局】来年度の令和８年度の実施予定内容ですが、カリキュラムポリシーは、留学生が自動車整備系専門学校へ入学して、自動車整備士養成施設のカリキュラムにスムーズについていくには何を学習したら良いのかといったところを狙いとする中で、カリキュラムフレームワークとして、日本語能力のさらなる向上、特に専門の日本語、聴解力、基礎知識の定着と応用力の養成、自動車の構造、視覚的、体験的理解を講座型の実証実験を行う予定です。カリキュラムの評価は、テストとアンケート分析をテキストマイニング等で進める方向です。本年度実施できなく課題として残っています実証実験以降の使用継続、ログ管理実施前の使用者のログイン方法の確立。アンケート回答で自由記入式に記載した受験者からの改善点の希望の実現化についての判断が必要だなと考えております。
　また、対応型音声ＡＩアプリの開発継続に加えて、講座型の実証実験の授業を行うためのシラバス・コマシラバスの開発をします。国内外の日本学校と自動車整備系専門学校用を作成し、実施する予定です。最終年度の令和９年度に向けた就職と定着として、インターンシップ等の実証実験を実施し、その評価から環境整備につなげる位置づけとして思います。ここでキャリアマップを活用することにおいて、配慮や注意点などについてご意見をいただきたいと思います。
【板倉委員】実証実験の結果日本語力と計算数学力のターゲット国の比較のところで、最初はスリランカが低く、そこから学力が上っていくということへの分析がどのようになるか分かりかねるが、スリランカの伸び率が高いという事実はある。環境適応力が高いという結びつきまでの調査に踏み込んでないことがある。
　要は、学んでないから点数が取れなかった、学ぶ短期間で伸びる力があるところを見たいというのが正直なところ。また、アプリを使っているのであれば、スリランカの留学生の使い方に何か特徴があれば、他の国も同じにすれば、もっと伸びるかもしれないところが気になる。
【喜多事務局】ありがとうございます。ご出席いただいています企業の委員の方々から企業側の立場としての意見をお聞きしたいと思います。
【杉本委員】国ごとに評価はしていない。どこの国が高い低いという見方はしていなく、個人の能力差を比較しているのが現状である。ただ、社内の試験が結構あるので、そこで何が分かるかわからないが、国ごとのレベル把握をしてみたいと感じている。
【板倉委員】キャリアマップは、在学中から学習成果をポートフォリオで上げていくような機能がある。卒業する前に就職活動の時に使っていく流れから卒業、就職してからのアカウントを持つところまでを一貫してつなげるシステムに一緒になっている。
　活用する場合は、学生が在学中に実証実験などに連携できる仕組みがあると就職までに学生ごとの学習成果をどのように活かすことができるかにつなげることが可能。そこで企業につなげることができれば、卒業後の活躍も含めて一貫して見られると思う。
【喜多事務局】ありがとうございます。必要になると思いますので、その際には、よろしく

お願いいたします。他に意見を聞きたいと思います。
【細谷委員】対話型ＡＩアプリのログ管理について、弊社では、まだ採用には至ってないが、留学生や外国籍従業員により深教育ができると思うと非常に有効と思った。留学生や外国籍従業員が使うことで不明点などを教員や指導者との双方向のコミュニケーションが成り立っていくと留学生や外国籍従業員の不安を払拭でき、仕事の定着につながると思った。
【喜多事務局】ありがとうございます。自動車整備系分野のみならず、どの業界に関しても外国籍労働者の力は、今後日本ではさらに必要になってくると思っています。その点も含めて活用していただければと思います。
【矢川委員】民間工場、つまり専業者の方々も外国人の雇用を進めている企業もだんだん増えてきているので、当該アプリの伝え方を教えてほしい。
【佐々木事業責任者】課題となっているのは、やはり日本語がなかなか通じない、勉強も積極的にする人としない人がいるので日本語能力が違う。外国籍の方を複数名採用しているところからの声では、同じ国の先輩に頼ってしまい勉強が疎かになっている。その先輩を通じてどのように対応するかを学んでいる状況が多い。日本語の勉強をもっとしてほしいと厳しいことを言われていますが、仕事が終わってからの勉強になるため、先生との対面授業の勉強の機会が難しい状況です。
そのため、この対話型ＡＩアプリはできる時間で使えることが一番のメリットになると思います。大きな事業者と比べて小さな認証工場などは、ログ管理まで対応できるかは定かではありませんが、ＡＩアプリを使って日本語を勉強する、整備の専門用語を勉強できることが理想的な形と思います。メーカー系はすでにノウハウを持っていて、中小はこれからが多いので、これがそのシステムになっていけばと思います。
【喜多事務局】ありがとうございます。全体を通してご意見をいただきたいと思います。
【貝原委員】ＡＩの活用やアプリの開発について、調査をしつつ、次年度以降も引き続き実証等と続けてしっかりと伝えてもらい、あと実際に企業にとっても留学生が受け入れやすいようなアプリになればと本当に思う。言語の壁や専門用語について日本人でも自動車整備の用語を聞いても理解できないものが多くあると思う、そこを海外の方であっても学ばないとわからない、あと日本語の揺れ、多分関西と関東でも「なおす」や「しまう」という言葉が違うというように、そういう日本語の揺れなどが少しずつ重なっていき海外の人が働きにくくなったり、企業側もコミュニケーションの壁が小さいものが積み上がりストレスになったりすることが、非常にもったいない話と思うので、このようなアプリでそのような小さいところも少しずつ解消しつつ、さらにこの事業として特有である専門的用語や就職して日本人であるとか外国人であるといったことは全く変わりないと思う、自動車整備業界は関係なく留学生の活躍に応援できればと考えている。そのような事業になっていければ良いと本当に思う。有識者の方々の検討など聞いてなるほどと思うこともあった。色々携わっている方が本当にこの事業にしっかりと真面目に取り組んでいただいていると改めて感じた。
【喜多事務局】ありがとうございます。
【佐々木事業責任者】お忙しい中、長時間にわたりまして、本事業に対するご意見をいただ

きました。いただいたご意見を糧にして、来年度以降に反映させていきたいと思います。また、分析が足りないところがあります。成果報告書にまとめている段階ですので、それができましたら皆様にご披露したいと思っています。本日は長時間ありがとうございました。等

３．その他（連絡事項等）

【喜多事務局】本日の第２回企画推進委員会が終了し、本年度の会議はこれで終了となります。委員の皆様には、会議謝金のお支払いの手続きを進めさせていただきます。順次、お振込先のご確認ができましたら、領収書を送付しますので、ご記入の上、当校にご返却いただければと存じます。等

４．閉　会

【喜多事務局】本日は、誠にありがとうございます。来年もよろしくお願い申し上げます。との言葉で会議散会となった。

【会議風景】





対話型音声ＡＩアプリを使用した実証実験テキスト

委託内容	専修学校の国際化推進事業	本事業名	自動車整備分野留学生ＥＭ事業（略称）	年度	令和７年度 （2025 年度）
実施校名	日本国内日本語学校	実施日	令和　年　月　日	実施形態	対面式

実証実験の概要	令和６年度に開発した対話型音声ＡＩアプリを使用した実証実験を行う。		
実験の到達目標	・学生が本事業で開発した対話型音声ＡＩアプリを活用しての使い勝手に関することなどの感想を聞き出し、まとめ、整理し、改善へつなげる。 ・ログの検証（利用状況の把握と監査・パフォーマンス分析・トラブルシューティング・セキュリティ対策等）を行いＳＴＥＰ２へつなげる。 ・受験生のキャリア（回答者の属性）を調査し、回答者による傾向値を分析する。		
受験対象者条件	・日本国内の日本語学校：日本に入国し、日本国内で学んでいるＮ５レベル以上の留学生（想定人数：２０人～２５人/クラス・校）		
使用するアプリ	「ＡＩ先生と日本語を学ぼう」	使用する資料	日本国内の日本語学校実証実験アンケート（様式 1） ※各アンケートには基礎学力テストを含む
機器、準備物	・プロジェクターまたはモニター（接続ケーブル含む） ・ノートＰＣおよびタブレット ・ポケット Wi-Fi ・ログイン用紙 ・アンケート用紙（基礎学力テスト含む）	関連サイト	URL

実証実験の構成（進め方・配分）

順番	場所	時間 （所要時間）	コマの構成/実施内容	備考
1	教室	１２：３５～１３：００ （２５分）	直前打合せ 教室準備 ネット環境の確認 プロジェクター等の確認 受験者（対象学生）入室	配布物・ＰＣ・タブレット等の準備
2	教室	１３：００～１３：１０ （１０分）	挨拶 本事業の紹介 実証実験の目的説明 ＰＲ動画も活用する（受験生の日本語理解度の確認にも活用）	ログイン用紙の配布

3	教室	１３：１０～１３：１５ （５分）	受験者のアプリ接続 自由に会話を行い、アプリに慣れてもらう。	―
4	教室	１３：１５～１３：３５ （２０分）	シチュエーション毎の会話（各約３分） ①移動について ②買物について ③病気のときについて ④自動車について ⑤アルバイトや役所関係について	ＰＰＴにてシチュエーションを表示
5	教室	１３：３５～１４：００ （２５分）	アンケートとまとめ （日本語力・数学力含む）	アンケート用紙の配布
6	控室	１４：００～	意見交換	状況により終了時間は調整

実証実験アンケート項目

1．使い方は簡単でしたか？　2．ＡＩとの会話は役に立ちましたか？　3．ＡＩの日本語はわかりやすかったですか？
4．ＡＩアプリを使うと日本語の勉強が楽しくなりそうですか？　5．良かったところは何ですか？　6．改善してほしいところは何ですか？
7．今後もこのＡＩアプリを使いたいですか？　8．ＡＩアプリで勉強するとき、困ったことはありましたか？あれば教えてください。
9．ＡＩとの会話内容は実生活で使えそうですか？　10．実験でＡＩアプリを使った時間はちょうどよかったですか？
11．ＡＩの反応は早かったですか？　12．他に使ってみたい機能はありますか？あれば教えてください。
上記に加えて、日本語力・これまでに学んだ教育についてのアンケート（テスト形式）

対話型音声ＡＩアプリ・ログ管理内容　※実証実験終了後に各自のアプリの使用状況であるため、受験者を受講生と表記

管理者側機能①
【受講生情報】
1.受講生氏名　2.生年月日　3.年齢　4.入国日（海外の日本語学校の場合は予定）　5.出身国　6.日本語学習時間（アプリ使用前）
7.日本語レベル（JLPT）　8.メールアドレス　9.電話番号
管理者側機能②
【受講状況（アプリ使用状況）】
1.過去６ヶ月分の月別使用時間の表示
2.一月の日別使用時間の表示
3.一日の時間帯別使用時間の表示
管理者側機能③
【キーワード】
各受講生がアプリ内で行った会話の中で、多く発したキーワードをランキング形式で表示（過去６ヶ月のキーワード）

令和７年度 文部科学省 委託事業 「専修学校の国際化推進事業」

自動車整備分野の外国人留学生（受入れ/在学/就職/定着）のための
エンロールメント・マネジメントモデル事業

対話型音声AIアプリを使用した実証実験

学校法人YIC学院 〈専〉YIC京都工科自動車大学校

1

はじめに

私たち、〈専〉YIC京都工科自動車大学校は
2024 年度から文部科学省から委託を受けて、
留学生の方が安心して日本で学び、就職し、定着していける
プログラムを制作しています。

今回は、留学生のために制作中の
音声対話型AI アプリの実験を行います。

学校法人YIC学院 〈専〉YIC京都工科自動車大学校

2

わたしは

〈専〉YIC京都工科自動車大学校

喜多　好洋

よろしくお願いします。



学校法人YIC学院　〈専〉YIC京都工科自動車大学校

3



4

文科省委託事業：自動車整備分野留学生EM事業

音声AIアプリシチュエーション（案）

STEP2（中級）「日本国内の日本語学校学生向け」
日本入国後に留学生が不足しているマナーや生活術。

1)「移動に関するシチュエーション」
2)「買い物に関するシチュエーション」
3)「病気の時のシチュエーション」
4)「自動車の基礎を学ぶシチュエーション」
5)「入国後すぐに学ぶ内容」
※留学生が日本語学校にて最初に学ぶ内容
※発展型もあるとよい
6)「アルバイトや役所に関するシチュエーション」



© Copyright 2024 Access YIC-Kyoto.ac.

作成：事務局 YIC学院　事業開発推進役　喜多　好洋

12

5

それでは

ログイン用（よう）のQRコードを配布（はいふ）します。

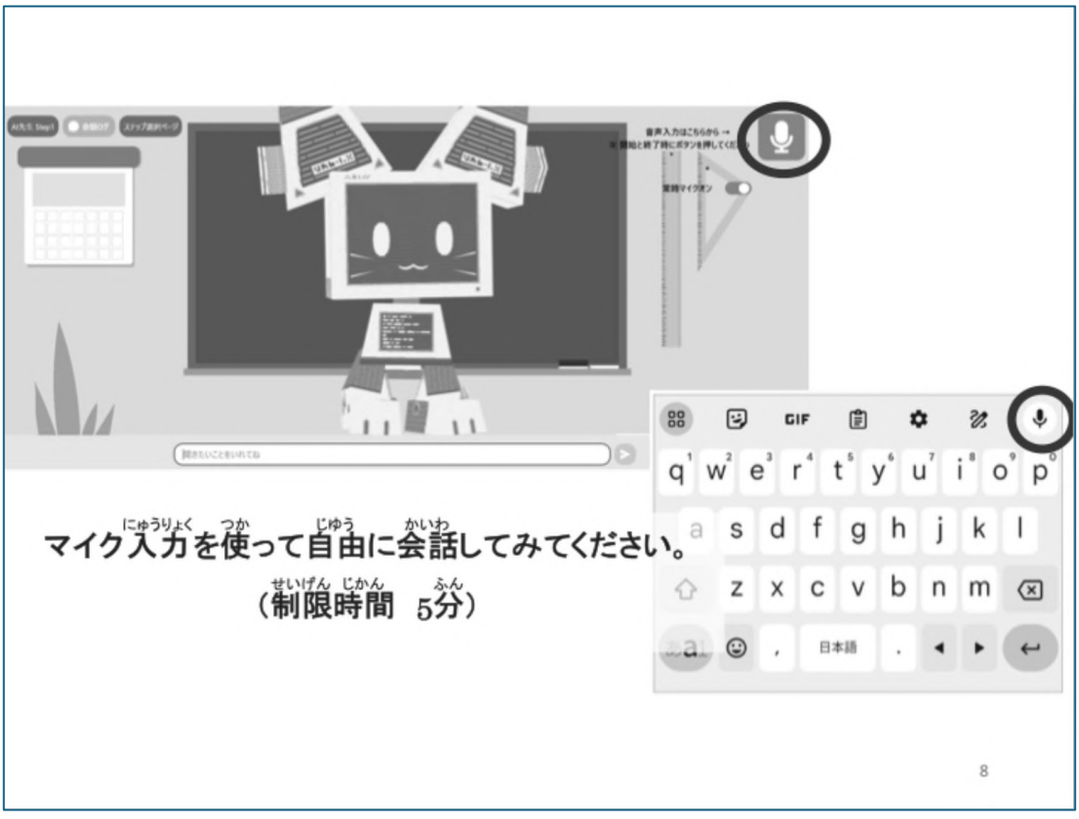
https://grace-planning-step1.kagemusha-dh.com/login/



学校法人YIC学院　〈専〉YIC京都工科自動車大学校

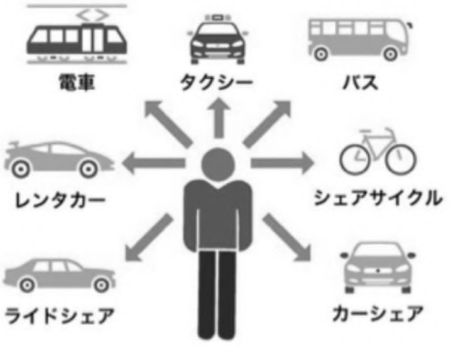
6


「AI先生と日本語を学ぼう」
自分のレベルにあわせて先生を選んでください
STEP1（初級）
STEP2（中級）coming soon
STEP3（上級）coming soon
〈専〉YIC 京都工科自動車大学校
7


マイク入力を使って自由に会話してみてください。
（制限時間　5分）
8

移動手段（電車やバス、タクシーや自転車）について
質問してみてください。
（制限時間　3分）





9

買物について
質問してみてください。
（制限時間　3分）





10

病気のとき（病院や薬、救急車や夜間診療）について

質問してみてください。

（制限時間　3分）









11

自動車（運転免許や事故、修理、好きな車やバイク）

について

質問してみてください。

（制限時間　3分）









12

アルバイトや役所での手続きについて

質問してみてください。

（制限時間　3分）





13

実証実験は以上です。

ありがとうございました。

アンケート用紙を配布しますのでご記入ください。

アンケートの中には簡単な日本語の問題や計算の問題が含まれています。

テストではありませんので、安心してください。

けれど、しっかりと解いてくださいね。

学校法人YIC学院 〈専〉YIC京都工科自動車大学校

14

委託内容	専修学校の国際化推進事業	本事業名	自動車整備分野留学生ＥＭ事業（略称）	年度	令和７年度 （2025 年度）
実施校名	自動車整備系専門学校	実施日	令和　年　月　日	実施形態	対面式

実証実験の概要	令和６年度に開発した対話型音声ＡＩアプリを使用した実証実験を行う。
実験の到達目標	・学生が本事業で開発した対話型音声ＡＩアプリを活用しての使い勝手に関することなどの感想を聞き出し、まとめ、整理し、改善へつなげる。 ・ログの検証（利用状況の把握と監査・パフォーマンス分析・トラブルシューティング・セキュリティ対策等）を行いＳＴＥＰ２へつなげる。 ・受験生のキャリア（回答者の属性）を調査し、回答者による傾向値を分析する。
受験対象者条件	・自動車整備系専門学校日本語学校を卒業し、自動車整備専門学校で学んでいるＮ４レベル以上の留学生 （想定人数：20 人～25 人/ｸﾗｽ・校）

使用するアプリ	「ＡＩ先生と日本語を学ぼう」	使用する資料	自動車整備系専門学校実証実験アンケート（様式 2） ※各アンケートには基礎学力テストを含む
機器、準備物	・プロジェクターまたはモニター（接続ケーブル含む） ・ノートＰＣおよびタブレット ・ポケット Wi-Fi ・ログイン用紙 ・アンケート用紙（基礎学力テスト含む）	関連サイト	URL

実証実験の構成（進め方・配分）

順番	場所	時間 （所要時間）	コマの構成/実施内容	備考
1	教室	１３：１０～１３：４０ （３０分）	直前打合せ 教室準備 ネット環境の確認 プロジェクター等の確認 受験者（対象学生）入室	配布物・ＰＣ・タブレット等の準備
2	教室	１３：４０～１３：５０ （１０分）	挨拶 本事業の紹介 実証実験の目的説明 ＰＲ動画も活用する（受験生の日本語理解度の確認にも活用）	ログイン用紙の配布

3	教室	１３：５０～１３：５５ （５分）	受験者のアプリ接続 自由に会話を行い、アプリに慣れてもらう。	―
4	教室	１３：５５～１４：１５ （２０分）	シチュエーション毎の会話（各約３分） ①自動車用語について ②工具の名前や和製英語について ③接客や上司との会話について ④基礎工学・メーカーによる部品名称等の違いについて ⑤ビジネスマナーについて	ＰＰＴにてシチュエーションを表示
5	教室	１４：１５～１４：４０ （２５分）	アンケートとまとめ （日本語力・数学力含む）	アンケート用紙の配布
6	控室	１４：４０～	意見交換	状況により終了時間は調整

実証実験アンケート項目

1．使い方は簡単でしたか？　2．ＡＩとの会話は役に立ちましたか？　3．ＡＩの日本語はわかりやすかったですか？
4．ＡＩアプリを使うと日本語の勉強が楽しくなりそうですか？　5．良かったところは何ですか？　6．改善してほしいところは何ですか？
7．今後もこのＡＩアプリを使いたいですか？　8．ＡＩアプリで勉強するとき、困ったことはありましたか？あれば教えてください。
9．ＡＩとの会話内容は実生活で使えそうですか？　10．実験でＡＩアプリを使った時間はちょうどよかったですか？
11．ＡＩの反応は早かったですか？　12．他に使ってみたい機能はありますか？あれば教えてください。
上記に加えて、日本語力・これまでに学んだ教育についてのアンケート（テスト形式）

対話型音声ＡＩアプリ・ログ管理内容　※実証実験終了後に各自のアプリの使用状況であるため、受験者を受講生と表記

管理者側機能①
【受講生情報】
1.受講生氏名　2.生年月日　3.年齢　4.入国日（海外の日本語学校の場合は予定）　5.出身国　6.日本語学習時間（アプリ使用前）
7.日本語レベル（JLPT）　8.メールアドレス　9.電話番号
管理者側機能②
【受講状況（アプリ使用状況）】
1.過去６ヶ月分の月別使用時間の表示
2.一月の日別使用時間の表示
3.一日の時間帯別使用時間の表示
管理者側機能③
【キーワード】
各受講生がアプリ内で行った会話の中で、多く発したキーワードをランキング形式で表示（過去６ヶ月のキーワード）

令和７年度 文部科学省 委託事業 「専修学校の国際化推進事業」

自動車整備分野の外国人留学生（受入れ/在学/就職/定着）のための
エンロールメント・マネジメントモデル事業

対話型音声AIアプリを使用した実証実験

学校法人YIC学院 〈専〉YIC京都工科自動車大学校

1

はじめに

私たち、〈専〉YIC京都工科自動車大学校は
2024年度から文部科学省から委託を受けて、
留学生の方が安心して日本で学び、就職し、定着していける
プログラムを制作しています。

今回は、留学生のために制作中の
音声対話型AIアプリの実験を行います。

学校法人YIC学院 〈専〉YIC京都工科自動車大学校

2

わたしは

〈専〉YIC京都工科自動車大学校

喜多　好洋

よろしくお願いします。



学校法人YIC学院　〈専〉YIC京都工科自動車大学校

3



4

文科省委託事業：自動車整備分野留学生EM事業

AIアプリ　シチュエーション

STEP1（初級）「海外の日本語学校学生向け」

1)「朝おきてから登校するまで」
2)「学校での生活」
3)「下校から帰宅後夕食前まで」
4)「夕食から就寝まで」
5)「日本でのマナーや日本文化」

STEP2（中級）「日本国内の日本語学校学生向け」

1)「移動に関するシチュエーション」
2)「買い物に関するシチュエーション」
3)「病気の時のシチュエーション」
4)「自動車の基礎を学ぶシチュエーション」
5)「入国後すぐに学ぶ内容」
6)「アルバイトや役所に関するシチュエーション」

STEP3（上級）「整備専門学校学生・社会人向け」

1) 自動車整備士資格習得に向けた専門用語
2) 専門学校の学習環境のシチュエーション
3) 自動車整備業界のシチュエーション
4) 基礎自動車工学・メーカーによる部品名称等の違い
5) ビジネスマナー・BtoB・電話や窓口に関するシチュエーション



作成：事務局 YIC学院　事業開発推進役　喜多　好洋

5

それでは

ログイン用（よう）のQRコードを配布（はいふ）します。

https://japanese-learning-app-management.vercel.app/

Room3



学校法人YIC学院　〈専〉YIC京都工科自動車大学校

6


学習管理システム
管理者・受講生ログイン
学習進捗の管理
受講生サポート
セキュアなアクセス
ログイン
ユーザー種別を選択してログインしてください
学生
管理者
学生ID
学生IDを入力
Room
Roomを選択
Room3
パスワード
パスワードを入力
Yic○○○
ログイン
ログインに問題がある場合は、管理者にお問い合わせください

7


「AI先生と日本語を学ぼう」
自分のレベルにあわせて先生を選んでください
STEP1（初級）
STEP2（中級）coming soon
STEP3（上級）coming soon
〈専〉YIC 京都工科自動車大学校

8



マイク入力を使って自由に会話してみてください。

（制限時間　5分）

9

自動車整備士資格習得に向けた専門用語

自動車用語について

質問してみてください。

（制限時間　3分）





10

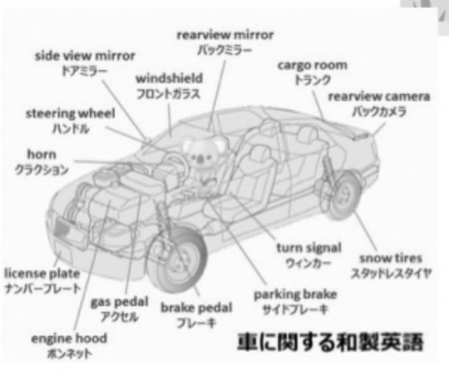
専門学校の学習環境のシチュエーション

工具の名前や和製英語について

（制限時間　3分）







11

自動車整備業界のシチュエーション

接客や上司との会話について

質問してみてください。

（制限時間　3分）







12

基礎自動車工学・

メーカーによる部品名称等の違いについて

質問してみてください。

（制限時間　3分）







ホンダ　CBR250RR

排気量(㎤)

249

内径×行程(mm)

62.0×41.3

3.1×3.1×3.14×4.13

半径　半径　円周率　行程

＝124.62

1気筒当たりの排気量

124.62×2＝249.24

気筒数　総排気量

13

ビジネスマナー・BtoB・電話や窓口に関するシチュエーション

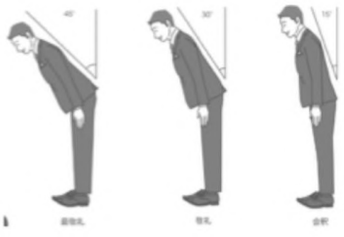
ビジネスマナーについて

質問してみてください。

（制限時間　3分）

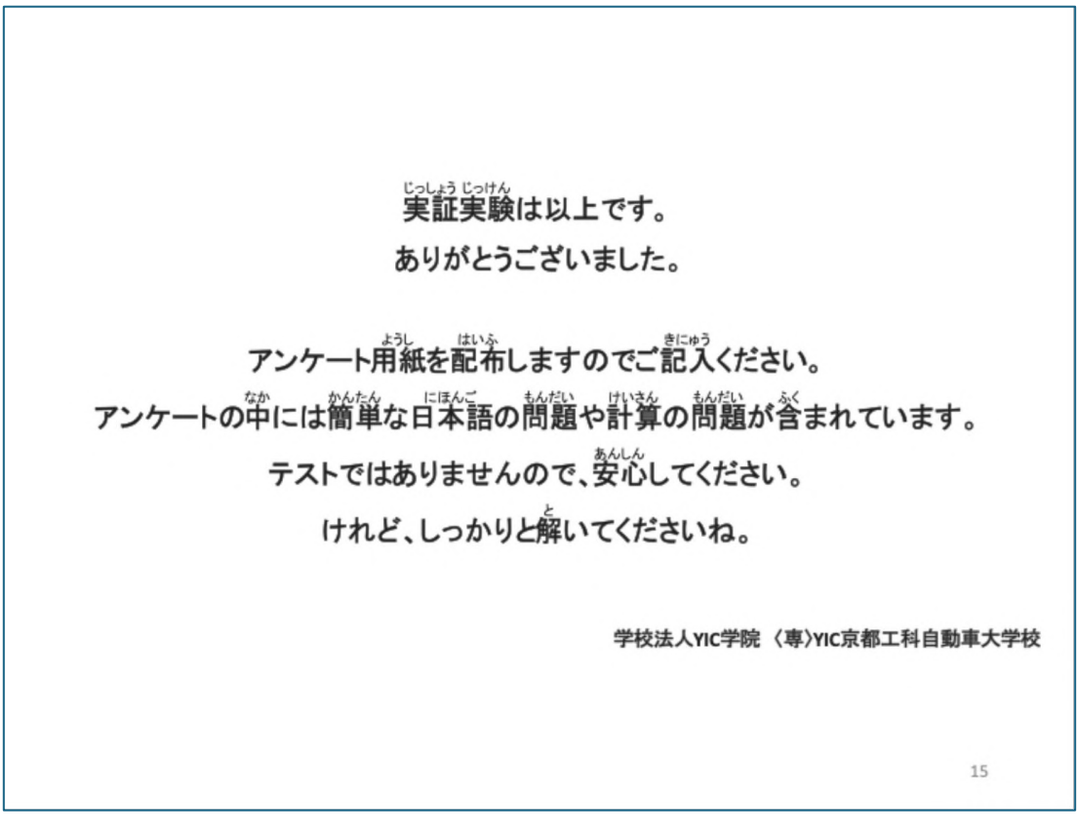








14


実証実験は以上です。
ありがとうございました。
アンケート用紙を配布しますのでご記入ください。
アンケートの中には簡単な日本語の問題や計算の問題が含まれています。
テストではありませんので、安心してください。
けれど、しっかりと解いてくださいね。
学校法人YIC学院 〈専〉YIC京都工科自動車大学校
15

委託内容	専修学校の国際化推進事業	本事業名	自動車整備分野留学生ＥＭ事業（略称）	年度	令和７年度 （2025 年度）
実施校名	海外日本語学校	実施日	令和　年　月　日	実施形態	対面式

実証実験の概要	令和６年度に開発した対話型音声ＡＩアプリを使用した実証実験を行う。		
実験の到達目標	・学生が本事業で開発した対話型音声ＡＩアプリを活用しての使い勝手に関することなどの感想を聞き出し、まとめ、整理し、改善へつなげる。 ・ログの検証（利用状況の把握と監査・パフォーマンス分析・トラブルシューティング・セキュリティ対策等）を行いＳＴＥＰ２へつなげる。 ・受験生のキャリア（回答者の属性）を調査し、回答者による傾向値を分析する。		
受験対象者条件	・日本語を学び始め、日本留学に必要なＮ５レベル相当を目指す学生 （想定人数：20 人～25 人/国）		
使用するアプリ	「ＡＩ先生と日本語を学ぼう」	使用する資料	海外の日本語学校実証実験アンケート（様式 3） ※各アンケートには基礎学力テストを含む
機器、準備物	・プロジェクターまたはモニター（接続ケーブル含む） ・ノートＰＣおよびタブレット ・ポケット Wi-Fi ・ログイン用紙 ・アンケート用紙（基礎学力テスト含む）	関連サイト	URL

実証実験の構成（進め方・配分）

順番	場所	時間 （所要時間）	コマの構成/実施内容	備考
1	教室	１２：００～１３：００ （６０分）	直前打合せ 教室準備 ネット環境の確認 プロジェクター等の確認 受験者（対象学生）入室	配布物・ＰＣ・タブレット等の準備
2	教室	１３：１０～１３：１０ （１０分）	挨拶 本事業の紹介 実証実験の目的説明 ＰＲ動画も活用する（受験生の日本語理解度の確認にも活用）	ログイン用紙の配布
3	教室	１３：１０～１３：１５ （５分）	受験者のアプリ接続 自由に会話を行い、アプリに慣れてもらう。	―

4	教室	１３：１５～１３：３５ （２０分）	シチュエーション毎の会話（各約３分） ①朝起きてから登校するまで ②学校での生活 ③下校から帰宅後夕食前まで ④夕食から就寝まで ⑤日本でのマナーや日本文化	ＰＰＴにてシチュエーションを表示
5	教室	１３：３５～１４：００ （２５分）	アンケートとまとめ （日本語力・数学力含む）	アンケート用紙の配布
6	控室	１４：００～	意見交換	状況により終了時間は調整

実証実験アンケート項目

1．使い方は簡単でしたか？　2．ＡＩとの会話は役に立ちましたか？　3．ＡＩの日本語はわかりやすかったですか？
4．ＡＩアプリを使うと日本語の勉強が楽しくなりそうですか？　5．良かったところは何ですか？　6．改善してほしいところは何ですか？
7．今後もこのＡＩアプリを使いたいですか？　8．ＡＩアプリで勉強するとき、困ったことはありましたか？あれば教えてください。
9．ＡＩとの会話内容は実生活で使えそうですか？　10．実験でＡＩアプリを使った時間はちょうどよかったですか？
11．ＡＩの反応は早かったですか？　12．他に使ってみたい機能はありますか？あれば教えてください。
上記に加えて、日本語力・これまでに学んだ教育についてのアンケート（テスト形式）

対話型音声ＡＩアプリ・ログ管理内容　※実証実験終了後に各自のアプリの使用状況であるため、受験者を受講生と表記

管理者側機能①
【受講生情報】
1.受講生氏名　2.生年月日　3.年齢　4.入国日（海外の日本語学校の場合は予定）　5.出身国　6.日本語学習時間（アプリ使用前）　7.日本語レベル（JLPT）　8.メールアドレス　9.電話番号
管理者側機能②
【受講状況（アプリ使用状況）】
1.過去６ヶ月分の月別使用時間の表示　2.一月の日別使用時間の表示　3.一日の時間帯別使用時間の表示
管理者側機能③
【キーワード】
各受講生がアプリ内で行った会話の中で、多く発したキーワードをランキング形式で表示（過去６ヶ月のキーワード）


令和７年度 文部科学省 委託事業 「専修学校の国際化推進事業」
自動車整備分野の外国人留学生（受入れ/在学/就職/定着）のための
エンロールメント・マネジメントモデル事業
対話型音声AIアプリを使用した実証実験
A demonstration experiment using an interactive voice AI app
学校法人YIC学院 〈専〉YIC京都工科自動車大学校
YIC Academy, Kyoto University Automobile College
1


〈専〉YIC京都工科自動車大学校は文部科学省から委託を受けて、
留学生の方が安心して日本で学び、就職し、定着していける
プログラムを制作しています。
Commissioned by the Ministry of Education, Culture, Sports
Science and Technology, Kyoto University (YIC) is working
create a program that allows international students to study,
work and live in Japan with peace of mind.
学校法人YIC学院 〈専〉YIC京都工科自動車大学校
YIC Academy, Kyoto University Automobile College
2

今回(こんかい)は、留学生(りゅうがくせい)のために制作中(せいさくちゅう)の
音声対話型(おんせいたいわがた)AI アプリの実験(じっけん)を行います。

This time, we will be conducting an experiment with a
voice-based interactive AI app currently
in development for international students.

学校法人YIC学院 〈専〉YIC京都工科自動車大学校
YIC Academy, Kyoto University Automobile College

3

わたしは、〈専〉YIC京都工科自動車大学校(きょうとこうかじどうしゃだいがっこう)の
喜多(きた) 好洋(よしひろ) です。よろしくお願(ねが)いします。

My name is Yoshihiro Kita from the YIC Academy
at Kyoto University Automobile College.
Nice to meet you.



学校法人YIC学院 〈専〉YIC京都工科自動車大学校
YIC Academy, Kyoto University Automobile College

4

もう一人を紹介します。彼は川嵜洋一。

海外から日本に来て学ぶためには何が必要か？

について研究しています。

Let me introduce one more person.

His name is Kawasaki Yoichi.

He is researching what is needed to come to Japan from overseas to study?

学校法人YIC学院 〈専〉YIC京都工科自動車大学校
YIC Academy, Kyoto University Automobile College

5

文科省委託事業：自動車整備分野留学生EM事業



AI アプリ実証実験シチュエーション

AI app demonstration experiment items

STEP1 （初級） 海外の日本語学校学生向け」

STEP 1 (Beginner) "For students of Japanese language schools overseas"

1)「朝おきてから登校するまで」 1) "From waking up in the morning until going to school"

2)「学校での生活」 2) "Life at School"

3)「下校から帰宅後夕食前まで」 3) "From after school until after returning home and before dinner."

4)「夕食から就寝まで」 4) From dinner to bedtime

5)「日本でのマナーや日本文化」 5) "Manners in Japan and Japanese culture"

学校法人YIC学院 〈専〉YIC京都工科自動車大学校
YIC Academy, Kyoto University Automobile College

6

それでは

ログイン用のQRコードを配布します。

https://japanese-learning-app-management.vercel.app/

Room4

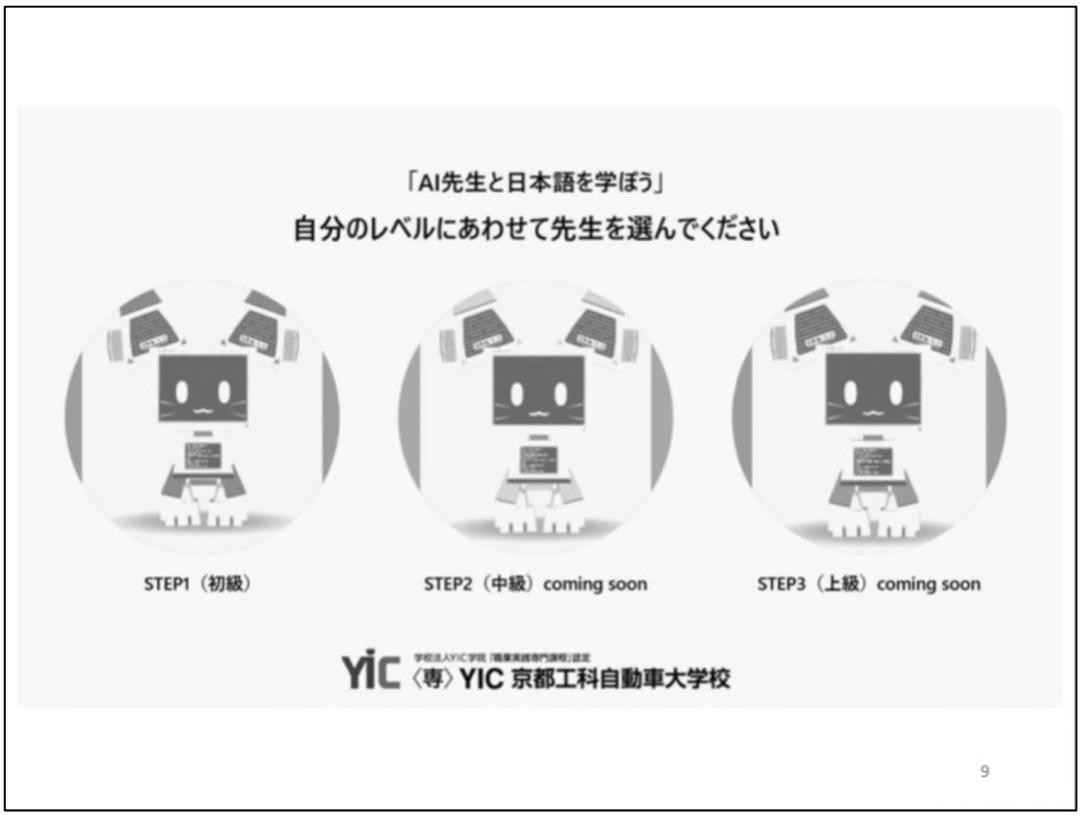


学校法人YIC学院 〈専〉YIC京都工科自動車大学校

7



8


「AI先生と日本語を学ぼう」
自分のレベルにあわせて先生を選んでください
STEP1（初級）
STEP2（中級）coming soon
STEP3（上級）coming soon
〈専〉YIC 京都工科自動車大学校
9


マイク入力を使って自由に会話してみてください。
Please use the microphone input to talk freely
（制限時間　5分）
(Time limit: 5 minutes)
10

日本の朝起きてから登校するまでについて
質問してみてください。
（制限時間　3分）



Please ask a question about the Japanese morning routine from waking up to going to school.
(Time limit: 3 minutes)





11

日本での学校生活について
質問して下さい。
（制限時間　3分）



Please ask questions about school life in Japan.
(Time limit: 3 minutes)





12

日本の下校と帰宅後、夕食前までについて
質問してみてください。
（制限時間　3分）



When you come home from school in Japan,
ask what you do before dinner.
(Time limit: 3 minutes)





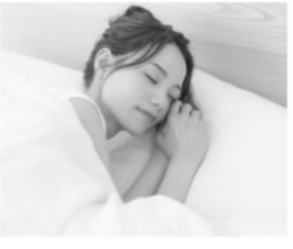
13

夕食後の就寝までについて
質問してみてください。
（制限時間　3分）



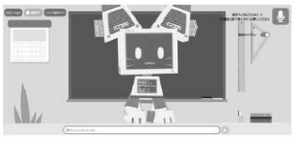
Ask them what they do after dinner and before bedtime.
(Time limit: 3 minutes)



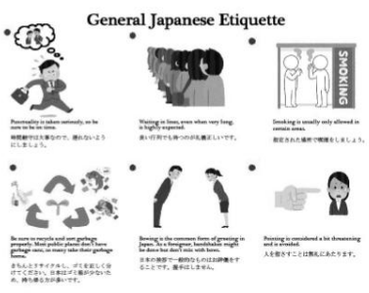


14

日本でのマナーや日本文化について
質問してみてください。
（制限時間　3分）



Ask questions about Japanese etiquette and culture.
(Time limit: 3 minutes)





15

実証実験は以上です。ありがとうございました。

This concludes the demonstration experiment.Thank you very much.

アンケート用紙を配布しますのでご記入ください。

We will distribute a questionnaire so please fill it out.

アンケートの中には簡単な日本語の問題や計算の問題が含まれています。

The questionnaire includes simple Japanese questions
and calculation questions.

テストではありませんので、安心してください。

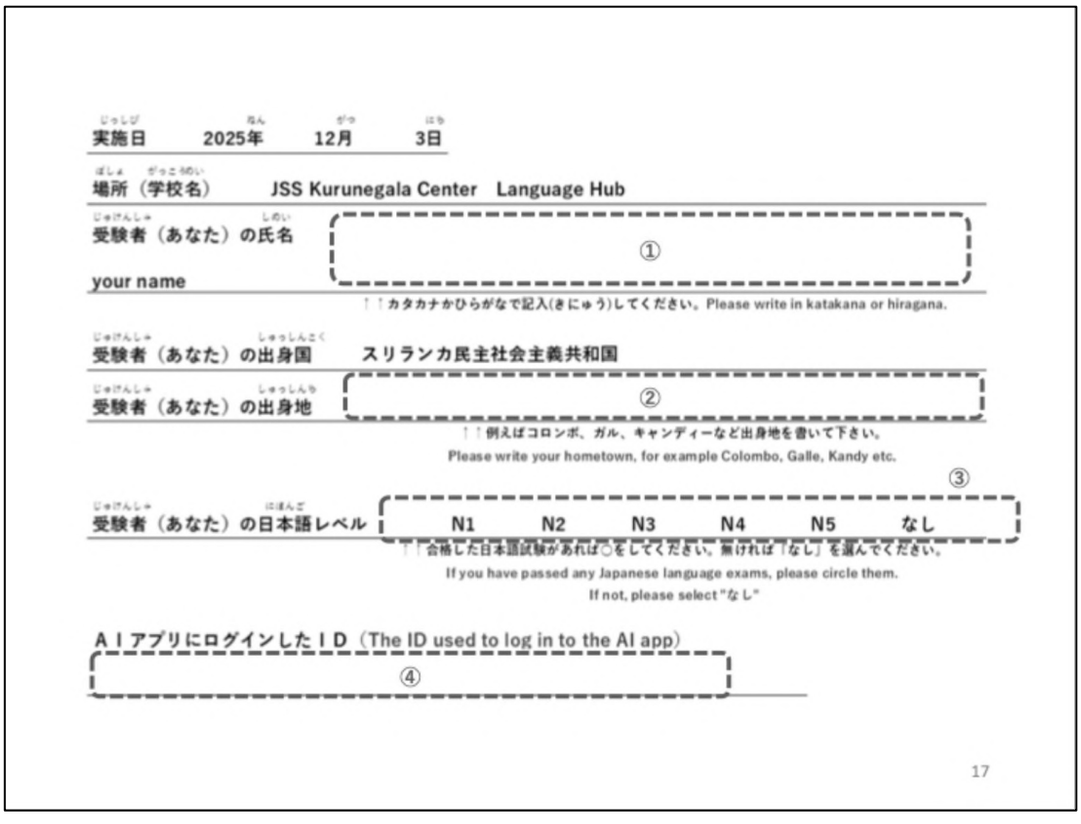
スリランカで学ぶ内容かについて調べています。

Don't worry, this is not a test.
I'm looking into whether it's being taught in schools in Sri Lanka.

けれど、しっかりと解いてくださいね。

However, please answer seriously.

16



実施日　2025年　12月　3日

場所（学校名）　JSS Kurunegala Center　Language Hub

受験者（あなた）の氏名　①

your name

↑↑カタカナかひらがなで記入(きにゅう)してください。Please write in katakana or hiragana.

受験者（あなた）の出身国　スリランカ民主社会主義共和国

受験者（あなた）の出身地　②

↑↑例えばコロンボ、ガル、キャンディーなど出身地を書いて下さい。

Please write your hometown, for example Colombo, Galle, Kandy etc.

③

受験者（あなた）の日本語レベル　N1　N2　N3　N4　N5　なし

↑↑合格した日本語試験があれば○をしてください。無ければ「なし」を選んでください。

If you have passed any Japanese language exams, please circle them.

If not, please select "なし"

ＡＩアプリにログインしたＩＤ（The ID used to log in to the AI app）

④

17

■MEMO

本「成果報告書」は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、≪学校法人ＹＩＣ学院 〈専〉ＹＩＣ京都工科自動車大学校≫が実施した令和７年度 専修学校の国際化推進事業「外国人留学生の戦略的受入れ、円滑な就職および定着に向けた体制整備」自動車整備分野の外国人留学生（受入れ／在学／就職／定着）エンロールメント・マネジメントモデル事業の成果をとりまとめたものです。

令和７年度 専修学校の国際化推進事業
「外国人留学生の戦略的受入れ、円滑な就職および定着に向けた体制整備」

自動車整備分野の外国人留学生（受入れ／在学／就職／定着）エンロールメント・マネジメントモデル事業 成果報告書

令和 ８年 ２月発行

発行所・連絡先

学校法人ＹＩＣ学院〈専〉ＹＩＣ京都工科自動車大学校
〒164-0001 京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町 27 番地
TEL 075-371-4040 FAX 075-343-3821
https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/

本書の内容を無断で転記、転載することを禁じます。